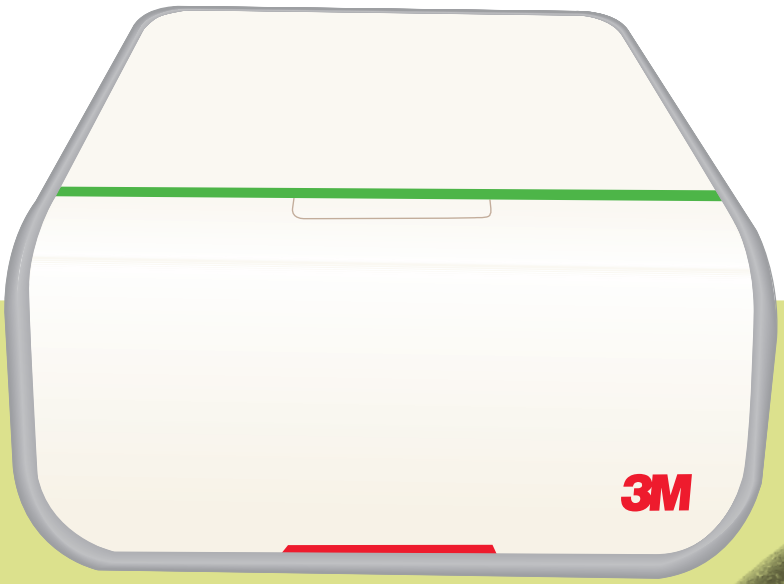
MDS100

JA ３M病原菌検出システムユーザーマニュアル



発行日：2011-11

３M病原菌検出システムユーザーマニュアル MDS100

目次

目次 1
本マニュアルの使用について 3
　用途 3
　ユーザーの使用責任 4
安全に関する情報 4
ご利用にあたってのご注意 4
装置仕様 6
　電気的仕様 6
　環境動作条件 6
　装置仕様 6
規制情報 7
　安全基準 7
　EMC基準 7
　ヨーロッパ指令 7
　規制当局認証マーク 7
　FCC 情報 7
3M 病原菌検出システムのセットアップ 7
　パッケージ内容 7
　最低動作環境 8
　装置の開梱とセットアップ 8
　ソフトウェアのインストール 10
3M病原菌検出ソフトウェアの操作 18
　ログイン 18
　スタートページの使用 19
　折りたたみサイドバーの使用 19
　メニューバーの使用 20
　ステータスバーの使用 21
　ソフトウェアのシャットダウン 21
　ログアウト 21
　装置のステータスのモニタリング 21
管理情報の設定 24
　ユーザー 24
　ユーザーの追加 24
　ユーザーの削除 25
　ユーザーの非表示 25
パスワードの変更 25
　ユーザーの表示 25
　装置 26
　装置の追加 26
　装置の非表示 27
　装置の順番の変更 27
　装置の削除 27
　装置の表示 28
　フィールドの設定 28
　検体 30
　検体の追加 31
　検体の修正 31
　検体の削除 31
　検体の非表示 31
　検体のインポート 32
　検体の転送 34
　アッセイキット 34
　アッセイキットの追加 34
　アッセイキットの削除 35
　アッセイキットの非表示 35

ランの実行 36
新しいランのセットアップ 36
ランの開始 40
新しいランのインポート 40
ラン定義の出力 41
アッセイタイプ別ランの表示 41
テンプレートとしてランを保存 42
テンプレートからの新しいランのセットアップ 42
ラン結果の表示 44
ラン結果のエクスポート 47
ランレポートの作成 48
ランレイアウトレポート 48
ランレポート 48
装置温度記録 48
保存したランを開く 48
ランの削除 49
管理レポートの作成 51
結果の検索レポートの作成 51
検体レポートの作成 52
アッセイキットレポートの作成 53
完了済みランレポートの作成 54
記録の検証レポートの作成 55
ユーザーのレポートの作成 56
装置のセルフチェックの結果レポートの作成 56
装置温度記録レポートの作成 57
用語と定義 58
管理者のタスク 59
バックアップからのデータベース復元 59
バックアップからのデータベースの復元 63
ソフトウェアのアンインストール 66
すべてのプログラムメニュー 66
Uninstall.exe 66
コントロールパネル 66
3M病原菌検出装置のセルフチェックの操作 67
実行する前に 67
セルフチェックの開始 68
エラーログファイルの表示 68
Windows XPのファームウェアのアップグレード 68
Windows 7およびVistaにおけるファームウェアのアップグレード 71
装置のクリーニングと消毒 76
外表面のクリーニング 76
内部の消毒 76
修理のために3Mに装置を返送する際の梱包 78
トラブルシューティング 80
3M 病原菌検出装置のトラブルシューティング 80
3M 分子検出ソフトウェアのインストールに関するトラブルシューティング 81
3M 分子検出ソフトウェアの操作に関するトラブルシューティング 83
製品およびサービス情報に関する3Mへの問い合わせ 84
3M技術サポート 84
商標 84
付録 84
レポート見本 85
結果の検索 85
検体レポート 86
アッセイキットレポート 87
完了済みランレポート 88
ユーザーレポート 89
装置のセルフチェックレポート 90
装置温度記録 91
ログのチェック 92
ランレイアウト 93
ランレポート（グラフ表示あり） 94
インポート／エクスポートファイル見本 96
カンマ区切り値（.CSV）ファイル検体 96
カンマ区切り値（.CSV）ファイルの検査セットアップ 96
ラン結果のカンマ区切り値（.CSV）ファイル 97
ライセンス契約 98

本マニュアルの使用について

1. 3M™ 分子検出システムユーザーマニュアルは電子フォーマットのみでの提供となります。ユーザーマニュアルにアクセスするには、メニューバーの**[Help（ヘルプ）]**をクリックして、ユーザーマニュアルを選択してください。
2. 目的の項目には、目次の該当項目をクリックすると飛びます。ユーザーマニュアルをスクロールして（ページを前後に進めて）表示することもできます。
3. 3M 分子検出ソフトウェアの最新版には、本ユーザーマニュアルの最新版が添付され、ソフトウェアと一緒に自動的にインストールされます。
4. 本ユーザーマニュアルでは、3M病原菌検出システムソフトウェアの操作と動作を紹介し、ユーザーが実行する操作方法をステップ毎に説明します。構成上、大半のユーザーは、特定タスクを実行する場合に、当該タスクの目次を検索して、ステップ毎の指示に従うとの想定に立っています。
5. ソフトウェアの使用に関するステップ毎の説明は、以下の形式のガイドラインが使用されています。
   a. *イタリック体*ーウィンドウ名
   b. **太字**ーウィンドウ上に表示されるテキスト
   c. **[大かっこ（[ ]）内の太字]**ーウィンドウ上でクリックすることのできるボタン名

用途

3M™病原菌検出装置は、3M™病原菌検出アッセイとの併用を目的とする製品で、等温増幅および生物発光の利用により、前培養した食品、食品加工環境検体中に含まれる病原菌を迅速に検出することができます。３M病原菌検出装置で使用可能な3M 病原菌検出アッセイの最新リストにつきましては、3M食品衛生部門までお問い合わせください。3Mでは、3M病原菌検出装置と他社のアッセイとの併用を目的としての設計および検証を行っておりません。本製品は3Mによって設計、供給される電源モジュールのみ併用するよう設計、試験が行われています。3Mは、3M病原菌検出装置および3M病原菌検出アッセイの使用に関する適正な訓練を受けた担当者が3M病原菌検出装置を使用することを想定しています。3M病原菌検出装置には、アッセイのライシスステップ中に熱処理を行った検体が用いられることになっています。熱処理は、検体中に存在する有機体を分解するために行われます。**アッセイのライシスステップ中に適切な熱処理を行っていない検体は、潜在的バイオハザードとみなされる場合があり、3M病原菌検出装置内には入れないでください。**

ユーザーの使用責任

ユーザーの使用責任
ユーザーには、使用前に使用説明書および製品情報を熟読し、熟知する責任があります。詳細につきましては、当社ウェブサイト www.3M.com/foodsafety をご覧いただくか、3Mまでお問い合わせください。

試験方法を選択する際には、検体採取方法、テストプロトコル、検体の準備、取り扱い、およびラン手技などの外的要因が結果に影響することを認識することが重要です。

ユーザーの基準を満たすために、十分な数の適切なマトリクスおよび汚染菌が存在する検体の評価を行う試験法を選択することはユーザー自身の判断になります。

また、その試験方法および結果がユーザーあるいは供給業者の要求を満たしているかについても、ユーザーの判断となります。

どの試験方法を使用した場合と同様に、3M食品衛生管理製品を使用して得られた結果は、試験で使用したマトリックスまたはプロセスの品質を保証するものではありません。

安全に関する情報

ご利用にあたってのご注意

3M病原菌検出システムを使用する前および使用中は、本ユーザーマニュアルに記載されている全ての安全性情報を熟読し、理解し、遵守してください。これらの情報は大切に保管してください。

使用している記号の説明	
警告：	回避できない場合、死亡または重篤な傷害が発生する可能性のある危険な状況を示します。
注意：	回避できない場合、軽微または中等度の傷害が発生する可能性のある危険な状況を示します。
注：	回避できない場合、資産の損傷が起こり得る状況を示します。

安全性情報を含む装置ラベルの概要	
	危険電圧
	使用説明書をお読みください
	熱面
	本システムは、欧州WEEE指令2002/96/ECに従っています。 本製品には電気および電子部品が含まれていますので、一般廃棄物として廃棄しないでください。電気および電子装置の廃棄方法については、各自治体の指示に従ってください。
	注意：環境汚染を避けるため、リサイクルしてください 本製品には、リサイクル可能な部品が含まれています。リサイクル情報については、最寄の3Mサービスセンターまでお問い合わせください。

⚠ 警告

- **危険電圧および火気に関連した危険を回避するために：**
  - — 電源装置は常に見えるようにし、いつでも手が届くようにしてください。主電源から装置を切り離す場合は、コンセントのプラグを抜いてください。
  - — 必ず、本製品を使用する国で認証を受けた本製品指定の電源コードを使用してください。
  - — 電源装置を濡らさないでください。
  - — 本装置を改造したり、修理したりしないでください。3M指定のサービス業者のみをご利用ください。
  - — 外装が破損している場合は、その電源装置を使用しないでください。
  - — 電源コードが破損している場合は、本装置を使用しないでください。3M指定のサービス業者のみをご利用ください。3M指定の交換部品のみを使用してください。
- **化学物質およびバイオハザードへの曝露に伴う危険を軽減するために：**
  - — 本装置を使用する際は、適切な保護衣、保護メガネの装着など、常に、標準的な実験安全手順に従ってください。
  - — 修理のために装置を返却する前や、廃棄する前には常に消毒作業を行ってください。
- **汚染物質の放出につながる偽陰性の結果に伴う危険を軽減するために：**
  - — 装置は安定し、乾燥した水平面に設置し、本体上部に約30cm以上のスペースを確保して蓋が開くようにしてください。
  - — 装置本体または部品が破損していると思われる場合は、装置を使用しないでください。
- **単位複製配列汚染および偽陽性の結果に伴う危険を軽減するために：**
  - — ランの実行終了後は、試薬チューブを開けないでください。
  - — 3M 分子検出装置は、水で1～5%に薄めた家庭用漂白剤で定期的に消毒してください（「クリーニング」セクション参照）。

⚠注意

- **化学物質の曝露に伴う危険を低減するために：**
  - — イソプロパノールおよび漂白用容器、関連するMSDSに関する安全性情報を熟読、理解、遵守してください。
- **環境汚染に関連する危険を軽減させるために：**
  - — 本装置または電子部品を廃棄する際はいずれも、適用される規制に従ってください。
- **熱面に関連する危険を低減するために：**
  - — アルミニウム製ヒーティングブロックインサートが高温になっている際は、直接触れないでください。

注記

- **装置の損傷を防ぐために：**
  - — 装置の清掃にアセトンやシンナーなどの溶媒を使用しないでください。研磨性のクリーナーも使用しないでください。
  - — 装置の外表面は、水または低刺激性の多目的クリーナーや非研磨性のクリーナーを使用して、柔らかい布で清拭してください。
  - — 取扱説明書で特定した推奨クリーニング剤および消毒剤のみをご使用ください。装置のパーツとこれら洗浄剤の適合性について疑問がある場合は、洗浄剤の製造者にお問い合わせください。
  - — 本マニュアルで指定された以外の方法で装置が使用された場合、装置に施された保護機能の低下を招く場合があります。

装置仕様

電気的仕様

モデル番号 MDS100	仕様	単位
電圧	24 V	VDC
電流	2.5 A	アンペア
電源	仕様	単位
入力電圧	100 - 240V	VAC
周波数	50/60Hz	Hertz
最大入力電流	1.5A	アンペア
出力電圧	24 V	VDC
出力電流	2.5 A	アンペア

環境動作条件

環境条件	動作条件	単位
高度	最高2000m	メートル（m）
動作温度	15℃ - 35℃	℃
保管温度	-10℃～60℃	℃
相対湿度	30～80%　結露のないこと	%
汚染度	2	
設置（過電圧）カテゴリ	II	
屋内使用専用		

装置仕様

	仕様	単位
長さ	292（11.5）	mm（in）
幅	213（8.4）	mm（in）
高さ	96（3.8）	mm（in）
重量	4.3（9.5）	Kg（lbs）
外部コネクタ	USB 2.0　B型コネクタ	
	オス 内径2.1mm、外径5.5mmのジャック	

規制情報

安全基準

IEC/EN 61010-1、第2版
UL 61010-1
CAN/CSA C22.2 No.61010-1
EIC 61010-2-081

EMC基準

米国：FCCパート15サブパートB
カナダ：ICES-003
EEA：EN 61326
オーストラリア：AS/NZF 2064.1/2

ヨーロッパ指令

低電圧指令
EMC指令
RoHS
WEEE
REACH

規制当局認証マーク

UL（米国）
C-UL
CE
FCC / IC
C-tickマーク （3MコードはN1108）
CBスキーム
CCC

FCC 情報

本機器はFCC規則第15部に従い、クラスAデジタル機器の上下限値に適合しています。これらの限度は装置を商業的環境で操作する場合に、有害な影響に対して十分な防御ができるように設計されています。本装置は高周波エネルギーを生成、使用し、また放射する可能性があるため、ガイドに準拠しないで設置および使用すると通信に悪影響が出る恐れがあります。本機器の住宅地での使用は有害な混信の原因となる可能性があり、その場合、ユーザーは費用を負担して是正措置を講じる必要が生じます。

3M 病原菌検出システムのセットアップ

パッケージ内容

3M™病原菌検出装置
外部電源
外部電源コード
USBケーブル (1)
3M™病原菌検出ソフトウェアディスク (1)
3M™スピードローダートレイ(1)
3M™病原菌検出チルブロックインサート (1)
3M™病原菌検出チルブロックトレイ (1)
3M™病原菌検出検出キャップ／デキャップツール ― ライシス (1)
3M™病原菌検出キャップ／デキャップツール ― 試薬 (1)
ライシスチューブラック (1)
試薬チューブラック (1)

最低動作環境

- Microsoft® Windows® XP Service Pack 3 (SP3), または Microsoft® Windows® Vista Service Pack 2 (SP2), または Microsoft® Windows® 7 (32-bit / 64-bit)
- 2.0 GHz Intel Pentium 4 または類似のプロセッサ
- 2 GB RAM（推奨3 GB RAM）
- 空き容量　20 GB
- CD/DVDドライブ
- USB 2.0

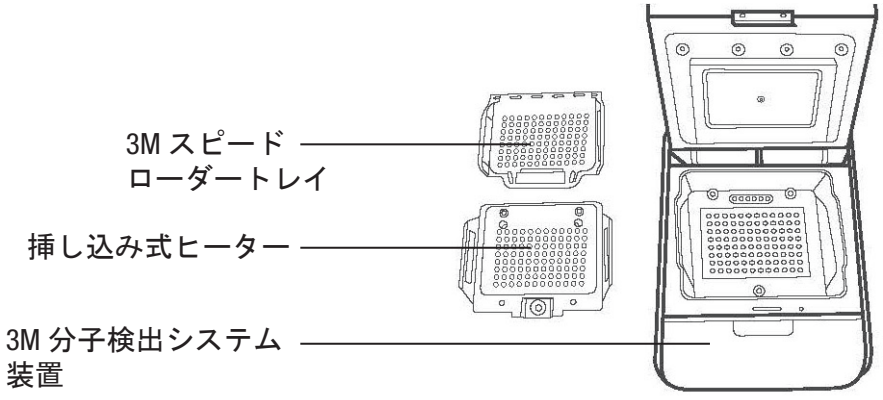
3M™ 病原菌検出システムはMicrosoft.NETに基づいています。Framework 4プラットフォームをベースに、データストレージとしてローカルのMicrosoft SQL server 2008 R2 Expressデータベースを使用します。これらのコンポーネントは3M 分子検出ソフトウェアパッケージに付属しており、使用するコンピュータ内に存在していなければ、ソフトウェアのインストール中にインストールすることができます。Windows XP搭載コンピュータをお使いの場合は、3M 分子検出ソフトウェアをインストールする前に追加のMicrosoftコンポーネントをインストールする必要があります。これらのコンポーネントは、Microsoft社のウェブサイトから無料でダウンロードすることができます。詳細については、本マニュアルの *ソフトウェアのインストール* セクションをご覧ください。

Microsoft SQL 2008 R2 Expressは無料ですが、データベースサイズに制限があります。このサイズの制限は、長期的なスパンでみると、3M 分子検出ソフトウェアの性能に影響を与える可能性があります。詳細については、Microsoft社のウェブサイトをご覧ください。

3M 分子検出ソフトウェアは、食品中に含まれる病原体のテストを目的として、最大4台の3M 分子検出装置と通信するMicrosoft Windows搭載コンピュータ用ソフトウェアアプリケーションです。3M 分子検出ソフトウェアは、ネットワークに接続せずに機能することができるスタンドアロンソフトウェアアプリケーションです。

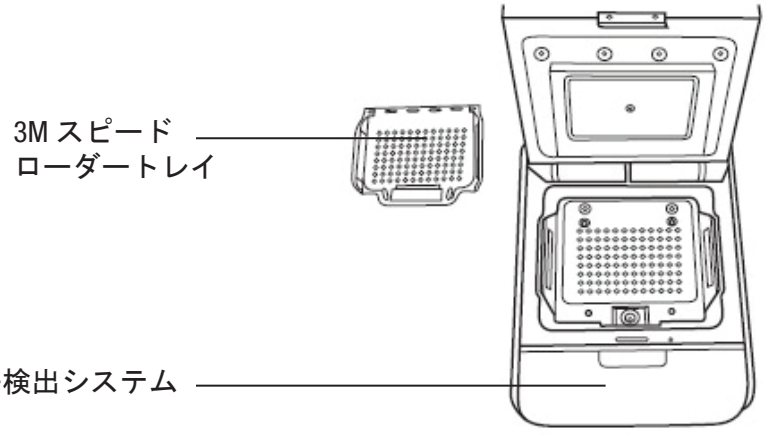
装置の開梱とセットアップ

1. 3M 分子検出装置は、使い捨ての輸送用容器に入って配送されます。3Mスピードローダートレイおよび挿し込み式ヒーターコンポーネントは、この輸送用容器とは別の箱に入れられて配送されます。
2. 輸送用容器を開けて3M病原菌検出システムとアクセサリ類を取り出します。
3. 3M 分子検出システムおよびアクセサリ類に損傷がないか確認します。3M病原菌検出システムの開梱時に輸送中の損傷が発見された場合、速やかに配送業者に損害請求を申し立てると共に、3Mの販売またはサービス担当者にお知らせください。
4. 3M 分子検出装置をお使いのコンピュータに接続する前に、そのコンピュータに3M 分子検出ソフトウェアをインストールします。
   インストール完了後、ソフトウェアを開けます。ソフトウェアのインストールについては、本マニュアルの該当項目を参照してください。
5. 輸送用の容器から装置を取り出し、水平な設置場所に置きます。
6. 輸送用の容器から挿し込み式ヒーターと3Mスピードローダートレイを取り出し、装置の横に置きます。

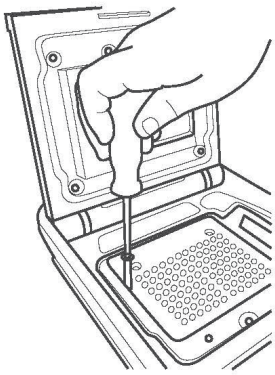


7. 使い捨て用のタオルにDI水（蒸留水または脱イオン水）を軽く浸し、装置の内側表面の埃や糸くずをやさしく拭き取ります。
8. 装置の内側表面を乾いた使い捨て用タオルで拭き上げます。

9. 装置の内側表面を、少なくとも1時間自然乾燥させます。装置が乾燥するまでは、電源ケーブルやUSBケーブルを再接続しないでください。
10. 装置に差し込み式ヒーターを挿入し、3つのネジを穴にあわせます。挿し込み式ヒーターが装置と水平になっていれば、正しく挿入されています。挿し込み式ヒーターが45度に傾斜している場合は、正しく挿入されていませんので、再度挿入しなおして、装置と水平にしてください。



11. ドライバーを使用して、挿し込み式ヒーターの上でプラスねじ3個を時計回りに90度回して、挿し込み式ヒーターを装置に固定します。



12. 作業台の上は、3M スピードローダートレイの出し入れを行うために装置の蓋が開けられるよう、少なくとも40.6ｃｍ（16インチ）のスペースを確保してください。
13. 装置を使用する国で適切な外部電源コードを選択し、3Mより提供された外部電源装置にコードを接続してください。
14. 電源コードを3M 分子検出装置バックパネルの電源ポートに接続し、接地されたAC電源コンセント（100－240VAC±10%）に電源コードの出力プラグを接続します。電源や電源プラグはすぐに接続を取り外せるように、手の届く場所に接続してください。
15. USBケーブルを3M 分子検出装置バックパネルのUSB 2.0ポートに挿入し、ケーブルのもう一方をコンピュータのUSB 2.0ポートに接続します。
16. 3M 分子検出装置バックパネルにあるOn/Offスイッチを使用して、装置を作動させます。
17. Windowsが新しいデバイスの存在を検出し、新しいデバイス用のデバイスドライバを自動的にインストールします。Windows 7およびWindows Vistaでは、ドライバのインストールに関する承認を求められますが、Windows XPでは承認は必要ありません。

ソフトウェアのインストール

3M病原菌検出システムはMicrosoft.NET Framework4およびMicrosoft SQL server 2008 R2 Expressとパックされています。**3M病原菌検出システムソフトウェアをインストールするためには、管理者あるいは管理者グループとしてWindowsを起動してください。**

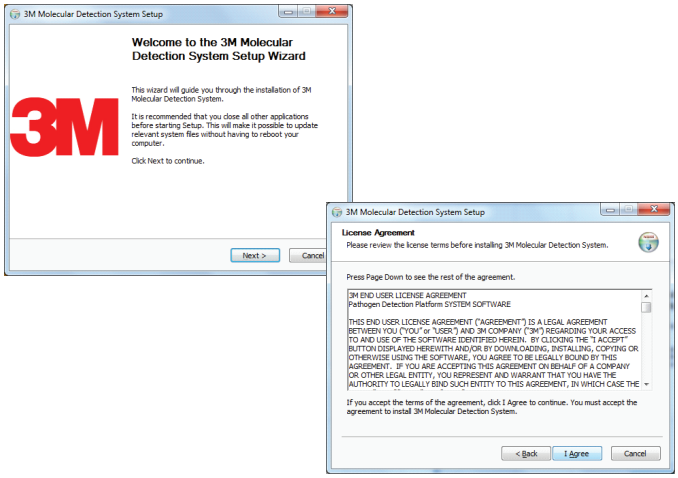
Windows XPあるいはVista搭載のコンピュータをお使いの場合は、3M病原菌検出検出ソフトウェアをインストールする前に以下のMicrosoftコンポーネントをインストールする必要があります。これらのコンポーネントは、Microsoft社のウェブサイトから無料でダウンロードすることができます。これらのコンポーネントは、マルチ言語が可能で、32あるいは64bitでも可能で、コンピュータのバージョンに適した形式でダウンロードしてください。

- Windows XP SP3
- Windows Vista SP2
- Windows PowerShell 1.0
- Windows PowerShell 2.0
- Windows Installer 4.5
- .NET Framework 3.5 SP1

３M病原菌検出ソフトウェアを使用する前に、ソフトウェアとすべての起動しているソフトの終了を防止するために、スリープあるいは休止状態などのWindowsパワー・マネージメント機能の使用を不可にしてください。

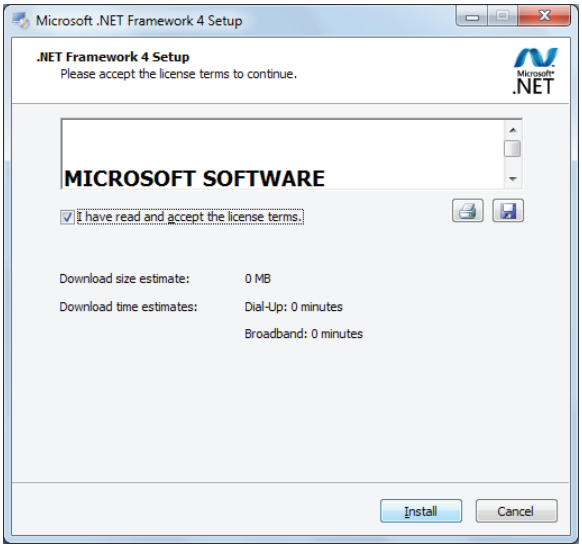
ランが途中で終了させないために、ラン中はWindowsの終了あるいはユーザーの変更をしないでください。

1. 3M 分子検出ソフトウェアディスクを、お使いのコンピュータのCD/DVDドライブに挿入します。
2. Windows Explorerを使いドライブを選択し、インストールウィザードをスタートするために**3M.Mds.exe**をダブルクリックします。**注：**Windows VistaおよびWindows 7については、CDの3M.Mds.exeを右クリックして、**管理者として実行**を選択してインストールウィザードを開始します。
3. インストールウィザードで*3M Molecular Detection Software Setup*（*3M病原菌検出ソフトウェアセットアップ*）ウィンドウが表示されます。ウィンドウが表示されるまで数分かかります。 **[Next（次へ）]**をクリックして進みます。
4. 3M End User License Agreement（3M エンドユーザーライセンスに関する同意）を読み、 **[I agree（同意します）]**ボタンをクリックして、3M エンドユーザーライセンス契約に同意してインストールウィザードを進めます。

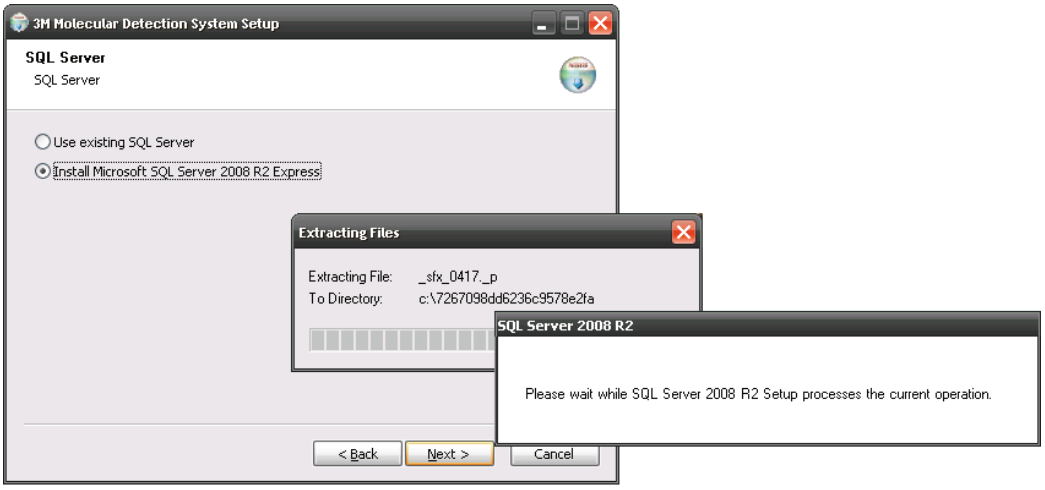

3M Molecular Detection System Setup
Welcome to the 3M Molecular Detection System Setup Wizard
This wizard will guide you through the installation of 3M Molecular Detection System.
It is recommended that you close all other applications before starting Setup. This will make it possible to update relevant system files without having to reboot your computer.
Click Next to continue.
Next >
Cancel
3M Molecular Detection System Setup
License Agreement
Please review the license terms before installing 3M Molecular Detection System.
Press Page Down to see the rest of the agreement.
3M END USER LICENSE AGREEMENT
Pathogen Detection Platform SYSTEM SOFTWARE
THIS END USER LICENSE AGREEMENT ("AGREEMENT") IS A LEGAL AGREEMENT BETWEEN YOU ("YOU" or "USER") AND 3M COMPANY ("3M") REGARDING YOUR ACCESS TO AND USE OF THE SOFTWARE IDENTIFIED HEREIN. BY CLICKING THE "I ACCEPT" BUTTON DISPLAYED HEREWITH AND/OR BY DOWNLOADING, INSTALLING, COPYING OR OTHERWISE USING THE SOFTWARE, YOU AGREE TO BE LEGALLY BOUND BY THIS AGREEMENT. IF YOU ARE ACCEPTING THIS AGREEMENT ON BEHALF OF A COMPANY OR OTHER LEGAL ENTITY, YOU REPRESENT AND WARRANT THAT YOU HAVE THE AUTHORITY TO LEGALLY BIND SUCH ENTITY TO THIS AGREEMENT, IN WHICH CASE THE
If you accept the terms of the agreement, click I Agree to continue. You must accept the agreement to install 3M Molecular Detection System.
< Back
I Agree
Cancel

5. インストールウィザードが、3M 分子検出システムに必要なソフトウェアコンポーネントに関して、インストールするコンピュータの構成をチェックします。最初の確認はMicrosoft.NET Frameworkのためのものです。もし示されない場合にはインストールウィザードは.NET 4 インストールプロセスから開始します。本文書では.NETのインストールプロセス全体を記載しません。Microsoft.NET 4コンポーネントの目的、内容、インストールプロセスに関する詳細は、http://www.microsoft.com にアクセスするか.NET Framework 4 Standalone Installerを検索してください。
6. .NETインストーラーが、*Microsoft.NET Setup*ウィンドウを開始します。

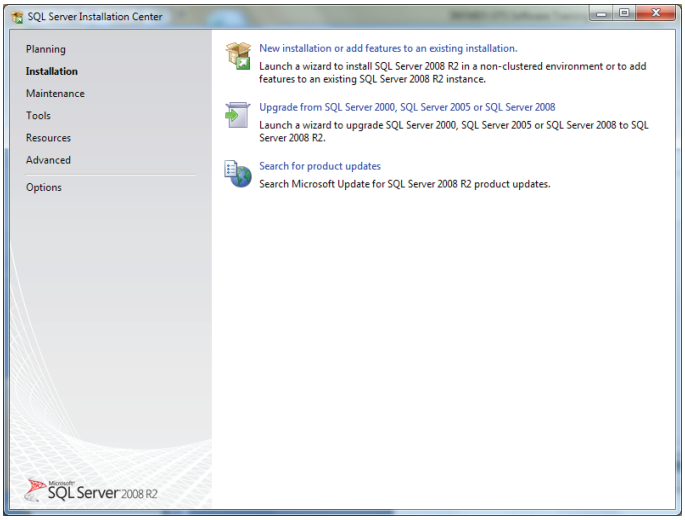
7. Microsoft社のライセンス条項をお読みになり、**I have read and accept the license terms（私はライセンス条件を読み、これに同意します）**チェックボックスをクリックして、Microsoft社のライセンス条件に同意し、**[Install（インストール）]**ボタンをクリックします。


Microsoft .NET Framework 4 Setup
.NET Framework 4 Setup
Please accept the license terms to continue.
MICROSOFT SOFTWARE
I have read and accept the license terms.
Download size estimate: 0 MB
Download time estimates: Dial-Up: 0 minutes
Broadband: 0 minutes
Install
Cancel

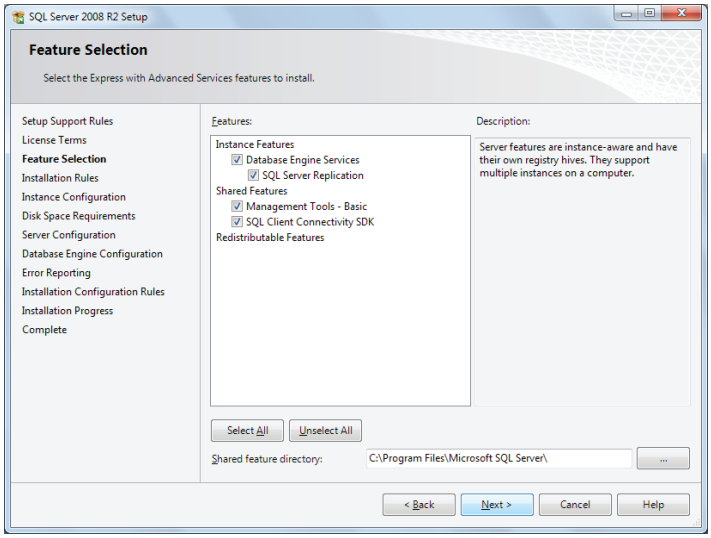
8. インストール完了後、コンピュータの再起動を求められる場合があります。この場合は、インストールウィザードを閉じてコンピュータを再起動し、ステップ2～4を繰り返します。
9. *SQL*サーバーのセットアップスクリーンで、Install Microsoft SQL server 2008 R2 Expressを選択して、新しいSQL server のインストールを行います。Microsoft SQL server製品およびその制限についての詳細は、Microsoft社のウェブサイト http://www.microsoft.com/sqlserver をご覧ください。
注：お使いのコンピュータにSQLMDSサーバーが既にインストールされている場合（再インストール、ソフトウェアのアップグレードに該当する場合等）、**Use existing SQL server（既存のSQL serverを使用）**を選択して、このステップをスキップします。


3M Molecular Detection System Setup
SQL Server
SQL Server
Use existing SQL Server
Install Microsoft SQL Server 2008 R2 Express
Extracting Files
Extracting File: _sfx_0417._p
To Directory: c:\7267098dd6236c9578e2fa
SQL Server 2008 R2
Please wait while SQL Server 2008 R2 Setup processes the current operation.
< Back
Next >
Cancel

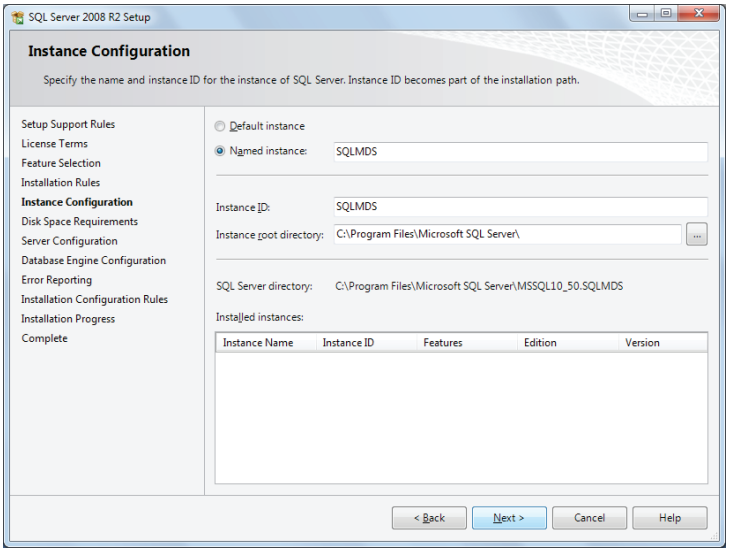
10. ***SQL server Installation Center*** **(SQLサーバーのインストールセンター)** を開いたら、新規インストールまたは既存のインストールへの機能の追加]を選択し、**[Next (次へ)]** をクリックします。


SQL Server Installation Center
Planning
Installation
Maintenance
Tools
Resources
Advanced
Options
New installation or add features to an existing installation.
Launch a wizard to install SQL Server 2008 R2 in a non-clustered environment or to add features to an existing SQL Server 2008 R2 instance.
Upgrade from SQL Server 2000, SQL Server 2005 or SQL Server 2008
Launch a wizard to upgrade SQL Server 2000, SQL Server 2005 or SQL Server 2008 to SQL Server 2008 R2.
Search for product updates
Search Microsoft Update for SQL Server 2008 R2 product updates.
SQL Server 2008 R2

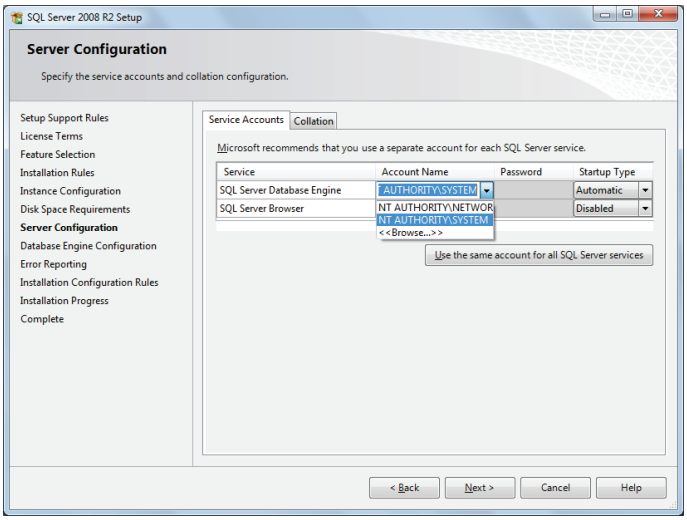
11. SQL サーバー ライセンス契約を読み、同意します。
12. *Feature Selection (機能選択)* 画面で、**[Next (次へ)]**をクリックしてデフォルトのInstance Features (インスタンス機能) 、Shared Features (共有機能) 、ディレクトリの場所を承認します。すべての機能にチェックを付けてください。



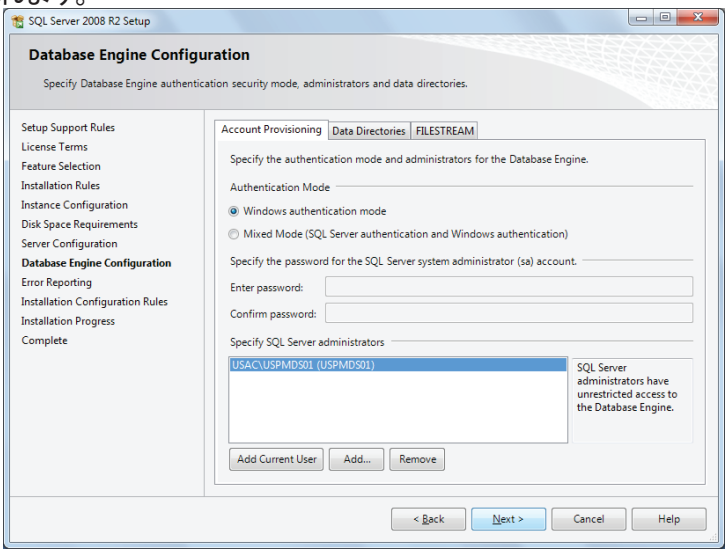
13. *インスタンス構成画面で、***[Next (次へ)]**をクリックして**SQLMDS**の名前のついたインスタンスとデフォルトルートディレクトリを承認します。



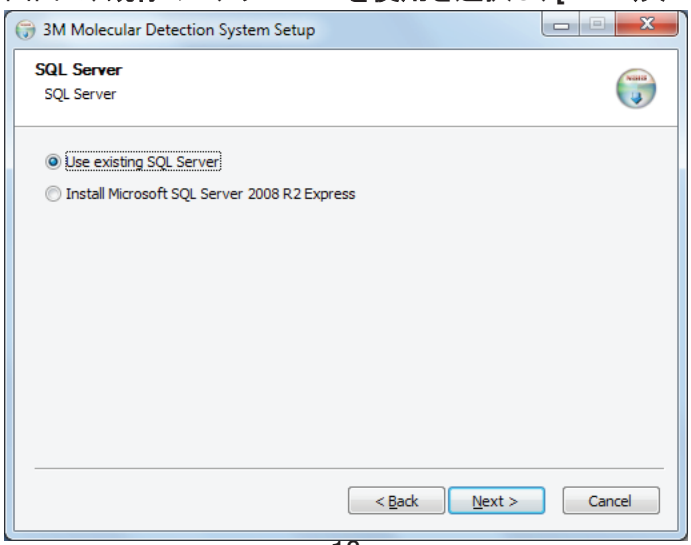
14. *Server Configuration（サーバー構成）*画面で、**SQL server Database Engine（SQL サーバーデータベースエンジン）**の**Account Name（アカウント名）**フィールド用に**NT AUTHORITY\SYSTEM**を選択します。パスワードは必要ありません。**[Next（次へ）]**をクリックして進みます。



15. **[Next（次へ）]**をクリックして、デフォルトのWindows認証モードを承認します。必要に応じて、**[Add（追加）]**をクリックして追加ユーザーを特定します。インストールを開始するため、次の画面で**[Next（次へ）]**をクリックします。インストールの進行画面が表示されます。

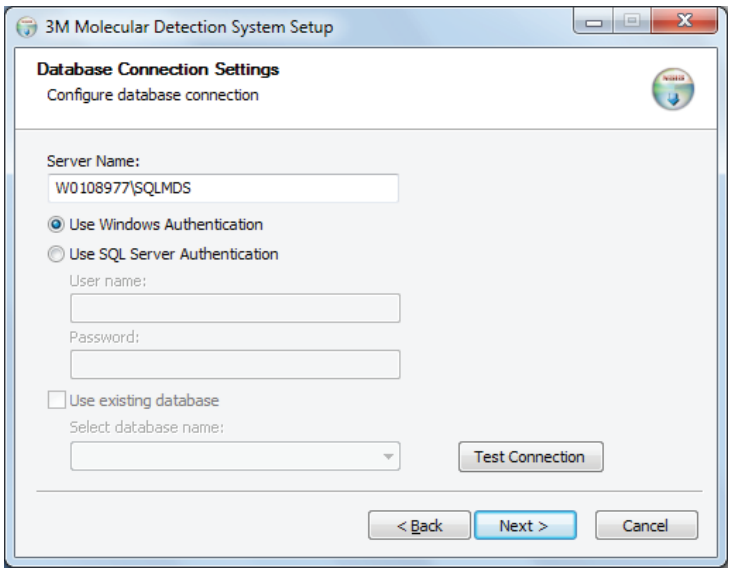


16. インストールが無事に終了したら、インストールウィザードが完了メッセージを表示します。**[Close（閉じる）]**ボタンをクリックします。
17. インストール完了後、コンピュータの再起動を求められる場合があります。この場合は、インストールウィザードを閉じてコンピュータを再起動し、ステップ2～4を繰り返します。
18. *SQLサーバー*のセットアップ画面で、**既存のSQLサーバーを使用**を選択し、**[Next（次へ）]をクリックします。**



19. データベース接続設定画面で、サーバー名が自動的に作成されます。 この画面では、数秒間何も表示されない場合があります。内容を編集する特別な理由がある場合を除き、次へをクリックしてデフォルトの設定を承認します。
20. **[Test Connection（接続の試行）]**ボタンをクリックして、Server Name（サーバー名）が正しいことを検証します。接続の試行が失敗した場合、Server Name（サーバー名）として<Computer_Name>\SQLEXPRESSと入力します。<Computer_Name>の値は以下の操作を行うと確認できます。
    a. Windowsデスクトップから**スタート**をクリックする
    b. マイコンピュータを選択する
    c. コンピュータ情報の表示を選択する
    d. **コンピュータ名**タブを選択する

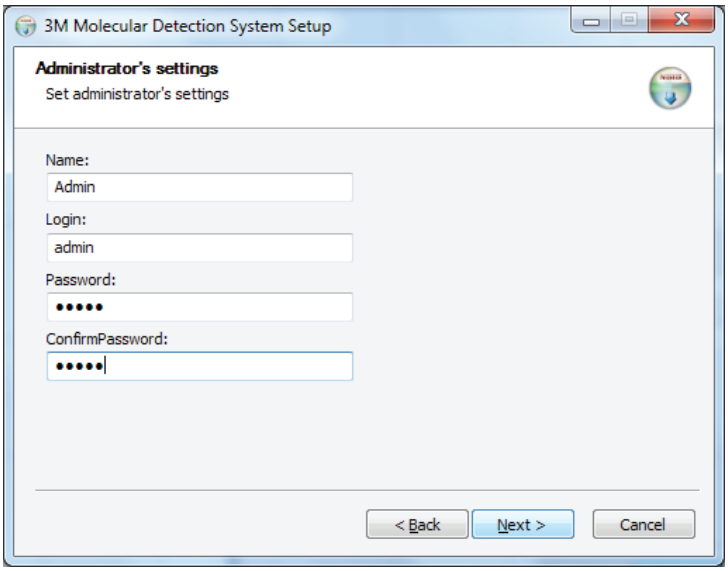
注：病原菌検出システムのデータベースが既にコンピュータ上に存在している場合（再インストール、ソフトウェアのアップグレード等の場合）、**既存のデータベースを使用**がデフォルトで選択され、既存の病原菌検出システムデータベースに接続され、データが保存されます。このオプションが選択されてない場合で、既存のデータベースを使用する場合は、**既存のデータベースを使用**チェックボックスを選択し、ドロップダウンリストから使用する**病原菌検出システム**データベースを選択してください。病原菌検出システムデータベースが存在している場合でも、新しいデータベースを作成する場合は、既存のデータベースを使用のチェックを外します。チェックを外すと、既存のデータベース内の**すべてのデータが消去される**ため、この操作を行う前に必ずデータベースのバックアップを行ってください。



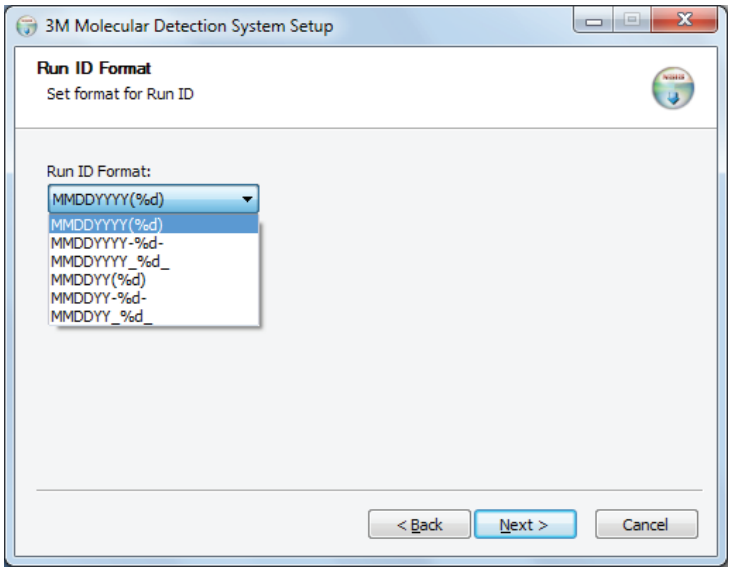
21. インストールウィザードが、使用者の名前と住所の入力を求めます。この情報は必須です。
22. 最初の管理者ユーザーをセットアップします。この手順は必須です。以下の情報をすべて入力し、**[Next（次へ）]** ボタンをクリックします。すべてのフィールドの入力が必須です。
    a. **Full Name（フルネーム）** フィールドに管理者ユーザーのフルネームを入力します。すべての文字列が使用可能です。
    b. **User Name(ユーザー名)**フィールドにログイン用のユーザー名を入力してください。すべての文字列が使用可能です。ユーザー名には大文字と小文字の区別がありません。
    c. **Password（パスワード）** フィールドにパスワードを入力します。すべての文字列が使用可能です。パスワードには大文字と小文字の区別があります。
    d. 確認のために、**Confirm Password（確認用パスワード）** フィールドにもう1度パスワードを入力します。パスワードと確認用パスワードの入力内容は、同じである必要があります。

注：インストール後にパスワードを忘れてしまった場合、パスワードを回復することはできません。**パスワードを忘れてしまった場合は、分子検出システムソフトウェアを再インストールして、新しいデータベースを作成する必要があります。**

3M 分子検出ソフトウェアは、ログイン名またはパスワードの構成に制約を設けていません。セキュリティが重視される場合は、安全なユーザー名とパスワードに関するベストプラクティスに従うことを強くお勧めします。IBMおよびMicrosoftは共に、セキュリティに関するベストプラクティスガイドラインを無償で提供しています。詳細については、http://www.ibm.com/developerworks または http://technet.microsoft.com をご覧ください。

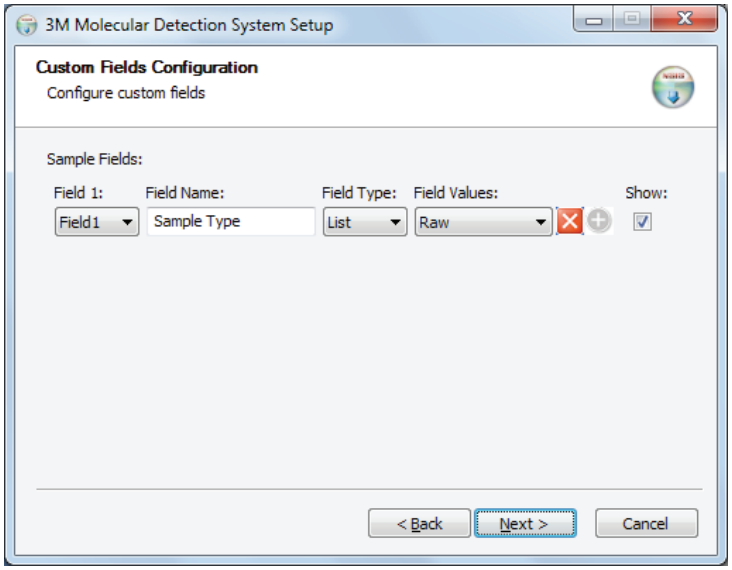


23. **[Next (次へ)]**をクリックして、インストールウィザードを進めます。
24. デフォルトの検査ID用フォーマットを選択します。デフォルトの検査IDに利用できるフォーマットはすべて、現在の日付の後に連続番号が付きます。日付フォーマットは2桁の月と2桁の日に、2桁または4桁の年で構成されます。連続番号はシステムが作成し、前後にカッコ、ハイフン、アンダーバーが付いた1、2、3桁の番号です。

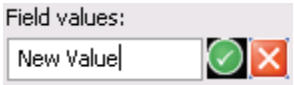


25. **[Next (次へ)]**をクリックして、インストールウィザードを進めます。
26. ソフトウェアが、検体を表示するために使用するオプションのカスタマイズ可能なフィールドを表示します。これらのフィールドのデフォルト値が表内に記載されています。*Custom Fields Configuration（カスタムフィールドの構成）*ウィンドウで**[Next (次へ)]**をクリックしてこれらのデフォルト値を受け入れるか、利用可能なオプションを使用してこれらのフィールドをカスタマイズすることができます。
注：インストールプロセスが終了した後は、表示オプション以外のフィールドをカスタマイズすることはできません。

検体フィールド	フィールド名	フィールドタイプ	フィールド値	表示
フィールド1	検体タイプ (Sample Type)	リスト	未加工 (Raw) 加工 (Processed) 環境 (Environmental)	表示
フィールド2	概要 (Description)	テキスト		表示
フィールド3	製品 (Product)	テキスト		表示
フィールド4	ブランド (Brand)	テキスト		表示
フィールド5	ロット番号 (Lot Number)	テキスト		表示
フィールド6	ライン (Line)	テキスト		表示
フィールド7	顧客 (Customer)	テキスト		表示

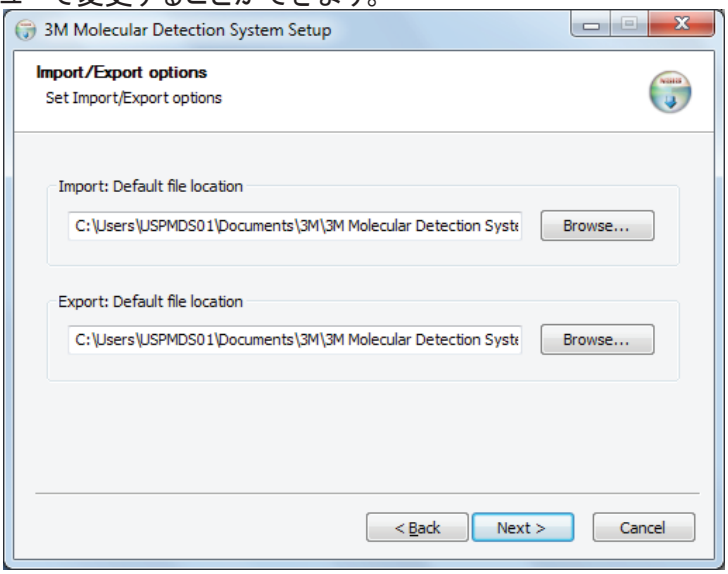


27. デフォルトフィールドを修正する場合は、以下の操作を行ってください。
    a. **Field（フィールド）**ドロップダウンメニューを使用して、変更するフィールドを選択します。フィールドは全部で7つあります。
    b. **Field Name（フィールド名）**フィールドに新しいフィールド名を入力します。
    c. **Field Type（フィールドタイプ）**ドロップダウンメニューを使用して、フィールドタイプを選択します。
        i. テキスト – テキストフィールドにフリーフォーマットのテキストを入力することができます。
        ii. リスト – リストフィールド用に事前に作成したリストからフィールド値を選択します。
    d. 前のステップでリストを選択した場合は、**Field values（フィールド値）**フィールドに事前に設定したリスト用の項目を入力します。この*Custom Fields Definition（カスタムフィールドの定義）*ウィンドウの**[Next（次へ）]**をクリックした後や、インストール終了後でも、フィールド値リストにフィールド値を追加することができます。しかし、この*Custom Fields Definition（カスタムフィールドの定義）*ウィンドウの**[Next（次へ）]**をクリック（下記ステップ29）した後や、インストール終了後は、フィールド値リストからフィールド値を削除することはできません。
    e. アイコンをクリックして、フィールド値を追加します。この操作でテキストボックス（右図）が開きますので、新しいフィールド値を入力します。

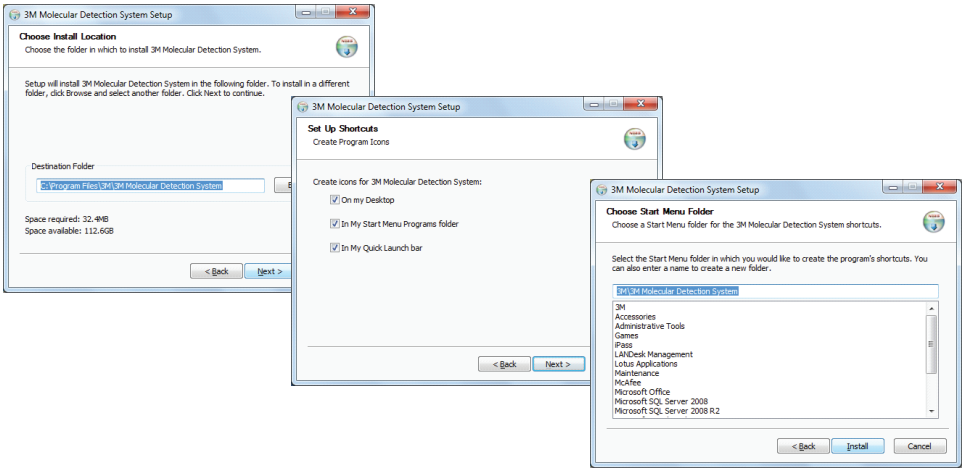


    f. アイコンをクリックして、入力した新しいフィールド値を承認します。
    g. 表示チェックボックスを選択、または表示チェックボックス選択を外して、該当フィールドの表示、非表示を設定します。非表示の場合は、検体の定義またはレポートの作成には使用されません。この設定はインストール後にも変更することができます。
28. 変更するフィールドごとに、上記のステップを繰り返します。
29. フィールドのカスタマイズを終了する場合は、**[Next（次へ）]**ボタンをクリックします。

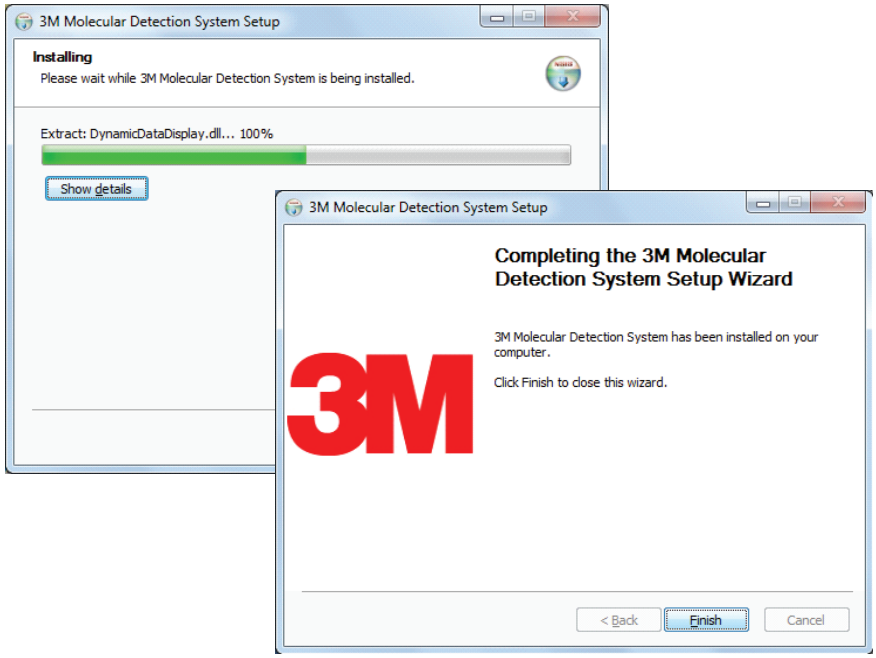
30. *Import/Export（インポート／エクスポート）オプション*画面では、デフォルトのファイルのインポートおよびエクスポート場所を選択することができます。この機能はインストール後にも、管理>Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）メニューで変更することができます。



31. 次の3つの画面では、インストールウィザードがDestination Folder（移動先フォルダ）、Application Shortcuts（アプリケーションのショートカット）の作成場所、Start Menu Folder（スタートメニューフォルダ）について尋ねます。これらのフィールドについては、必要に応じてデフォルトを修正することができます。これらのフィールドを修正する必要がない場合は、デフォルト値をご利用になることを推奨します。**[Next（次へ）]**をクリックして、各画面を進みます。
    a. 移動先フォルダ – 3M 分子検出ソフトウェア用のルートインストールディレクトリです。
    b. MDSアプリケーションショートカット – インストールウィザードが3M 病原菌検出システムのショートカットを作成する場所です。
    c. スタートメニュフォルダ – インストールウィザードが3M 病原菌検出システムのアプリケーションソフトウェアのショートカットを作成するスタートメニュー内の場所です。
32. Choose Start Menu Folder（スタートメニューフォルダの選択）画面で**[Install（インストール）]**をクリックして、インストールを開始します。インストールのプログレスバーが表示されます。



33. インストールウィザードで3M 病原菌検出システムのセットアップウィザードを終了していますの画面が表示されたら、**[Finish（終了）]**をクリックします。



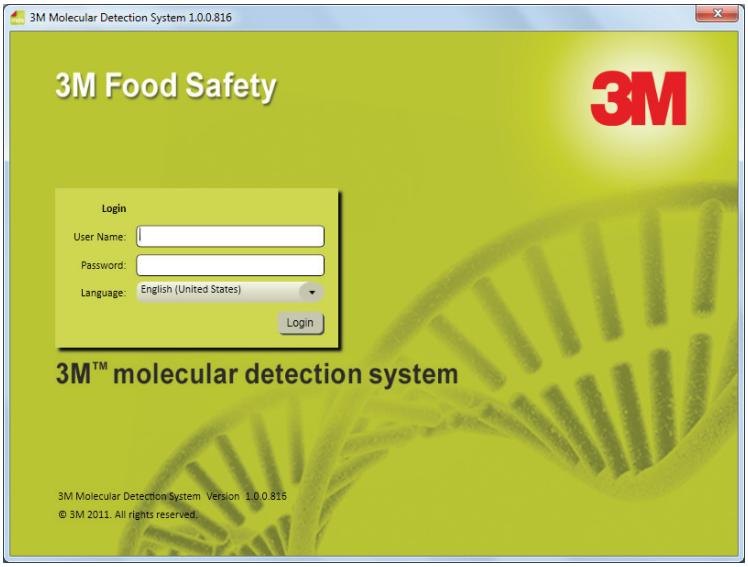
3M病原菌検出ソフトウェアの操作

3M病原菌検出ソフトウェアを使用する前に、ソフトウェアとすべての起動しているソフトの終了を防止するために、スリープあるいは休止状態などのWindowsパワー・マネージメント機能の使用を不可にしてください。

ランが途中で終了させないために、ラン中はWindowsの終了あるいはユーザーの変更をしないでください。

ログイン

1. 3M 分子検出ソフトウェアを開始するためには、Windowsの**スタートメニュー**から**プログラム**を選択し、**3M 分子検出システム**を選択するか、Microsoft Windowsのデスクトップ上に表示されている mds アイコンをダブルクリックします。
2. **ユーザー名**フィールドに実施者名を入力し、**パスワード**を入力します。
3. デフォルト言語（日本語）以外のユーザーインターフェース用の言語を選択するには、**言語**ドロップダウンメニューを使用して、ユーザーインターフェース用言語を選択します。



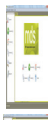
ログイン画面

スタートページの使用

1. ログイン後、3M 分子検出ソフトウェアがStart Page（スタートページ）ウィンドウを表示します。Start Page（スタートページ）ジでは、各アイコンの横にあるテキストをクリックして以下の操作を選択、実行することができます。
   - 新しいランの設定 – 新しいランの定義を作成します
   - 設定済みのランを開始 – 事前に定義されたランを開始します
   - ラン結果を表示 – 実行済みのランの結果を表示します
   - レポートの作成 – 色々な標準的レポートを作成したり、データベース内の結果を検索します
   - Administration（管理）– 3M 分子検出システムソフトウェアを管理、設定します
   - ユーザーマニュアル – 3M 病原菌検出システムユーザーマニュアル（本文書）を開きます。
2. Start Page（スタートページ）を閉じたい場合は、Start Pageタブの アイコンをクリックします。
3. Start Page（スタートページ）はいつでも開くことができます。
   a. メニューバーの**[View（表示）]**を選択します。
   b. **Start Page**を選択します。折りたたみSidebar（サイドバー）、Main Menu（メインメニュー）、Status Bar（ステータスバー）が表示されたStart Page（スタートページ）は下図のようになります。

スタートページ

折りたたみサイドバーの使用

1. メニューバーの**[View（表示）]**を選択します。
2. **Sidebar Menu（サイドバーメニュー）**を選択して、その時にアクティブなタブに関係なく全ペイン上にSidebarボタンを表示する設定にします。サイドバーメニューはトグル機能になっており、選択するとオン、再選択すると選択が外れてオフになります。View（表示）メニューのSidebar Menu（サイドバーメニュー）の隣にチェックマークが表示されている時は、機能がオンになっています。表示メニューのサイドバーメニューの隣にチェックマークが表示されていない時は、機能がオフになっています。
3. 折りたたまれたサイドバーを開くには、サイドバーボタン  の上辺りにカーソルを置きます。
4. サイドバーの閉じるボタンの隣にある自動非表示ボタン をクリックすると、自動非表示機能を切り替えることができます。

5. 折りたたみサイドバーから、アイコンの横にあるテキストをクリックして以下の操作を選択、実行することができます。
    - 新しいランの設定 – 新しいランの定義を作成します
    - 設定済みのランを開始 – 事前に定義されたランを開始します
    - ラン結果を表示 – 実行済みのランの結果を表示します
    - レポートの作成 – 各検体、アッセイキット、ラン、装置など様々なレポートを作成します
    - 検体の管理 ― 検体の定義を作成、修正します
    - アッセイキットの管理 ― アッセイキットの定義を作成、修正します

メニューバーの使用

メニューバーはいつでも使用することができます。メニューバーを使用して、3M 病原微生物検出システムアプリケーションソフトウェアの大部分のタスクを実行することができます。イタリック体で記載されているメニュー項目は管理者に限定されています。

1. メニューバーで使用する項目をクリックします。
2. カスケード表示されるメニューで使用する項目をクリックします。

メニューバー項目	**概要**
File（ファイル）	
New Run（新しいラン）	新しいランの定義を作成します
Open Runs…（ランのオープン…）	定義済みのランを検索します
Load Run Template…（ランテンプレートのロード…）	保存済みテンプレートからランを作成します
Save Run（ランの保存）	ランの定義を保存します
Save Run as Template…（ランをテンプレートで保存…）	ランの定義をテンプレートで保存します
Print…（印刷…）	ランの定義を印刷します
Logout…（ログアウト…）	ソフトウェアからログアウトして、ログイン画面を表示します
Exit（終了）	ソフトウェアを終了します
Manage（管理）	
Samples…（検体…）	検体の定義を作成、管理します
Assay Kits…（アッセイキット…）	アッセイキットの定義を作成、管理します
Reports（レポート）	
Search Results…（結果の検索…）	複数のランからのテスト結果レポートです
Samples…（検体…）	システム内で定義された全検体のレポートです
Assay Kits…（アッセイキット…）	システム内で定義された全アッセイキットのレポートです
Completed Runs…（完了済みラン…）	完了済みの全ランのレポートです
Users…（ユーザー…）	システム内で定義された全ユーザーのレポートです
Instrument Self-Check Results…（装置のセルフチェック結果…）	装置の診断レポートです
Instrument Temperature Log…（装置温度記録…）	ラン温度の測定レポートです
Administration（管理）	
Users…（ユーザー…）	ユーザーを作成、管理します
Instruments…（装置…）	登録済みの装置を管理します
Configure Fields…（フィールドの設定…）	ユーザー定義の検体およびアッセイキットフィールドを変更します
Import and Export Options…（インポート／エクスポートオプション…）	データのインポート／エクスポート用のオプションを設定します
Audit Log…（ログのチェック…）	ユーザーのアクティビティレポートです
Change Password…（パスワードの変更…）	アクティブユーザーのパスワードを変更します
Options…（オプション…）	管理者向け追加オプションです

View（表示）	
Start Page（スタートページ）	Start Page（スタートページ）を表示します
Sidebar（サイドバー）	サイドバーを表示／非表示にします
Help（ヘルプ）	
User Manual（ユーザーマニュアル）	ユーザーマニュアルを表示します
About 3M Molecular Detection System（3M 病原菌検出システムについて）	病原菌検出システムについて画面を表示します

ステータスバーの使用

1. 3M 分子検出ソフトウェアでは、メインウィンドウの下部にステータスバーが表示されます。このステータスバーには3つのコンポーネントが含まれます左から順番に：
    1. 現在のユーザー – 現在ログインしているユーザーの名前
    2. Instrument status（装置のステータス）– 現在、システム接続されている3M 分子検出装置のステータス装置のステータスのモニタリングに関する詳細は、本マニュアルの該当項目を参照してください。
    3. ステータスメッセージ – システムに関する情報メッセージ

ソフトウェアのシャットダウン

1. ソフトウェアをシャットダウンする方法は2通りあります。
    a. メニューバーの［File（ファイル）］を選択した後、**終了**を選択します
    b. クローズボタン をクリックします
2. ソフトウェアをシャットダウンすると、現在のユーザーはログアウト状態になり、予備検査は終了します（確認を要求されます）。接続されたすべての装置がスタンバイモードとなり、ソフトウェアが終了します。

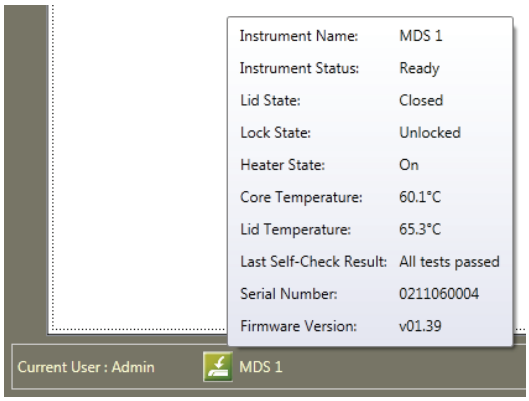
ログアウト

1. メニューバーの**[File（ファイル）]**を選択した後、**Log Out（ログアウト…）**を選択します
2. 3M 分子検出ソフトウェアはログインウィンドウを表示します。ログインに関する詳細は、本マニュアルの該当項目を参照してください。
3. ソフトウェアからログアウトすると、現在のユーザーはログアウト状態になり、予備ランは終了します（確認を要求されます）。接続されたすべての装置がスタンバイモードとなり、ログイン画面に戻ります。

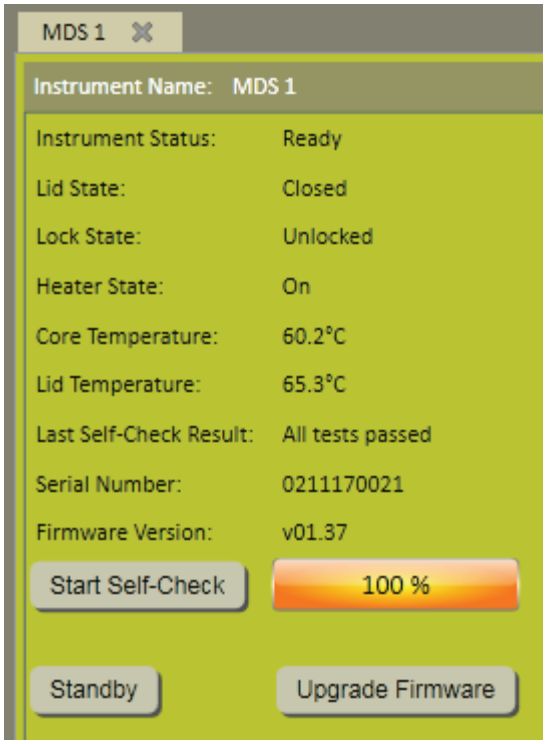
装置のステータスのモニタリング

以下の方法で装置のステータスを確認することができます。

- 装置のステータスライトの色を確認する。
- ソフトウェアのステータスバーの装置アイコンの上にカーソルを置き、該当する装置の詳細なステータス情報を表示する。一例を下図に示します。
- ソフトウェアのステータスバーの装置アイコンをダブルクリックするか、装置アイコンを右クリックして、**Show instrument status tab（装置のステータスタブを表示）**を選択します。この操作で、対象の装置に関する詳細なステータス情報を表示する新しいタブが開きます。一例を下図に示します。



装置のステータスのツールチップ



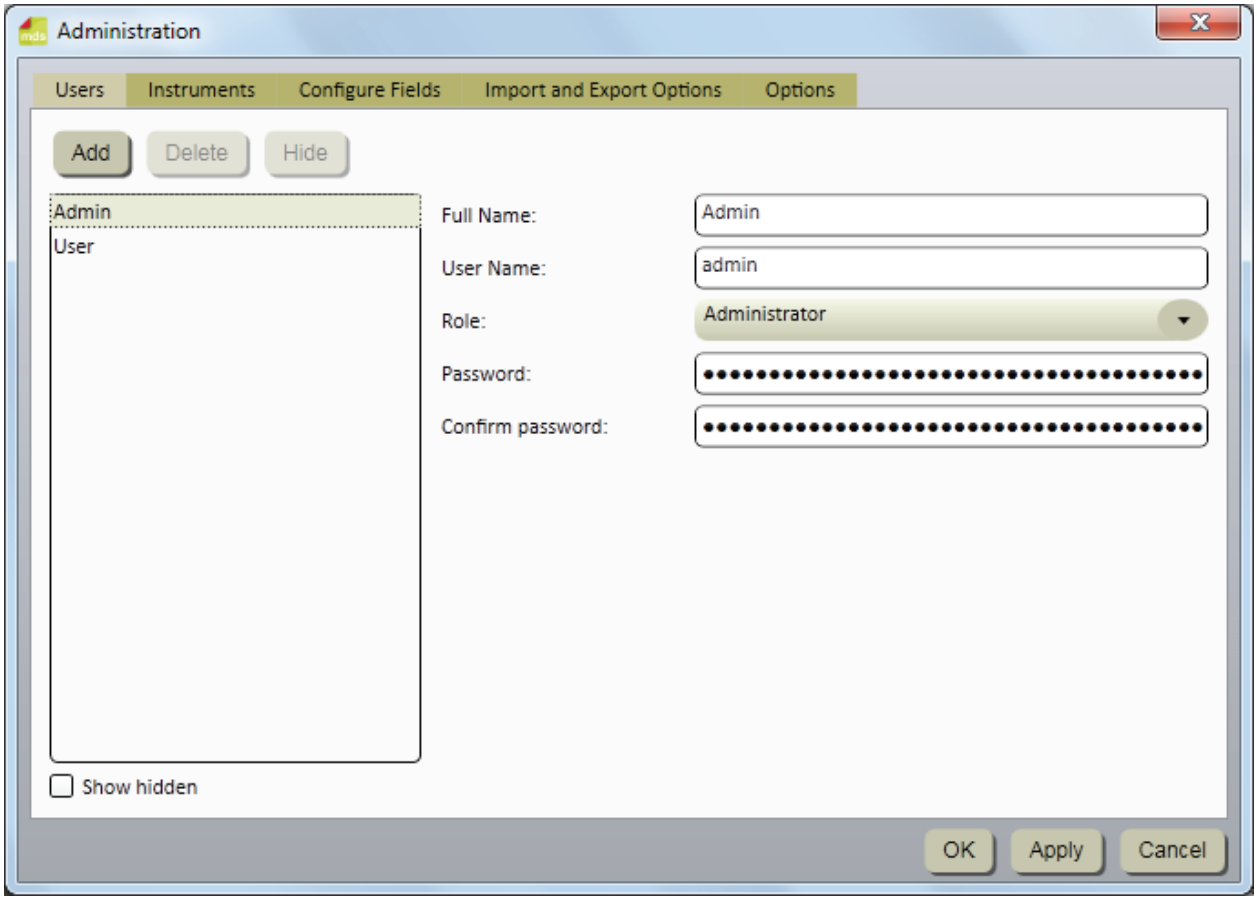
装置のステータスタブ

フィールド名	概要
装置名 （Instrument Name）	装置を追加した時に決めた装置名
装置の状態 （Instrument Status）	装置の現在の状態を示します。下記の状態一覧をご覧ください。
蓋の状態 （Lid State）	装置の蓋の状態（開閉状態）
ロック状態 （Lock State）	装置の蓋のロック状態（ロックされている、ロックされていない）
ヒーターの状態 （Heater State）	装置のヒーターの状態（オン、オフ）
コア温度 （コア温度）	装置の挿し込み式ヒーターの温度を摂氏で表示
蓋の温度 （Lid Temperature）	装置の蓋のヒーターの温度を摂氏で表示
最終のセルフチェックの結果 （The results of the last previous diagnostic test done on the instrument）	最後に行った装置の診断テストの結果
シリアル番号 Serial Number	装置のシリアル番号
ファームウェアのバージョン Firmware Version	装置のファームウェアのバージョン番号

ステータスライト	アイコン	装置の状態
オフ	 （白）	装置は**スタンバイ**状態にあり、ヒーターが作動できるまで待っている状態で、蓋が閉まっています。 または 装置は**診断**状態にあり、セルフチェックを行っていて、蓋は閉まっています。
オフ	 （白）	装置は**スタンバイ**状態にあり、予備検査を行うためにヒーターが作動するのを待っている状態で、蓋が開いています。 または 装置は**診断**状態にあり、セルフチェックを行っていて、蓋が閉まっています。
オレンジ	 （オレンジ）	装置は**加熱**状態にあり、必要なレベルまで温度が上昇している段階で、蓋が閉まっています。装置はまだ、ランを行う準備ができていません。
オレンジ	 （オレンジ）	装置は**加熱**状態にあり、必要なレベルまで温度が上昇している段階で、蓋が開いています。装置はまだ、ランを行う準備ができていません。
緑	 （緑）	装置は**待機**状態で、必要なレベルまで温度が上昇しており、蓋が閉まっています。装置は、ランを行う準備ができています。
緑	 （緑）	装置は**待機**状態で、必要なレベルまで温度が上昇しており、蓋が開いています。装置は、ランを行う準備ができています。
青	 （青）	装置は**テスト**状態にあり、ランを実行中で、蓋は閉まっています。
赤	 （赤）	装置は**テスト完了**状態にあり、ランが完了し、蓋は閉まっています。
点滅 赤	 （赤色点滅）	装置は、セルフチェックに失敗した後の**失敗**状態です。

管理情報の設定

ユーザー



ユーザーウィンドウ

ユーザーの追加

ユーザーの追加は、管理者権限でのみ行うことができます。

1. メニューバーの**[Administration（管理）]**をクリックした後、**[Users…（ユーザー）]**を選択します。
2. *Set Up（セットアップ）*ウィンドウが、ユーザータブ上にユーザーの現在のリストを、追加された順番に表示します。
3. **[Add（追加）]**ボタンをクリックして、新規ユーザーを追加します。
4. ユーザーの Full Name（フルネーム）フィールドに新規ユーザー名を入力します。このフルネームは、3M 分子検出ソフトウェアのレポートおよびウィンドウ上に表示されます。通常は、ユーザーの氏名です。このフィールドは必須です。
5. User Name（ユーザー名）フィールドに新規ユーザーのユーザー名を入力します。これは、ログインウィンドウのユーザー名フィールドにユーザーが入力するユーザー名です。パスワードには大文字と小文字の区別があります。このフィールドは必須です。
6. Role（ユーザー資格）ドロップダウンメニューを使用して、新規ユーザーのユーザー資格を選択します。このフィールドは必須です。
   - ユーザー（標準ユーザー）はアッセイキット、検体、ランの定義および管理、ランの実行、レポートの作成、限定的な装置の管理を実行することができます。
   - 管理者は標準ユーザーの全機能に加えて、ユーザー管理、装置の全面的管理コントロール、その他オプションを実行することができます。
7. パスワードの確認(Confirm Password)フィールドに新規ユーザーのパスワードを入力します。パスワードには大文字と小文字の区別があります。パスワードは入力する際、*****と表示されます。このフィールドは必須です。
8. パスワードの確認(Confirm Password)フィールドに新規ユーザーのパスワードを再度入力します。このフィールドは必須です。
9. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして追加を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして追加適用後に *Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。

ユーザーの削除

ユーザーの削除は、管理者のみ行うことができます。

1. メニューバーの**Administration（管理）**をクリックした後、**Users…（ユーザー）**を選択します。
2. *Setup（セットアップ）ウィンドウ*が、ユーザータブ上にアクティブなユーザーのリストを、追加された順番に表示します。
3. リストから削除するユーザーをクリックします。何らかのシステムコンポーネント（アッセイキット、検体、検査）を定義したことのあるユーザーは削除することができません。ユーザーは自分を削除することはできません。
4. **[Delete（削除）]**ボタンをクリックします。
5. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして削除を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして削除適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。

ユーザーの非表示

ユーザーの非表示は、管理者のみ行うことができます。現在3M 分子検出ソフトウェアを使用していないユーザーで、過去に何らかのシステムコンポーネント（アッセイキット、検体、検査）を定義したことのあるユーザーは非表示になければなりません。ユーザーを非表示にすると、ユーザー名リストにユーザー名は表示されなくなりますが、当該ユーザーはデータベースに残ります。このようにすることによって、アクティブなユーザーを管理することができる一方で、履歴データの完全性が保たれます。

1. メニューバーの**Administration（管理）**をクリックした後、**Users…（ユーザー）**を選択します。
2. *Setup（セットアップ）ウィンドウ*が、ユーザータブ上にアクティブなユーザーのリストを、追加された順番に表示します。非表示にするユーザーをクリックします。
3. **[Hide（非表示）]**ボタンをクリックします。
4. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして削除を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして削除適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。

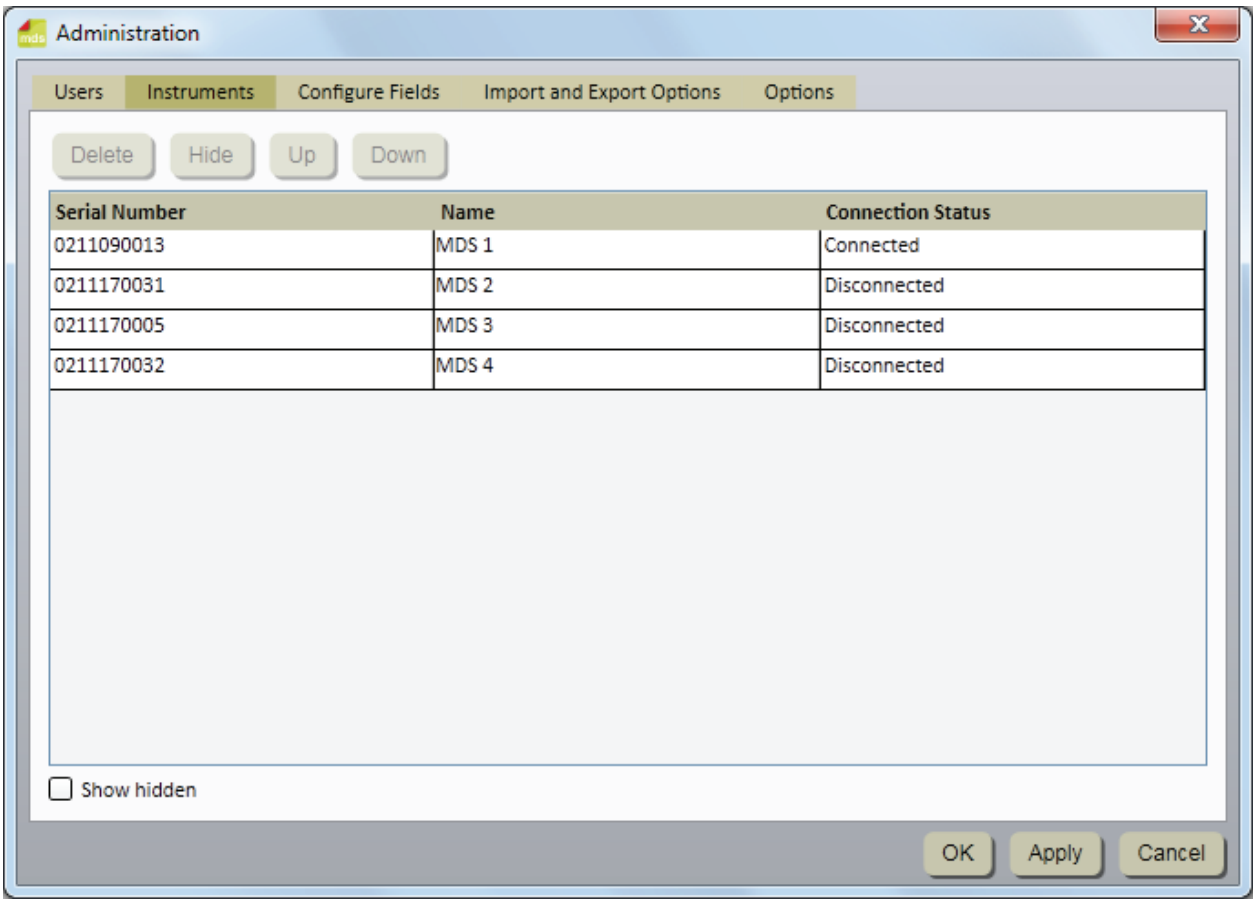
パスワードの変更

1. メニューバーの**[Administration（管理）]**をクリックした後、**Change Password…（パスワードの変更）**を選択します。
2. *Change Password（パスワードの変更）*ウィンドウが現在のユーザーを表示します。
3. Current Password（現在のパスワード）フィールドにユーザーの現在のパスワードを入力します。
4. New Password（新しいパスワード）フィールドにユーザーの新しいパスワードを入力します。
5. Confirm Password（パスワードの確認）フィールドにユーザーの新しいパスワードを再度入力します。
6. New Password（新しいパスワード）フィールドに入力されたパスワードとConfirm Password（確認用パスワード）に入力されたパスワードは一致している必要があります。一致していない場合は、エラーメッセージが表示されます。パスワードには大文字と小文字の区別があります。パスワードは入力する際、*****と表示されます。
7. **[OK]**ボタンをクリックして、変更を適用します。

ユーザーの表示

1. メニューバーの**[Administration（管理）]**をクリックした後、**Users…（ユーザー）**を選択します。
2. *Setup（セットアップ）*ウィンドウが、ユーザータブ上にアクティブなユーザーのリストを、追加された順番に表示します。再表示チェックボックスをクリックして、アクティブユーザーに加えてすべての非表示ユーザーを表示します。
3. 表示するユーザーをクリックします。

装置



装置ウィンドウ

装置の追加

3M 分子検出ソフトウェアは起動時に、電源が入っていて、USBケーブルでコンピュータと接続されている装置を自動的に検出します。また、ソフトウェアは、装置の電源を入れたり、USBケーブルで装置とコンピュータを接続した時にも自動的に装置を検出します。

1. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**装置…**を選択します。*Administration（管理）*ウィンドウの装置タブ上に、自動的に検出された装置がすべて表示されます。
2. 3M 分子検出ソフトウェアは最大4台の装置を検出、管理します。最大数の装置に対応するためにUSBハブが必要になる場合があります。
3. 3M 分子検出ソフトウェアが装置を検出すると、対象の装置からシリアル番号を収集し、シリアル番号フィールドに保存します。装置のシリアル番号を変更することはできません。
4. また、3M 分子検出ソフトウェアはシリアル番号をデフォルトの装置名としても使用します。装置名は、装置の詳細（最初は空欄）と共に変更が可能です。装置名および詳細はフリーフォーマットテキストで入力可能です。
5. 3M 分子検出ソフトウェアは、装置を検出した際に、対象の装置を自動的に初期化します。検出の順番は、インストールされているMicrosoft Windowsのオペレーションシステムが決定します。特定のUSBポートと関連するとは限りません。初期化は以下のステップで行われます。
    - 装置間でUSB通信を確立します。
    - 装置のロックを解除する
    - 装置上で基本的な診断テストを実行する
    - 実行中の試験を終了する
    - 装置のヒーターを作動させる

6. 装置のステータスバーには、*装置*リストの中の最初の4台だけが表示されます。表示されるこれらの最初の4台は、その時点で3M 分子検出ソフトウェアと接続されている4台である場合もありますし、そうでない場合もあります。

装置名の決定

装置の編集は、管理者のみ行うことができます。

1. メニューバーの**[Administration（管理）]**をクリックした後、**Instruments…（装置）を選択します。**
2. *管理*ウィンドウの「装置」）タブ上に、自動的に検出された装置がすべて表示されます。
3. 名前を変更する装置をクリックします。
4. 名前フィールドに装置名を入力します。装置名はフリーフォーマットテキストで入力可能です。装置のシリアル番号を変更することはできません。
5. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして名前を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして名前適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。

装置の非表示

装置の非表示は、管理者のみ行うことができます。現在3M 分子検出ソフトウェアで使われていない装置で、過去に1度でも使用された事のある装置は非表示にしてください。該当の装置を非表示にすると、装置名リストに装置名は表示されなくなりますが、当該装置はデータベースに残ります。このようにすることで、アクティブな装置を管理することができる一方で、履歴データの完全性が保たれます。

1. メニューバーの**[Administration（管理）]**をクリックした後、**Instruments…（装置）を選択します。**
2. *Administration（管理）ウィンドウ*の装置タブ上に、自動的に検出された装置がすべて表示されます。
3. 非表示にする装置をクリックします。
4. **[Hide（非表示）]**ボタンをクリックして、装置を非表示にします。
5. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして変更を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして変更適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。

装置の順番の変更

装置の順番の変更は管理者のみ行うことができます。

1. メニューバーの**[Administration（管理）]**をクリックした後、**Instruments…（装置）を選択します。**
2. *Administration（管理）*ウィンドウの装置タブ上に、自動的に検出された装置がすべて表示されます。
3. リスト内の別の場所へ移動する装置をクリックします。
4. **[Up（上へ）]**ボタンをクリックして、選択した装置を上方向へ一段移動するか、**[Down（下へ）]**ボタンをクリックして、選択した装置をリストの下方向へ一段移動させます。
5. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして変更を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして変更適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。
6. 装置のステータスバーには、装置タブの中の接続中の最初の4台だけが表示されます。

装置の削除

装置の削除は、管理者のみ行うことができます。

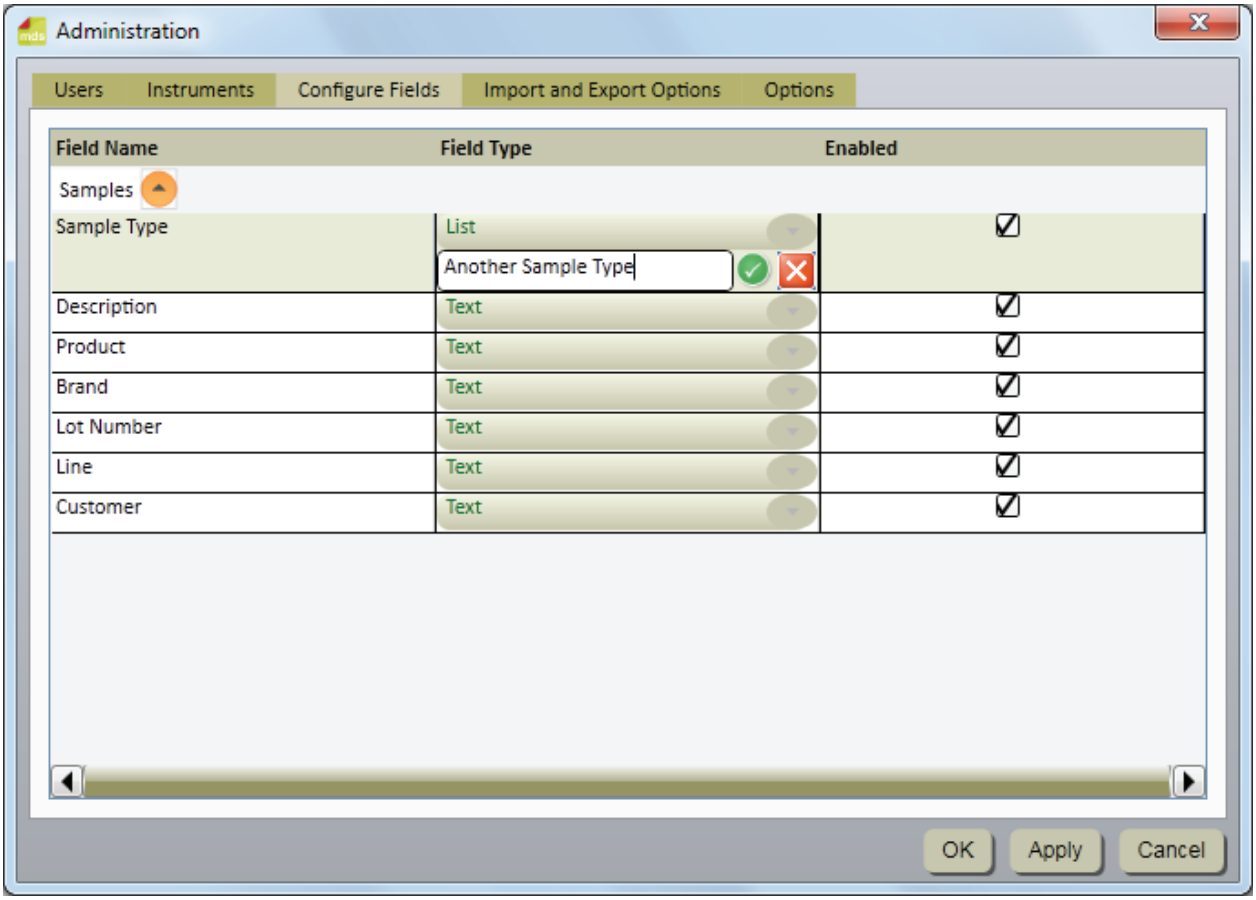
1. メニューバーの**[Administration（管理）]**をクリックした後、**Instruments…（装置）を選択します。**
2. *Administration（管理）*ウィンドウの装置タブ上に、自動的に検出された装置がすべて表示されます。
3. リストから削除する装置をクリックします。アクティブになっている装置、過去に1度でも使用されたことのある装置は削除することができません。
4. **[Delete（削除）]**ボタンをクリックします。
5. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして削除を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして削除適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。

装置の表示

この操作はどの権限のユーザーも行うことができます。

1. メニューバーの**[Administration（管理）]**をクリックした後、**Instruments…（装置）を選択します。**
2. *Administration（管理）*ウィンドウの装置タブ上に、自動的に検出された装置がすべて表示されます。再表示チェックボックスをクリックして、非表示の装置をすべて表示します。装置のステータスバーには、装置タブの中の接続中の最初の4台だけが表示されます。

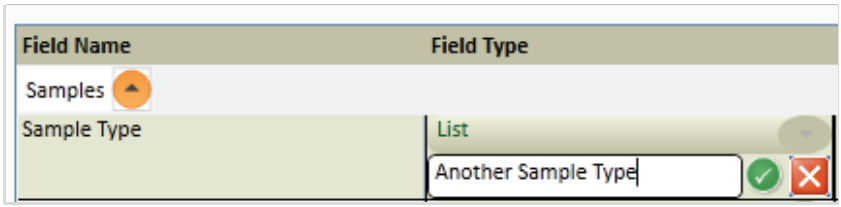
フィールドの設定



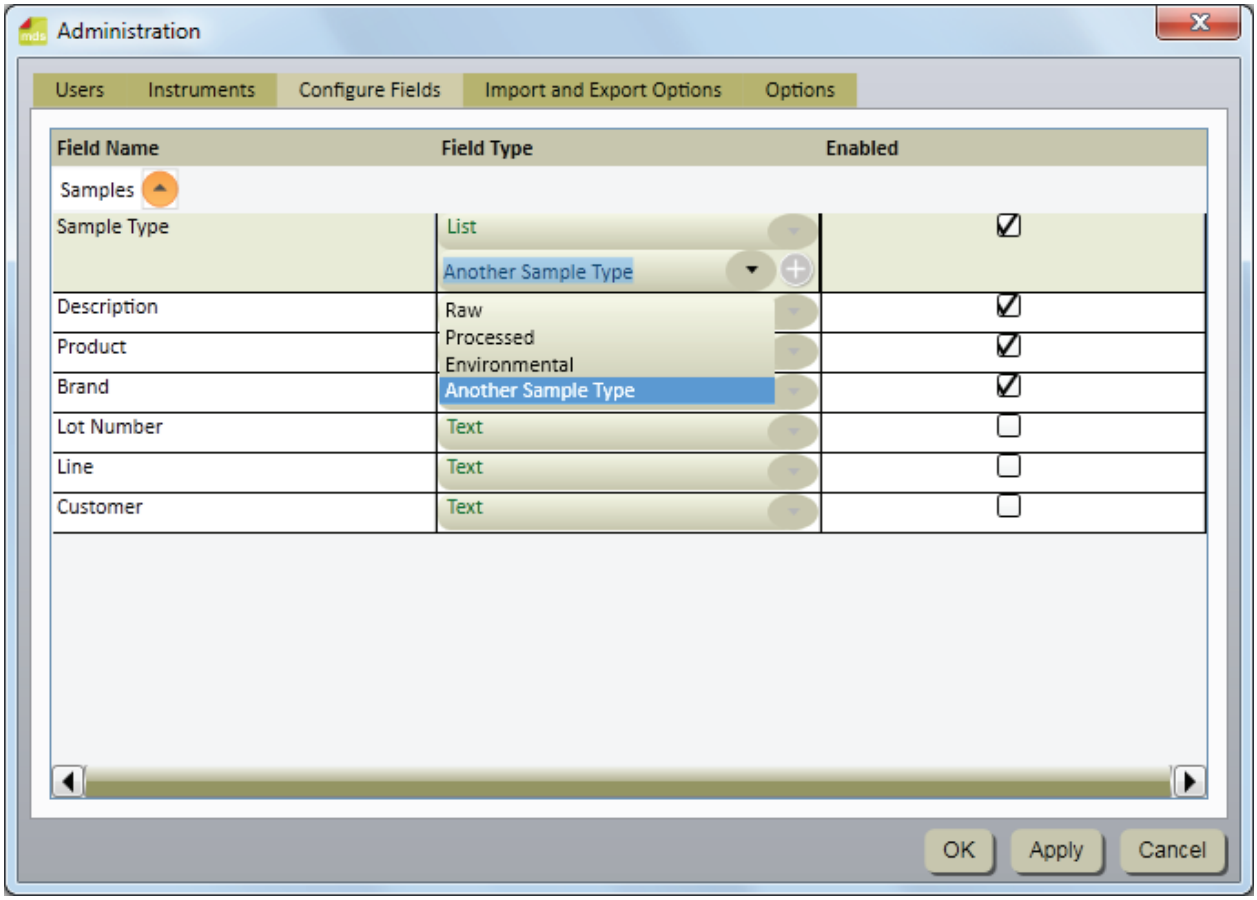
フィールドの設定は、管理者のみ行うことができます。

1. 3M 分子検出ソフトウェアでは、ユーザーが定義可能な検体用フィールドが7つ用意されています。ソフトウェアのインストール中に7つの検体用フィールド（カラムヘッダー）を定義してください。
   - インストール中に定義したフィールド名やフィールドタイプは後で変更することができません。
   - フィールドタイプリストの値や可能チェックボックスは、インストール後も変更可能です。
2. メニューバーの**[Administration（管理）]**をクリックした後、**Configure Fields…（フィールドの設定）を選択します。**
3. *Configure Fields（フィールドの設定）*タブ上に、現在のフィールド名、フィールドタイプ、フィールドを有効化するチェックボックスが表示されます。
4. リストのフィールドタイプには、以下の通り新しい値を追加することができます。
   a. ドロップダウンリストの隣にある記号をクリックします。
   b. 図21に図示した通り、リスト用の新しい値を入力します。新しい値はフリーフォーマットのテキスト入力です。
   c. **[Enter]**キーを押すか、記号をクリックします。
   d. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして追加を適用するか、**[OK]** ボタンをクリックして追加適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。
5. リストのフィールドタイプからは値を削除することはできません。

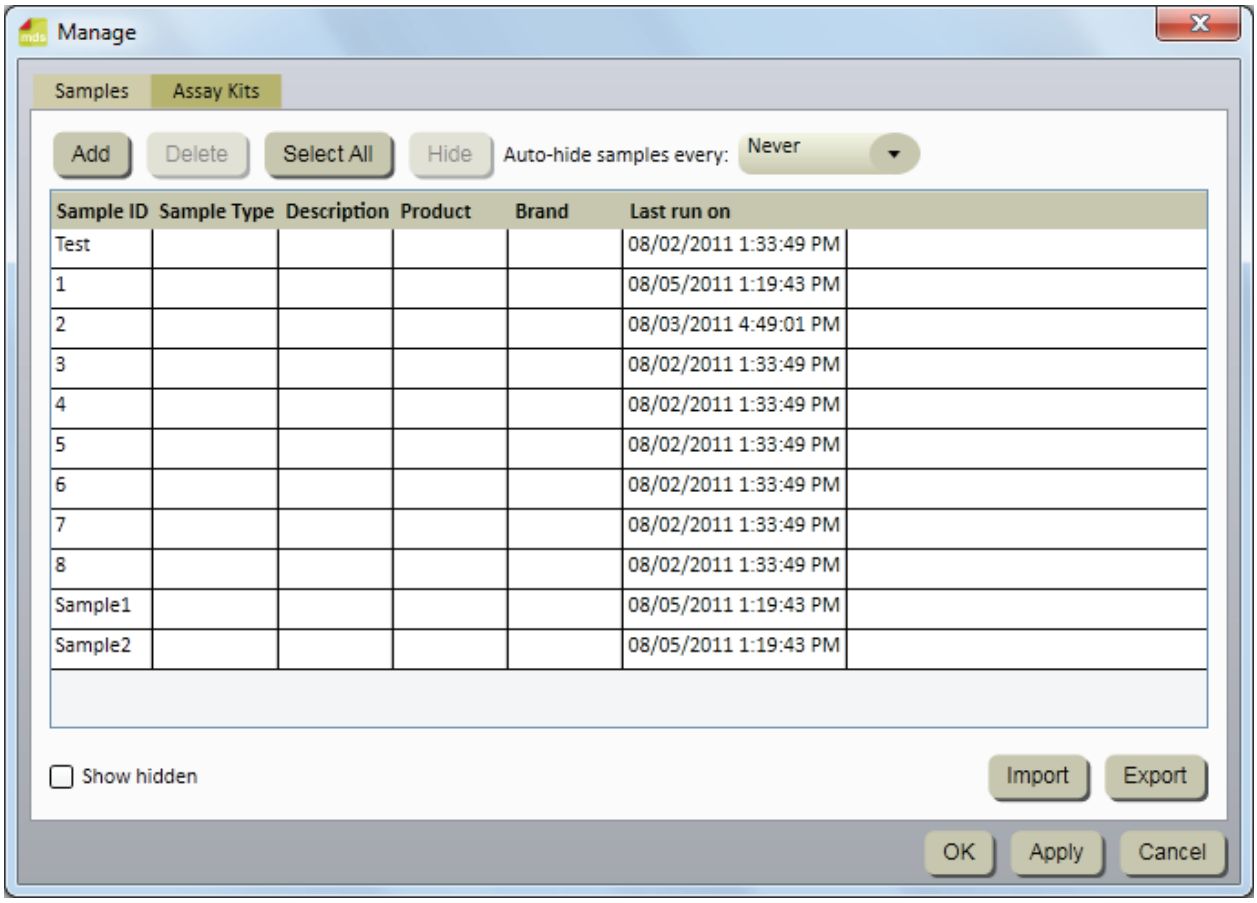
6. フィールド名は Setup（セットアップ）ウィンドウの検体タブ上に表示することもできますし、非表示にすることもできます。
   a. フィールド名の表示／非表示設定は、使用可能の列のチェックボックスをクリックするだけで変更できます。(☑ ☐)
   b. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして変更を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして変更適用後に*Start Page（スタートページ）ウィンドウに戻ります。*
7. フィールド設定の一例を下図に示します。この例では、検体タイプドロップダウンリストに「その他の検体タイプ」が追加されます。使用可能になっていないフィールドは、検体 (Sample) ウィンドウでは非表示になっていることを確認してください。



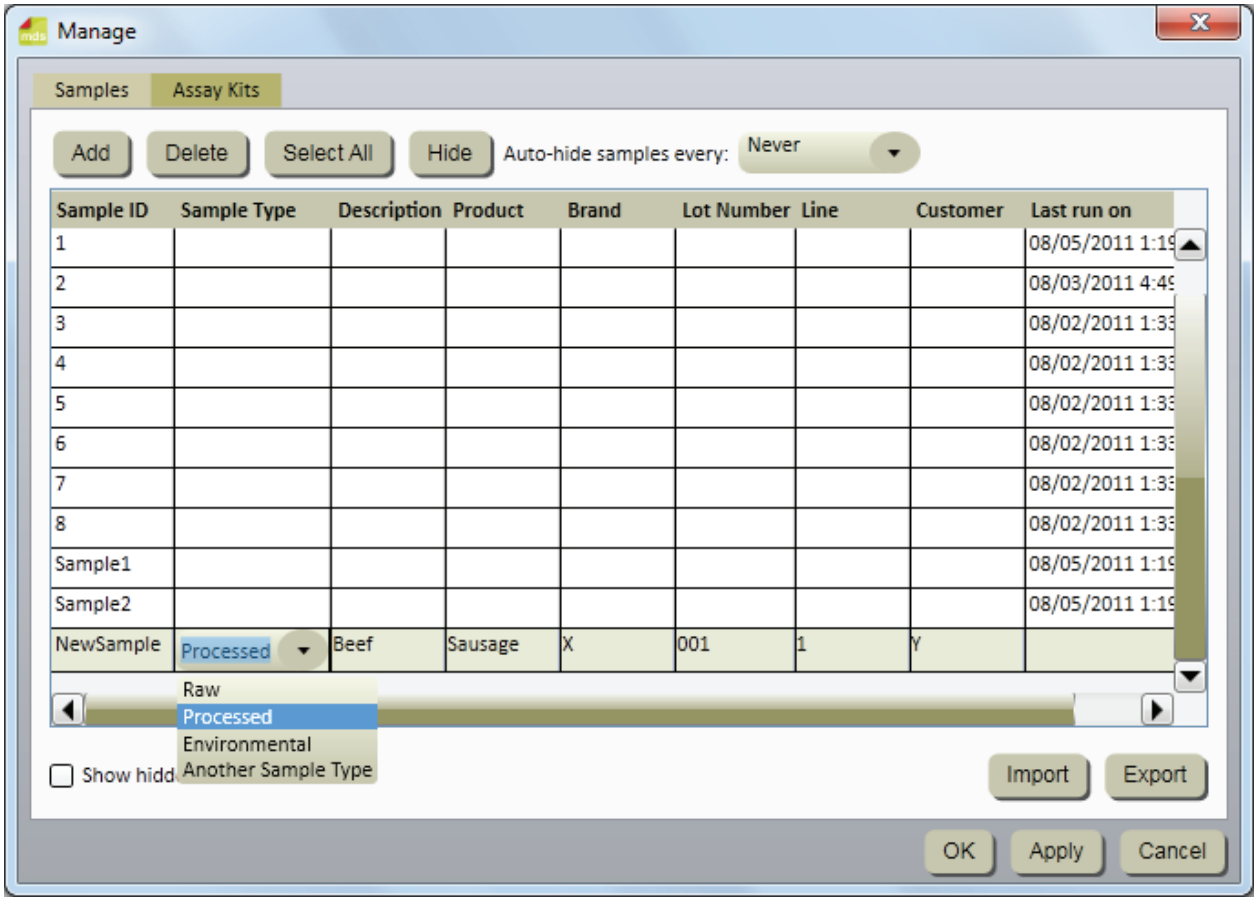
リストへの新しい値の追加



新しい検体タイプと使用不可能なフィールド



*フィールドの変更が検体セットアップタブ**検体 (Samples)** に影響します。*



検体ウィンドウ

検体の追加

1. 検体とは、病原菌の存在をテストする食品または環境の検体をいいます。
2. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**検体…を選択します。**または、サイドバーの**Manage Samples（検体の管理）**を選択するか、*Manage（管理）*ウィンドウが既に開いている場合は、**Samples（検体）**タブを選択します。また、検体情報をインポートすることもできます。検体のインポート／エクスポートに関する詳細は、本マニュアルの該当項目を参照してください。
3. *Setup（セットアップ）*ウィンドウが、検体タブに、各検体IDのカスタムフィールド値と共に現在の検体IDのリストを表示します。
4. **Add（追加）**ボタンをクリックして、検体IDリストの下に新しい行を追加します。
5. 新しい行の**Sample ID（検体ID）**の列に新しい検体IDを入力します。検体IDは必須入力項目で、固有である必要があります。
6. 新しい行の各カスタムフィールドにカスタムフィールド用の値を入力します。カスタムフィールドはオプションです。検体のタイプフィールドはリストフィールドで、その他のカスタムフィールドはテキストフィールドです。
7. **[適用]**ボタンをクリックして追加を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして追加適用後に*Start Page*（スタートページ）ウィンドウに戻ります。

検体の修正

検体の管理は、管理者のみ行うことができます。検体の修正は、その検体がランでまったく使用されたことのない場合に限り可能です。

1. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**検体…**を選択します。または、サイドバーの**Manage Samples（検体の管理）**を選択するか、*Manage（管理）*ウィンドウが既に開いている場合は、**Samples（検体）**タブを選択します。
2. *Setup（セットアップ）*ウィンドウが、検体タブに、各検体IDのカスタムフィールド値と共に現在の検体IDのリストを表示します。
3. 修正するフィールド（検体ID（Sample ID）、検体のタイプ（Sample Type）、カスタムフィールド）をクリックします。必要に応じて、スクロールバーを使用して追加検体を表示してください。
4. 修正するフィールドに修正を加えます。検体IDは必須入力項目で、固有である必要があります。カスタムフィールドはオプションです。検体のタイプフィールドはリストフィールドで、その他のカスタムフィールドはテキストフィールドです。
5. **[適用]**ボタンをクリックして変更を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして変更適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。

検体の削除

検体の管理は、管理者のみ行うことができます。検体の削除は、その検体が検査でまったく使用されたことのない場合に限り可能です。

1. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**検体…**を選択します。または、サイドバーの**Manage Samples（検体の管理）**を選択するか、*Manage（管理）*ウィンドウが既に開いている場合は、**Samples（検体）**タブを選択します。
2. Administration（管理）ウィンドウが、検体タブに、各検体IDのカスタムフィールド値と共に現在の検体IDのリストを表示します。
3. 削除する検体IDをクリックします。必要に応じて、スクロールバーを使用して追加検体を表示してください。ランで使用されたことがある検体IDは削除しないでください。現在必要のない検体IDを非表示にします。検体の非表示に関する詳細は、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
4. **Delete（削除）**ボタンを選択して、選択した検体IDを削除します。
5. **[適用]**ボタンをクリックして削除を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして削除適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。

検体の非表示

検体の管理は、管理者のみ行うことができます。現在その検体IDを試験していない場合や、画面上に表示される検体IDの数を最小限にする場合に検体IDを非表示にします。現在使用していない検体IDで、予備検査で1度も使用したことのない検体IDの場合は削除します。検体の削除に関する詳細は、本マニュアルの該当項目を参照してください。

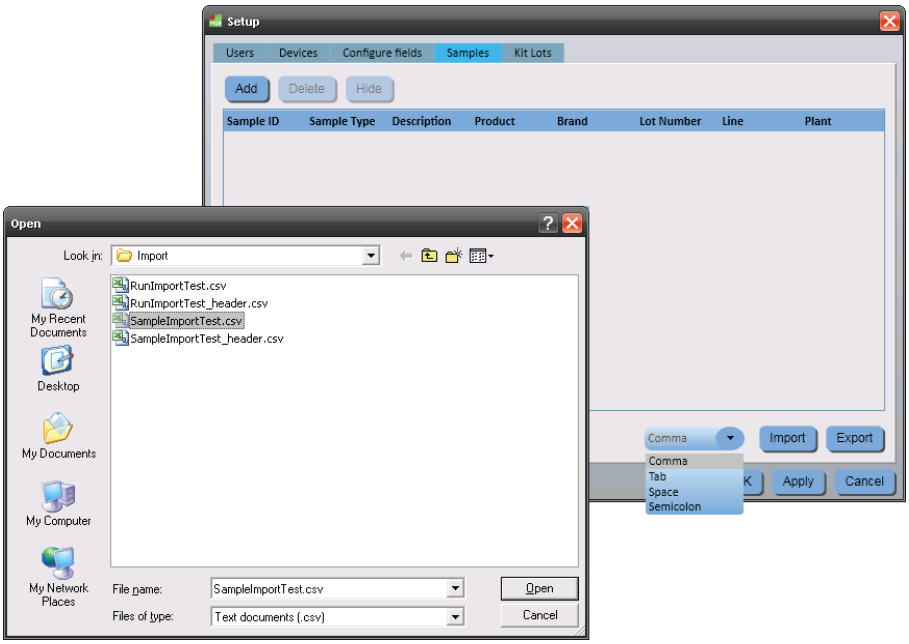
1. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**検体…**を選択します。または、サイドバーの**Manage Samples（検体の管理）**を選択するか、*Manage（管理）*ウィンドウが既に開いている場合は、**Samples（検体）**タブを選択します。
2. Administration（管理）ウィンドウが、検体タブに、各検体IDのカスタムフィールド値と共に現在の検体IDのリストを表示します。

3. 非表示にする検体IDをクリックします。必要に応じて、スクロールバーを使用して追加検体を表示してください。キーボードの[Shift]キーを押しながら別の検体IDをクリックすると、両方の検体IDとその間の検体IDがすべて非表示になります。また、キーボードの[Ctrl]キーを押しながら、複数の検体IDを選択すると、複数の検体IDが非表示になります。
4. **Hide（非表示）**ボタンを選択して、選択した検体IDを削除します。
5. **[適用]**ボタンをクリックして変更を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして変更適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。
6. 過去に使われたことのある検体IDで、一定期間使用されていない検体IDを自動的に非表示にすることもできます。ドロップダウンメニュー毎にAuto-hide samples（検体の自動非表示）を使用して、非表示にするまでの期間を選択します。例えば、Monthly（毎月）を選択すると、最後に使用されたのが1カ月前の検体が自動的に非表示になります。
7. Show Hidden（再表示オプション）を選択して、非表示に設定されていない検体IDと同様に、非表示に設定されている検体IDを表示します。

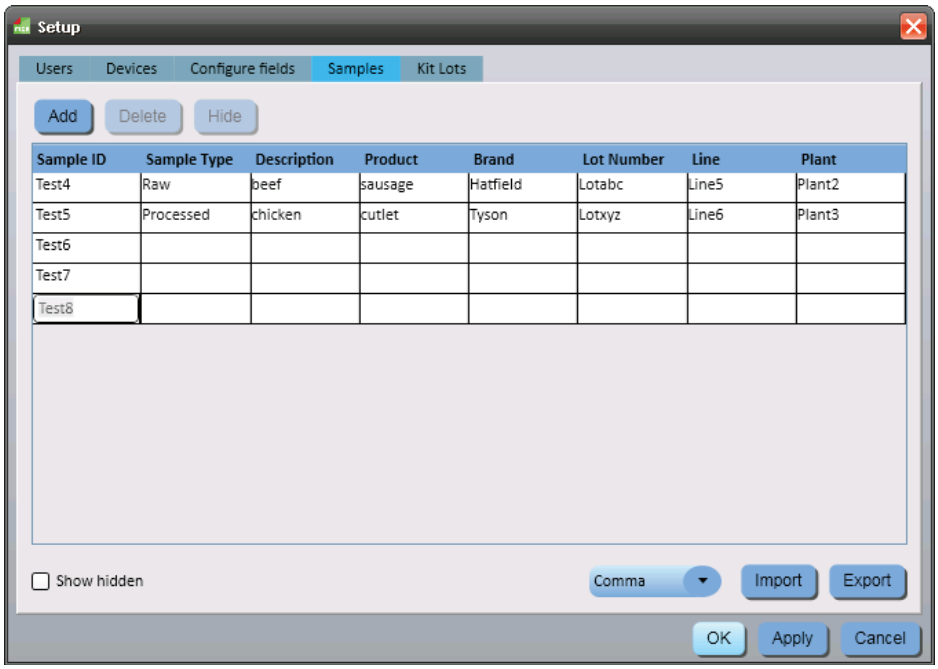
検体のインポート

1. カンマ区切りフォーマット（.CSV）ファイルなどの区切りデータファイルから検体IDとカスタムフィールド用の対応する値をインポートすることができます。
   検体IDをLIMSや他のシステムから3M 病原菌検出システムへエクスポートできる場合は、この機能を使用します。
2. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**検体*(Sample)*…**を選択します。検体の管理は、管理者のみ行うことができます。または、サイドバーの**Manage Samples（検体の管理）**を選択するか、*Setup（セットアップ）*ウィンドウが既に開いている場合は、**Samples（検体）**タブを選択します。
3. 検体タブ状に、各検体IDのカスタムフィールド値と共に現在の検体IDのリストが表示されます。
4. デフォルトのファイルタイプはカンマ区切り（.CSV）ファイルです。その他のファイルタイプや区切り記号を選択することもできます。ファイルフォーマットのインポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当項目を参照してください。
   - デフォルトでは、最初の行がファイル名を含むヘッダー行になります。この点はImport and Export Options（インポート／エクスポートオプション）で変更することができます。インポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
   - 検体のインポートファイルのフィールドの順番は、*セットアップ*ウィンドウの**検体**タブのフィールドの順番と同じである必要があります。
   - 検体IDは必須入力項目で、固有である必要があります。
   - リストフィールドにインポートされる検体インポートファイルのデータは、リストフィールドの選択肢の1つと同じである必要があります。例えば、検体タイプは未加工、加工、環境、ないしは新たに定義された検体タイプの1つである必要があります。
   - デフォルトのインポートフォルダは、Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）を使用して決定します。インポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。

5. **[Import（インポート）]**ボタンをクリックします。インポートフォルダ内にインポートフォルダが1つだけ存在している場合は、そのファイルが自動的にインポートされます。複数のファイルが存在しているか、1つも存在していない場合は、ファイルを開くウィンドウが表示されます。インポートするファイルを指定し、ファイル名をダブルクリックします。



6. インポート後、*Sample（検体）*タブ上にインポートされた検体の定義が表示されます。3M 分子検出ソフトウェアが検体IDリストの最後に新しい行を作成し、インポートファイルの内容を新しい行に追加します。
7. **OK**ボタン、または**[Apply（適用）]**ボタンをクリックして、検体の定義を保存します。

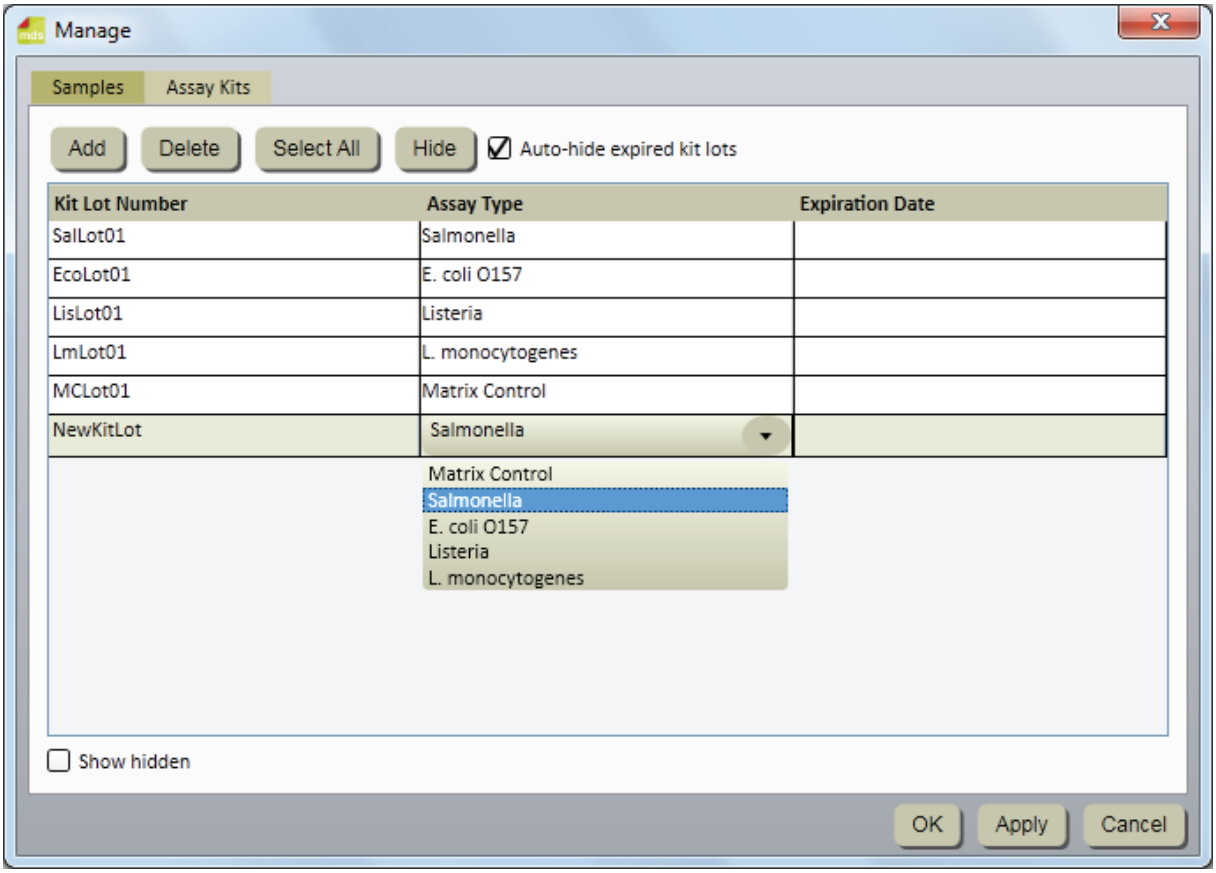


データインポート後の検体ウィンドウ

検体の転送

1. カンマ区切りフォーマット（.CSV）ファイルなどの区切りデータファイル形式で、検体IDとカスタムフィールド用の対応する値をエクスポートすることができます。検体IDを3M 病原菌検出システムからLIMSや他のシステムへインポートできる場合は、この機能を使用します。
2. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**検体...**を選択します。または、サイドバーの**Manage Samples（検体の管理）**を選択するか、**Manage（管理）**ウィンドウが既に開いている場合は、**Samples（検体）**タブを選択します。検体情報をインポートすることもできます。検体のインポートに関する詳細は、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
3. *Setup（セットアップ）*ウィンドウが、検体タブに、各検体IDのカスタムフィールド値と共に現在の検体IDのリストを表示します。
4. **[Export（エクスポート）]**ボタンをクリックします。Save As（名前をつけて保存）ウィンドウが表示されたら、ファイルをエクスポートするフォルダを指定します。デフォルトのエクスポートフォルダは、Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）を使用して決定します。インポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
5. **[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

アッセイキット



アッセイキットウィンドウ

アッセイキットの追加

1. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**Assay Kits...（アッセイキット）を選択します**または、サイドバーを使うか、**Manage（管理）]**ウィンドウが既に開いている場合はAssay Kits（アッセイキット）タブをクリックします。
2. アッセイキットタブに、アッセイキットの現在のリストが、追加された順番に表示されます。
3. **[Add（追加）]**ボタンをクリックして、新規アッセイキットを追加します。
4. Kit Lot Number（キットのロット番号）フィールドにキットのロット番号を入力します。このフィールドは必須入力フィールドで、各キットのロット番号は固有の番号である必要があります。ロット番号とは、3M 分子検出アッセイキットに印字されている3M 社の製造ロット特定番号です。アッセイキットと検体を組み合わせて、ラボでの検体受付から、予備検査、最終のテスト結果の表示まで、ワークフローを通して検体を追跡することができます。

5. Assay Type（アッセイタイプ）ドロップダウンメニューを使用して、アッセイのタイプを選択します。このフィールドは必須です。キットのラベルに示された4種類の対象病原菌のうちの1つか、マトリックスコントロールを選択します。
    - マトリックスコントロール
    - *サルモネラ*
    - *大腸菌*O157
    - *リステリア*
    - *リステリア・モノサイトゲネス*
6. Expiration Date（使用期限）フィールドに新しいアッセイキットの使用期限を入力します。入力形式は YYYY-MM-DD（XXXX年XX月XX日）で入力するか、日付を選択します。このフィールドは必須ではありません。
7. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして追加を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして追加適用後に*Start Page（スタートページ）ウィンドウに戻ります。*

アッセイキットの削除

1. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**Assay Kits…（アッセイキット）**を選択します。または、サイドバーを使うか、**[Manage（管理）]**ウィンドウが既に開いている場合はAssay Kits（アッセイキット）タブをクリックします。
2. Assay Kits（アッセイキット）タブに、アッセイキットの現在のリストが、追加された順番に表示されます。
3. リストから削除するKit Lot Number（キットロット番号）をクリックします。アクティブになっているキットのロット番号、または過去に1度でも使用されたことのあるキットのロット番号は削除することができません。
4. **[Remove（削除）]**ボタンをクリックします。
5. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして削除を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして削除適用後に*スタートページウィンドウに戻ります。*

アッセイキットの非表示

1. 現在3M 分子検出ソフトウェアで使用していないアッセイキットは、非表示にすることをお勧めします。アッセイキット番号を非表示にすると、Assay Kit（アッセイキット）番号リストに番号は表示されなくなりますが、当該キットはデータベースに残されます。こうすることで、アクティブなキットのロット番号を管理することができる一方で、履歴データの完全性が保たれます。
2. メニューバーの**[Manage（管理）]**をクリックした後、**アッセイキット…**を選択します。
3. Assay Kits（アッセイキット）タブに、アッセイキットの現在のリストが、追加された順番に表示されます。
4. 非表示にするKit Lot Number（キットロット番号）をクリックします。
5. **[Hide（非表示）]**ボタンをクリックして、アッセイキット番号を非表示にします。
6. **[Apply（適用）]**ボタンをクリックして変更を適用するか、**[OK]**ボタンをクリックして変更適用後に*Start Page（スタートページ）*ウィンドウに戻ります。
7. Auto-hide expired lots（使用期限の切れたロットの自動非表示）を選択すると、使用期限の切れたキットを自動的に非表示にすることができます。使用期限の切れたロットは、アプリケーション再起動時あるいは、キットの使用期限当日の深夜のうちいずれか早い時点で、自動的に非表示になります。
8. 非表示のアッセイキットは、「Show hidden（再表示）」チェックボックスを選択すると表示することができます。

ランの実行

新しいランのセットアップ

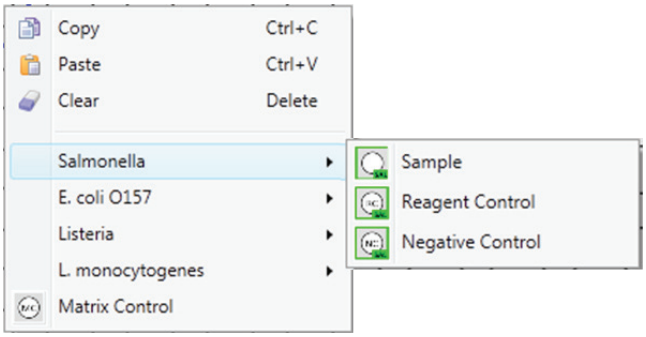
1. デスクトップの mds アイコンを使用して3M 分子検出ソフトウェアを起動します。
2. ユーザー名とパスワードを入力してログインします。
3. 新しい検査をセットアップするには、メニューバーの**File（ファイル）**を選択し、**NewRun（新しい検査）**を選択します。または、Start Page（スタートページ）のSetup New Run（新しい検査のセットアップ）アイコンの隣にある**Setup New Run（新しい検査のセットアップ）** をクリックするか、サイドバーの**Setup New Run（新しい検査のセットアップ）**アイコンの隣のSetup New Run（新しい検査のセットアップ） をクリックして、新しい検査を開始します。
4. 検査の定義は、グリッドビュー、リストビュー、データのインポート経由などさまざまな方法で行うことができます。これらの方法は以下のサブ項目でご紹介します。ランのインポートに関する詳細は、本マニュアルの該当項目を参照してください。
5. 3M 分子検出ソフトウェアは、ソフトウェアのインストールプロセスで検査ID用に選択されたテンプレートに基づいて自動的に検査IDを割り振ります。検査IDの修正は、**Run ID（検査ID）**フィールドをクリックして、自動的に割り振られた検査IDを修正して行います。検査IDは固有である必要があります。
6. Technician（技術者）ドロップダウンメニューを使用して、新規検査を定義するユーザーを選択します。その時ログインしているユーザーはデフォルトの技術者となります。
7. **コメント(Comment)**フィールドをクリックして、任意のランコメントを入力することができます。
8. *セットアップ（グリッド）*ビューのグリッドを使用して、これらの方法のいずれか、またはすべてを用いて新しいラン用のウェルを選択します。
    - 1つのウェルをクリックして、96ウェルグリッド表示の中の1つのウェルを選択します。
    - 複数の隣り合わないウェルを選択する場合は、キーボードの**[Ctrl]**キーを押しながら複数のウェルをクリックして選択します。
    - 連続したウェルを列で選択する場合は、最初のウェルをクリックした後にキーボードの**[Shift]**キーを押しながら、最後のウェルをクリックします。
    - また、クリック&ドラッグで複数の隣り合うウェルを選択することもできます。
    - ランに使用しないウェルは選択しないでください。

3M 分子検出ソフトウェアが、選択されたウェルを青い線で強調表示します。

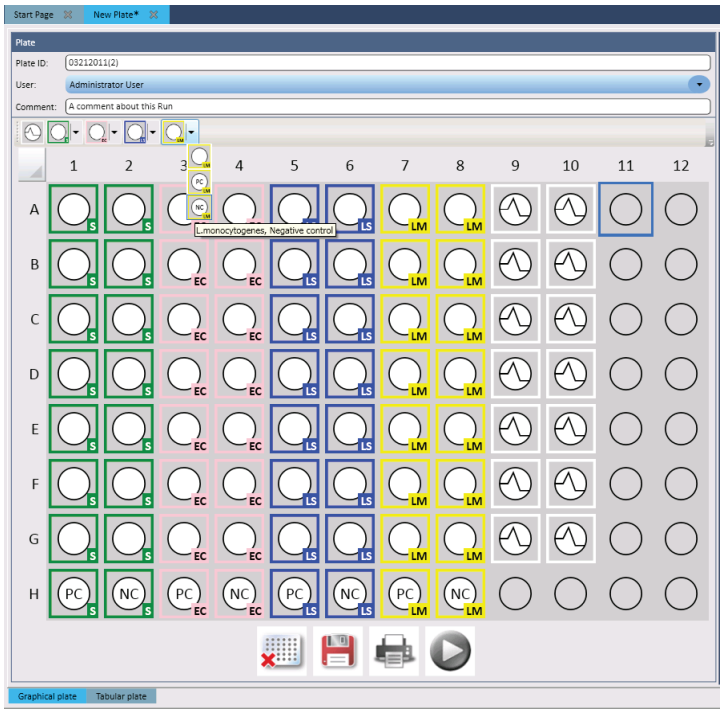
9. グリッド上部の適切な色のドロップダウンメニューをクリックして、強調表示されたウェルに使用する**Assay Type（アッセイタイプ）**を選択します。ドロップダウンメニューから適切なWell Type（ウェルタイプ）を選択して、強調表示されたウェル用のウェルタイプを選択します。組み合わせ可能なアッセイタイプとウェルタイプの一覧は以下の通りです。

	ウェルタイプ		
	検体	陽性コントロール	陰性コントロール
アッセイタイプ			
サルモネラ	SAL	RC SAL	NC SAL
大腸菌 O157（H7含む）	ECO	RC ECO	NC ECO
リステリア	LIS	RC LIS	NC LIS
L. モノサイトゲネス	LM	RC LM	NC LM
マトリックスコントロール		MC	
スペック外		SAL	

また、セル部分を右クリックし、メニューを使用してアッセイタイプおよびウェルタイプを選択することもできます。



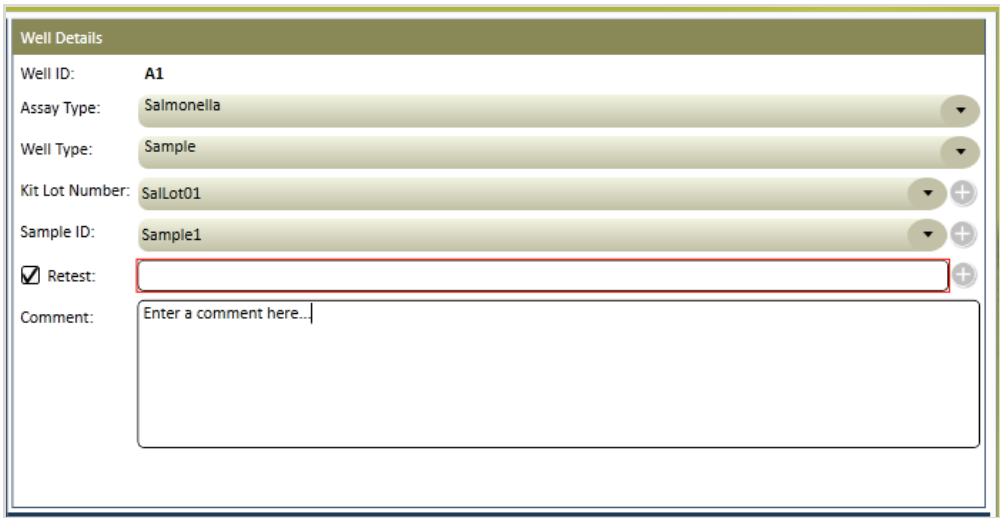
10. 検査に使用するアッセイタイプおよびウェルタイプをすべて定義するまで、ステップ8と9を繰り返します。以下のスクリーンショットは、定義が完了した新しいランの一例です。タブのタイトルとして新しいランIDが表示され、アスタリスク（*）表示は、最終保存後にランの定義が変更されていることを示します。



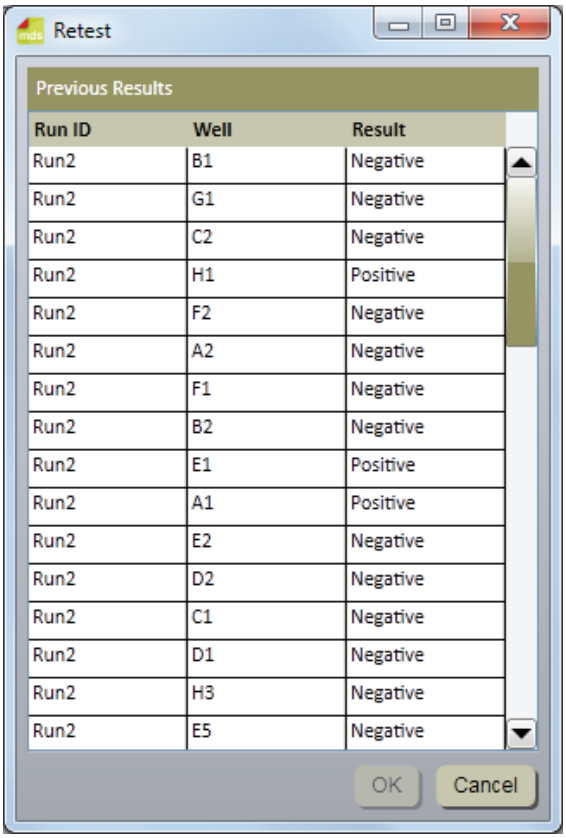
11. Well Details（ウェルの詳細）ペインに**Kit Lot Number（キットのロット番号）**を入力します。Well Details（ウェルの詳細）ペインの**Well ID（ウェルID）**フィールドは、どのウェルが選択され、キットのロット番号を受け取るかを示します。
    - **Kit Lot Number（キットのロット番号）**フィールド（白）にロット番号を入力した後、をクリックするか、**[Enter]**を押して入力内容を保存します。
    - 事前に設定されたキットのロット番号を選択するには、をクリックしてドロップダウンリスト（青）に変更し、リストからIDを選択します。このフィールドが青色になっている場合は、新しい値を入力することができません。
12. ウェルの詳細の枠に**検体ID**を入力します。
    - **Sample ID（検体ID）**フィールド（白）に検体IDを入力した後、をクリックするか、**[Enter]**を押して入力内容を保存します。
    - 事前に設定された検体IDを選択するには、をクリックしてドロップダウンリスト（青）に変更し、リストからIDを選択します。このフィールドが青色になっている場合は、新しい値を入力することができません。

    注：検体IDは陽性コントロールと陰性コントロールには割り振ることができません。

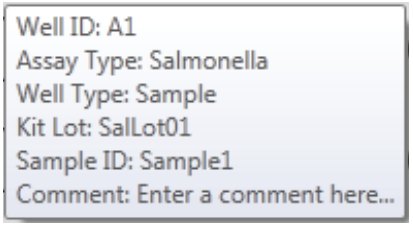
13. 基質コントロールをお使いの場合は、検体と基質コントロールの両方に同じ検体IDを割り振って、検体と基質コントロールを関連づけます。この関連づけは、検体の結果が基質コントロールの結果に依存する原因となります。1つのマトリックスコントロールを複数の検体ウェルに関連付けることもできます。しかし、すべてのウェルが同じ検体IDである必要があります。個々のウェルは、検体の追跡に使用できる個別のコード（A1、A2等）があります。ウェルをさらに識別するには、それぞれにコメントを入力します。コメントはラン結果および結果のエクスポートファイルに表示されます。ラン結果の表示に関しては、本マニュアルの該当項目を参照してください。
14. ウェル内に以前の検体の再テストを含む場合、Well Details（ウェルの詳細）ペインの**Retest（再テスト）**オプションを選択します。追加アイコンをクリックして、再試験を行うランとそのウェルを選択します。



15. *Retest（再試験）*ウィンドウが表示されたら、再試験が行われているランとウェルを選択します。
16. **[OK]**ボタンをクリックします。



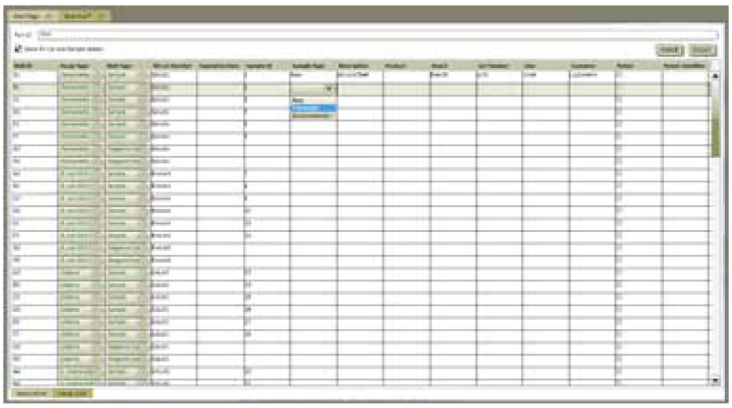
17. *ウェルの詳細*の枠を使用して、**Comment（コメント）**：フィールドにコメントを入力することもできます。
18. また、*Setup (Grid)（セットアップ（グリッド））*ペインで、1つのウェルの上にカーソルを合わせてウェルの詳細を表示することもでき、再テストを除くウェルの詳細情報がすべて表示されます。



19. ステップ11と12を繰り返して、残りのウェルのキットのロット番号と検体IDを入力します。使用しないウェル（灰色）は、ブランクのままにしておきます。
20. *セットアップ（グリッド）* 枠の下にある大きなアイコンは、ランの定義プロセスでよく使用する機能へのクイックアクセスになっています。

	有効	無効
クリア		
保存		
印刷		
ラン		

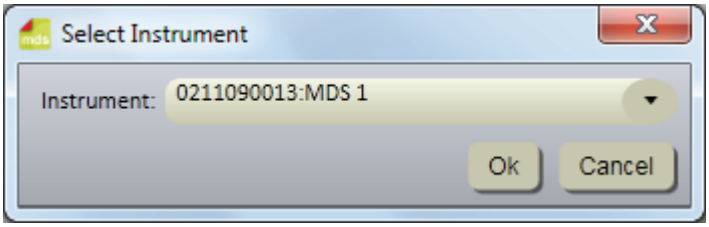
21. *セットアップ（リスト）* タブを使用して、96ウェルグリッドのグラフィックイメージ内に表示される記号とテキストの代わりに、表内に表示されるテキストだけを使用して新しいランを表示、定義することもできます。
22. 新しいランタブの下にある *セットアップ（リスト）* タブをクリックして、リストビューを表示します。リストビューでは、ウェルの位置で分類された表内のすべてのウェルの詳細が表示されます。各ウェルに関連したすべての情報が表示されます。この情報は *Setup (Grid)（セットアップ（グリッド））* タブ内の情報と同じものです。
23. **Show Kit lot and Sample details（キットロットと検体の詳細表示）** オプションを選択して、検体およびキットロットに関連するカスタムフィールドを表示します。
24. ウェルの定義は、フィールドをクリックして情報を入力するか、ドロップダウンメニューのクリックでオプションを選択して入力することができます。



25. 新しい検査の情報は、インポートボタンまたはエクスポートボタンをクリックしてインポートまたはエクスポートすることができます。ランのインポート／エクスポートに関する詳細は、本マニュアルの該当項目を参照してください。
26. すべての検体情報の入力が完了したら、**Save（保存）** をクリックして新しい検査を保存します。または、メニューバーのFile（ファイル）を選択した後、**Save Run（検査の保存）** を選択するか、キーボードの<CTRL>+sを使用して検査を保存します。

ランの開始

1. アッセイキットの製品情報の指示に従ってアッセイを行います。
ライシスステップが完了するまでは、スピードローダートレイ内に検体試薬チューブをセットしないでください。**アッセイのライシスステップ中に適切な熱処理を行っていない検体は、潜在的バイオハザードとみなされる場合があり、3M病原菌検出装置内には入れないでください。**溶解ステップで使用したヒートブロックが一定時間推奨温度に達していることをタイマーで確認すると共に、溶解ステップ中にヒートブロックの角の指定のウェル内に目盛りの付いた温度計が挿入されていることを確認します。
2. 設定済み検査を開始するには、メニューバーのFile（ファイル）を選択し、**Open Run（検査の開始）**を選択します。または、Start Page（スタートページ）あるいはサイドバーのStart Configured Runs（設定済み検査の開始）**アイコンの隣にある**Start Configured Runs（設定済み検査の開始）をクリックします。
3. 設定済み検査のリストが表示されたら、開始する設定済み検査を選択します。
4. 3M 分子検出ソフトウェが、Setup（Grid）（セットアップ（グリッド））タブとSetup（List）（セットアップ（リスト））タブを含む新しいタブ上に、選択された検査を表示します。
5. その検査には変更を加えることができます。変更箇所は、**Save（保存）**ボタンをクリックして保存します。また、メニューバーのFile（ファイル）をクリックした後、**Save Run（検査を保存）**を選択して変更を保存することもできます。
6. セットアップ（グリッド）ビューのスタートボタンをクリックします。
7. ドロップダウンリストから装置を選択します。ドロップダウンリストに表示される装置は、待機状態にあり、ランを実行することが可能です。装置選択後、**OK**ボタンをクリックします。



装置の選択ダイアログ

8. 選択された装置の蓋が自動的に開きます。
9. 3M スピードローダートレイを装置内に挿入し、装置の蓋を閉めて検査を開始します。
10. Results（Grid）（結果（グリッド））ビューのRun Details（検査詳細）セクションのヘッダーには、検査の詳細、プログレスバー、検査の残り時間が表示されます。ラン時間は75分です。
11. 実行中の検査を止める場合は、**[Abort（中止）]**ボタンをクリックします。確認ダイアログが表示されるので、**[Yes（はい）]**をクリックして検査を中止します。

新しいランのインポート

1. 新しい検査をセットアップするには、メニューバーのFile（ファイル）を選択し、**New Run（新しい検査）**を選択します。または、Start Page（スタートページ）のSetup New Run（新しい検査のセットアップ）アイコンの隣にある**Setup New Run（新しい検査のセットアップ）**をクリックするか、サイドバーのSetup New Run（新しい検査のセットアップ）アイコンの隣の**Setup New Run（新しい検査のセットアップ）**をクリックして、新しい検査を開始します。
2. 新しいプレートウィンドウのセットアップ（リスト）枠を選択します。
3. 新しい検査は、カンマ区切り値（.CSV）ファイル形式などの区切りデータファイルからインポートすることができます。新しい検査を定義するために必要な情報をLIMSや他のシステムから3M 分子検出システムへエクスポートできる場合は、この機能を使用します。新しいランの同じインポートファイルに新しい検体の定義またはキットロットの定義が含まれる場合は、新しいランと一緒にインポートされます。
4. Import（インポート）ボタンの隣にあるドロップダウンメニューをクリックして、インポートファイルまたはエクスポートファイルの区切り文字を選択します。区切り文字はカンマ、タブ、スペース、セミコロンです。インポートファイルで使用される区切り文字は、LIMSまたは、その作成元である他のシステムが事前に決定するものです。
    - インポートファイルは通常.CSVまたはカンマ区切り値ファイルと呼ばれます。

- リストフィールドにインポートされる検体インポートファイルのデータは、リストフィールドの選択肢の1つと同じである必要があります。例えば、検体タイプは未加工、加工、環境、ないしは新たに定義された検体タイプの1つである必要があります。

5. **[Import（インポート）]**ボタンをクリックします。*Open（開く）*ウィンドウが表示されたら、インポートするファイルを選択して、ファイル名をダブルクリックします。

アッセイタイプ	アッセイコード
サルモネラ	SAL
*大腸菌*0157	ECO
リステリア	LIS
リステリア・モノサイトゲネス	LM
マトリックスコントロール	MC

ウェルタイプ	ウェルコード
検体	検体
陽性コントロール	RC
陰性コントロール	NC
マトリックスコントロール	MC

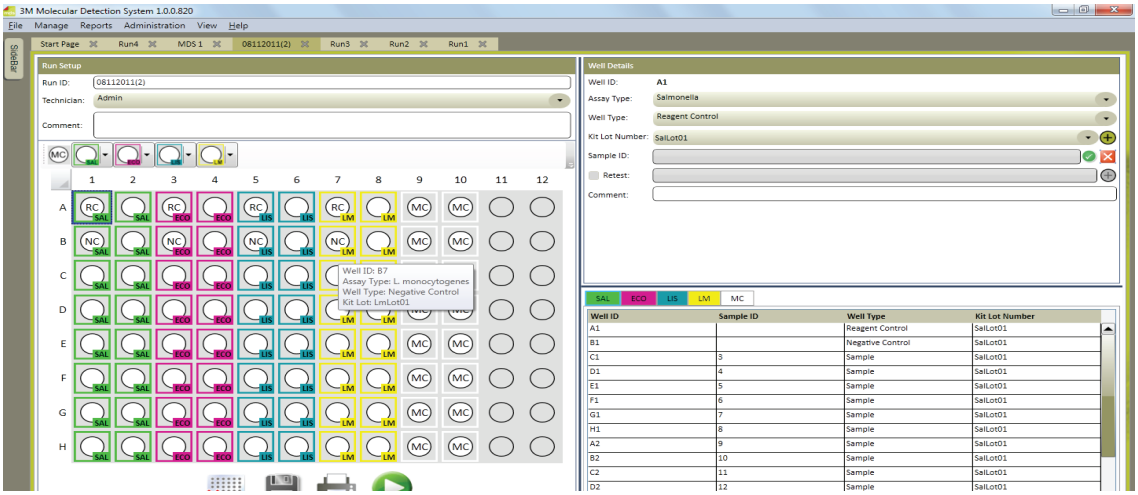
ラン定義の出力

1. New Run（新しい検査）ウィンドウの*Setup（List）（セットアップ（リスト））*タブを選択します。
2. 検査の定義は、カンマ区切り値（.CSV）ファイル形式などの区切りデータファイル形式でエクスポートすることができます。LIMSやその他のシステムに検査の定義情報をエクスポートする場合や、検査定義をエクスポート、編集してから、これをインポートする場合に、この機能を使用します。
3. デフォルトファイルのタイプは、Comma separated Values (CSV) failですファイルと置き換えてください。他のファイル形式や区切り文字は、Import/Export Options（インポート／エクスポートオプション）で選択することができます。LIMSやその他のファイルをエクスポートするシステムが推奨する区切り文字を選択します。ファイルフォーマットのインポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
   - デフォルトでは、最初の行がファイル名を含むヘッダー行になります。この点はImport and Export Options（インポート／エクスポートオプション）で変更することができます。インポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
   - 間に文字の入らない連続する2つの区切り文字はブランクフィールドであることを示します。
4. デフォルトのエクスポートフォルダは、Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）を使用して決定します。インポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
5. **[Export（エクスポート）]**ボタンをクリックします。Save As（名前をつけて保存）ウィンドウが表示されたら、ファイルをエクスポートするフォルダを指定します。デフォルトのエクスポートフォルダは、Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）を使用して決定します。インポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
6. **[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

アッセイタイプ別ランの表示

Assay Type（アッセイタイプ）ペインは、検査を定義する際に*Setup（Grid）（セットアップ（グリッド））*ペイン、*Well Details（ウェルの詳細）*ペインと共に表示され、選択されたアッセイタイプ用にこの検査定義内で決定された全ウェルのリストが作成されます。以下の例では、サルモネラアッセイ用に定義されたウェルで、「SAL」セレクタの周りに青いボックスが表示されています。

アッセイタイプ	記号
サルモネラ	SAL
*大腸菌*0157	ECO
リステリア	LIS
リステリア・モノサイトゲネス	LM
マトリックスコントロール	MC



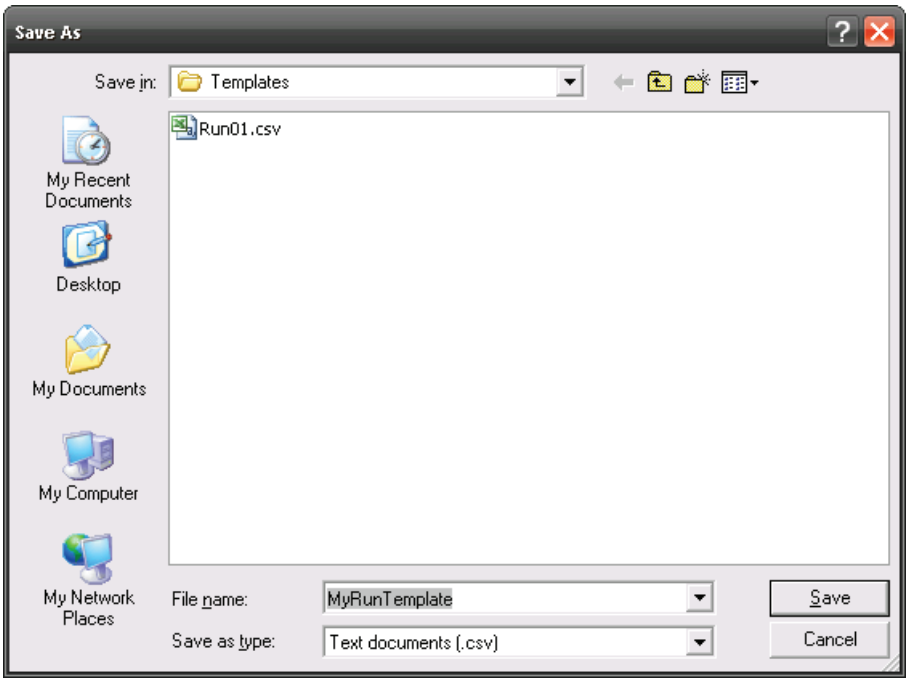
セットアップ（グリッド）アッセイタイプ枠

テンプレートとしてランを保存

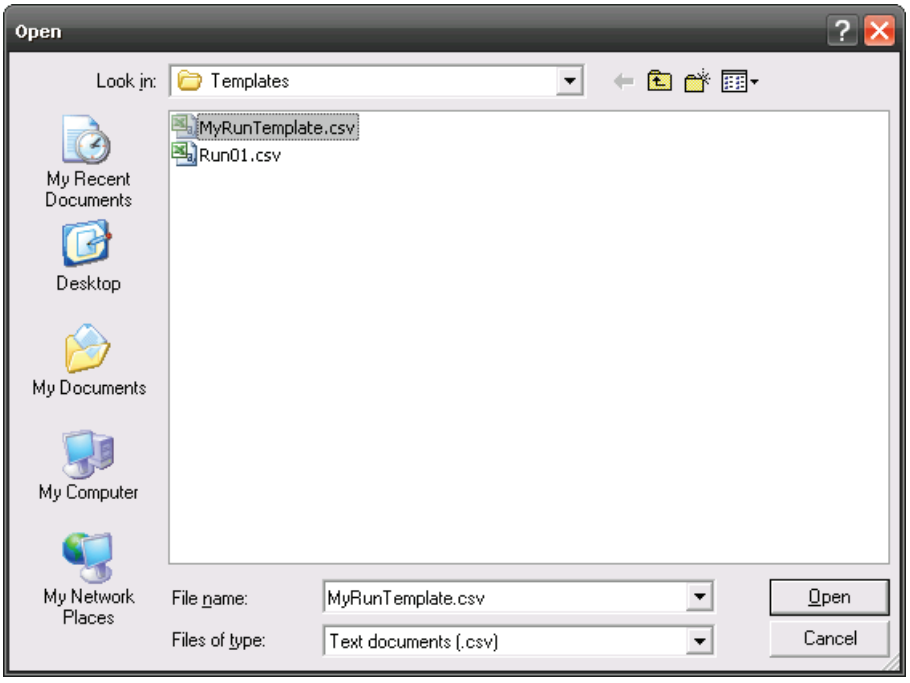
1. *Well Details（ウェルの詳細）*ペインで詳細をセットアップせずに、*Setup（Grid）（セットアップ（グリッド））*または*Setup（List）（セットアップ（リスト））*ペインを使用して検査の構造を設定することで検査テンプレートを作成します。作成後は、新しい検査を設定するために検査テンプレートを使えば、新しい検査の構造が検査テンプレートで定義されるので、新たに検査構造を定義する必要がありません。検体、キットのロット番号、コメント、再試験情報のみを定義することになります。テンプレートからの新しいランの設定に関する詳細は、本マニュアルの該当項目を参照してください。
2. テンプレートとしてランを保存するには、メニューバーの**ファイル**を選択し、**テンプレートとしてランを保存...**を選択します。
3. *Save As（名前をつけて保存）*ウィンドウが表示されたら、ランテンプレートファイルを保存するフォルダを選択し、**ファイル名(File Name)：**フィールドに名前を入力します。
4. **保存**ボタンをクリックします。3M 分子検出ソフトウェアが、カンマ区切り値（.CSV）テキストファイルとして検査テンプレートを保存します。

テンプレートからの新しいランのセットアップ

1. *Setup（Grid）（セットアップ（グリッド））*または**Setup（List）（セットアップ（リスト））**ペインを使用せずに検査構造をセットアップするために検査テンプレートを使用したり、新しい検査の詳細（検体、キットのロット、コメント、再テスト）をセットアップするために*Well Details（ウェルの詳細）*を使用して新しい検査をセットアップします。テンプレートとしてのランの保存に関する詳細は、本マニュアルの該当項目を参照してください。
2. テンプレートから新しい検査をセットアップするには、メニューバーの**File（ファイル）**を選択し、**Load Run Template...（検査テンプレートの読み込み）を選択します。**
3. *Open*ファイルが表示されたら、使用する検査テンプレートファイルが保存されているフォルダへ進みます。デフォルトのフォルダはTemplatesです。
4. 使用するランテンプレートファイルを選択し、**Open（開く）**ボタンをクリックします。
5. *Well Details（ウェルの詳細）*ペインを使用して、新しい検査用の詳細（検体、キットロット、コメント、再テスト）をセットアップします。*Well Details（ウェルの詳細）*ペインを使用した新しい検査のセットアップに関する詳細は、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。

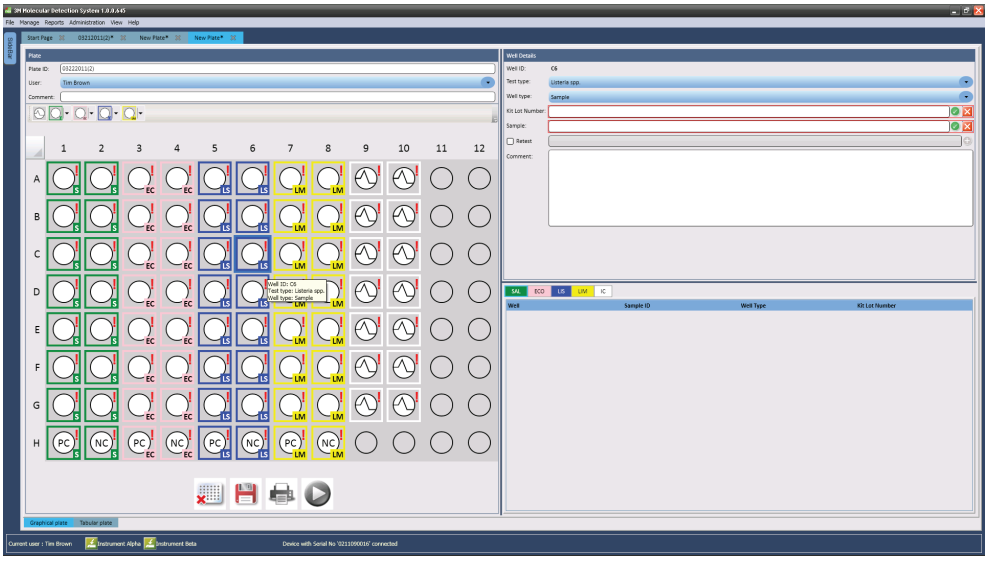


テンプレートの保存ダイアログ



テンプレートの読み込みダイアログ

ランが、テンプレートを元に作成される（読み込まれる）場合、定義済みのウェルはすべて定義が未完了であることを示すマークがつきます。テンプレートから作成されたランの以下の例ではエラー！に規定されます。**参照元が見つかりません...**と表示されています。ユーザーは、ランを保存または実行する前に、不足している情報（キットロットおよび検体）を補足して、ウェルの定義を完了する必要があります。



テンプレートを元に作成したラン

ラン結果の表示

1. 進行中のランをモニターするには、結果ーグリッドビューを使用します。結果がリアルタイムで表示されます。
2. 以前の検査の結果を表示するには、メニューバーのFile（ファイル）を選択し、Open Run（検査を開く）を選択します。また、Start Page（スタートページ）あるいはサイドバーの**View Run Results（検査結果の表示）**アイコンをクリックして、過去5回の検査結果を表示することができます。
3. もし、表示する検査が見つからない場合は、**Run filters（検査フィルタ）**を使用してプレートのフィルタパラメータを設定することができます。フィルタパラメータはすべて任意です。
4. **All Dates（全日付）**オプションを選択してあらゆる日付に作成された検査を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成された検査を含めます。**日付範囲**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。
5. **Technician（技術者）**フィールド用のドロップダウンメニューをクリックして、メニューリストに表示される検査を作成した特定のユーザーを選択します。デフォルトオプションは、その時に使用しているユーザーです。
6. **Run Status（検査のステータス）**用のドロップダウンメニューをクリックして、メニューリストに表示される特定のプレートのステータスを選択します。デフォルト値は**All（すべて）**です。

ランステータス	概要
すべて	データベース内のすべてのラン
完了	完了しているラン
完了（成功）	無効、抑制、調査、エラーが表示されない、無事に完了したラン
完了（確認が必要）	無効、抑制、調査、エラーのうち少なくとも1つの結果が表示された完了済みのラン
設定済み	設定済みだが、開始されていないラン
中止	ユーザーによって中止されたラン
失敗	装置の接続切断などのエラーにより失敗したラン

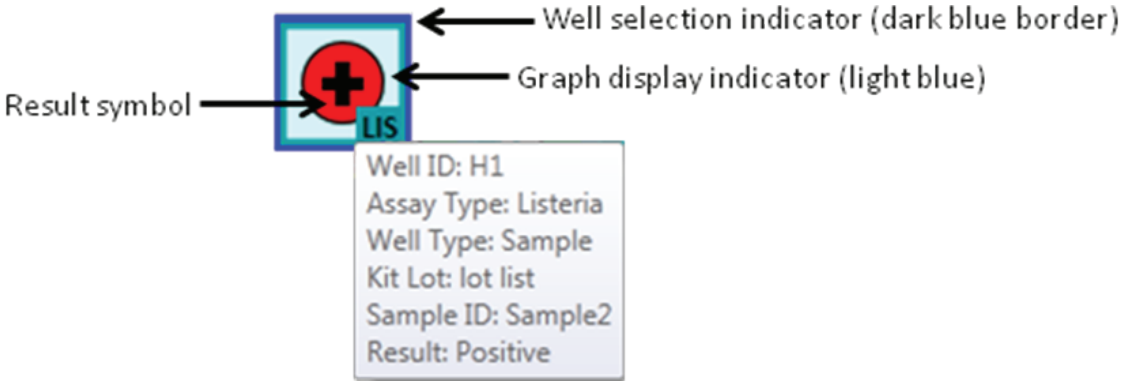
7. 使用するフィルタを選択した後、**フィルタの適用**ボタンをクリックします。
8. ランリストが表示されたら、表示するランをクリックして、OKをクリックします。
9. ソフトウェアが新しいタブに選択されたランを表示します。
10. **結果**（グリッド）を選択して、各ウェルの結果を表示します。結果に使用される記号の一覧は以下の通りです。継時的なRLU測定の図を表示するオプションが有効になっている場合は、そのグラフも表示されます。グラフ表示の有効化に関する詳細については、本マニュアルの管理オプション項目を参照してください。

ウェルタイプ	ウェルの結果を示す記号	結果	解釈
検体		陽性	ターゲットとする病原菌に対してこの検体は推定陽性となります。
検体		陰性	本検体はターゲットとする病原菌は陰性です。
検体		抑制	検体マトリックスが反応を抑制しました。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。
検体		ラン	対象の病原菌の有無を確定できませんでした。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。
検体		エラー	蛍光発光が測定されませんでした。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。
陽性コントロール		有効	陽性コントロールは無効でした。
陽性コントロール		無効	陽性コントロールは無効でした。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。
陽性コントロール		ラン	陽性コントロールが不確定です。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。
陽性コントロール		エラー	蛍光発光が測定されませんでした。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。
陰性コントロール		有効	陰性コントロールは有効でした。
陰性コントロール		無効	陰性コントロールは無効でした。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。
陰性コントロール		ラン	陰性コントロールが不確かです。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。
陰性コントロール		エラー	蛍光発光が測定されませんでした。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。
マトリックスコントロール		有効	マトリックスコントロールは有効でした。
マトリックスコントロール		抑制	検体マトリックスが反応を抑制しました。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。

マトリックスコントロール	MC	エラー	蛍光発光が測定されませんでした。再試験が必要です。詳細につきましては、トラブルシューティングの項目とアッセイキットの使用説明書を参照してください。

11. ウェルは特定、またはすべてのグラフを選択、表示するよう設定することができます。
    a. 各ウェルを右クリックまたは[Ctrl]＋クリックで選択し、グラフを選択、表示します。選択したウェルの背景色が灰色から青色に変わると、そのウェルが選択されたことになり、選択したウェルの曲線がグラフとして表示されます。
    b. 選択を解除するために選択したウェルを右クリックして、そのウェルのグラフを消去します。
    c. 追加のウェルを選択してグラフを表示するには、そのウェルを右クリックします。表示先は共有され、選択したすべてのウェルの曲線がグラフ上に表示されます。
    d. 複数ウェルのグラフを選択・表示するには、[Ctrl]+左クリック、およびウェルグループの上をドラッグします。選択したすべてのウェルの曲線がグラフ上に表示されます。
12. 選択したウェルの曲線を強調表示するには、そのウェルを左クリック、またはウェルのグループを左クリック＋ドラッグします。曲線を左クリックして、対応するウェルを強調表示することもできます。
    - グラフのスタイルは以下の通りカスタマイズすることができます。すべて選択ボタンをクリックして、すべての定義済みウェルの曲線を表示する。
    - **Clear（クリア）** ボタンをクリックして、ウェルの選択をリセットして、どの曲線も表示しない。
    - **Zoom in（ズームイン）** ボタンをクリックして、グラフを1段階拡大する。この機能は、カーソルをグラフの上に合わせて、マウスのホイールを使っても操作することができます。
    - **Zoom out（ズームアウト）** ボタンをクリックして、グラフを1段階縮小する。
    - カーソルをグラフの上に合わせてマウスホイールを使用して、図のズームイン、ズームアウトをする。
    - **Fit to view（表示をあわせる）** ボタンをクリックして、選択したプロットに合わせる。
13. ウェルの色は、以下の通り、どの曲線がグラフ上に表示されるかを示しています。

ウェルのエリア	色	解釈
ウェルの背景色	灰色	このウェルの曲線はグラフ上に表示されていません
	青	このウェルの曲線はグラフ上に表示されています
ウェルの枠線	枠なし	このウェルは選択されていません
	青色の枠	このウェルは選択されていて、曲線が強調表示されます



14. 結果（リスト）を選択して、結果（グリッド）と同じデータを表示することができますが、表示はリスト形式です。以下のフィールドが表示されます。
    - ウェルID – 96ウェルグリッドのウェルの位置に対応したウェルID。
    - 検体ID – このランで使用される検体の識別番号。結果（グリッド）ビューでは、ウェルの上にマウスをあわせるとこの情報が表示されます。
    - アッセイタイプ – 使用されるアッセイのタイプ。結果（グリッド）ビューでは、ウェルの周りに色分けされたボックスとしてこの情報が表示されます。
    - ウェルのタイプ – 検体、陽性コントロール、陰性コントロール、マトリックスコントロールのいずれかです。
    - キットのロット番号 – このテストで使用されるキットのロットの識別。結果（グリッド）ビューでは、ウェルの上にマウスをあわせるとこの情報が表示されます。
    - 結果 – ランの結果です。

ラン結果のエクスポート

1. **結果（グリッド）**を選択し、エクスポート ボタンをクリックします。
2. 結果は、カンマ区切り値（.CSV）ファイル形式などの区切りデータファイル形式でエクスポートすることができます。LIMSやその他のシステムに検査の定義情報をエクスポートする場合や、検査定義をエクスポート、編集してから、これをインポートする場合に、この機能を使用します。
3. デフォルトファイルのタイプは、Comma separated Values(CSV)failですファイルと置き換えてください。他のファイル形式や区切り文字は、Import/Export Options（インポート／エクスポートオプション）で選択することができます。LIMSやその他のファイルをエクスポートするシステムが推奨する区切り文字を選択します。ファイルフォーマットのインポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
    - デフォルトでは、最初の行がファイル名を含むヘッダー行になります。この点はImport and Export Options（インポート／エクスポートオプション）で変更することができます。インポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
    - 間に文字の入らない連続する2つの区切り文字はブランクフィールドであることを示します。
4. デフォルトのエクスポートフォルダは、Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）を使用して決定します。インポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
5. **[Export（エクスポート）]**ボタンをクリックします。*Save as（名前をつけて保存）*ウィンドウが表示されたら、ファイルをエクスポートするフォルダを指定します。デフォルトのエクスポートフォルダは、Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）を使用して決定します。インポート／エクスポートに関しては、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
6. **保存**ボタンをクリックします。

ランレポートの作成

ランレイアウトレポート

1. レポートを使用して、アッセイのセットアップを補助します。
2. *セットアップ (グリッド)* を選択し、プリントあるいはランのレイアウトを保存するために試験のすべてのウェルのセットアップした詳細を表示します。
3. 印刷ボタン をクリックして、レポートビュワーに印刷プレビュー画面を開きます。
4. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
5. ウィンドウ上部の印刷ボタン をクリックして、レポートを印刷します。
6. ランの詳細レポートを保存するには、**[Export (エクスポート)]**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します (Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word) 。Windowsが名前をつけて保存ダイアログを表示したら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save (保存)]**ボタンをクリックします。

ランレポート

1. *結果 (グリッド)* を選択して、ランに含まれる全ウェルの試験結果を一覧にしたランレポートを印刷または保存します。
2. **[Run Report (ランレポート)]** ボタンをクリックしレポートビューアーにある印刷プレビューを開きます。
3. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
4. ウィンドウ上部の印刷ボタン をクリックして、レポートを印刷します。
5. ランの詳細レポートを保存するには、**エクスポート**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します (Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word) 。Windowsが名前をつけて保存ダイアログを表示したら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save (保存)]**ボタンをクリックします。

装置温度記録

1. *結果 (グリッド)* を選択しラン中の15秒毎のコアおよび蓋のヒーター温度をリスト化し、印刷あるいは装置温度記録の保存をします。
2. **[Temperature Log (温度ログ)]** ボタンをクリックして、レポートビュワーに印刷プレビュー画面を開きます。
3. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
4. ウィンドウ上部の印刷ボタン をクリックして、レポートを印刷します。
5. ランの詳細レポートを保存するには、**[Export (エクスポート)]**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します (Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word) 。Windowsが*名前をつけて保存*ダイアログを開いたら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save (保存)]**ボタンをクリックします。

保存したランを開く

1. 修正することができるのは設定済みランのみです。設定済みの検査に関して保存された情報を修正するには、メニューバーの**File (ファイル)** を選択し、**Open Runs (検査を開く)** を選択します。または、Start Page (スタートページ) のStart Configured Runs (設定済み検査の開始) アイコンの隣にある**Start Configured Runs (設定済み検査の開始)** をクリックし、**Open Runs... (検査を開く)** をクリックします。

2. もし、削除するランが見つからない場合は、ランフィルタを使用してプレートのフィルタパラメータを設定することができます。フィルタパラメータはすべて任意です。
    a. **All Dates（全日付）**オプションを選択してあらゆる日付に作成された検査を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成された検査を含めます。**Date Range（日付範囲）**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。
    b. **Technician（技術者）**フィールド用のドロップダウンメニューをクリックして、メニューリストに表示される検査を作成した特定のユーザーを選択します。デフォルトオプションは、その時に使用しているユーザーです。
    c. **Run Status（検査のステータス）**用のドロップダウンメニューをクリックして、メニューリストに表示される特定のプレートのステータスを選択します。デフォルト値は**All（すべて）**です。

ランステータス	概要
すべて	データベース内のすべてのラン
完了	完了しているラン
完了（成功）	無効、抑制、調査、エラーが表示されない、無事に完了したラン
完了（確認が必要）	無効、抑制、調査、エラーのうち少なくとも1つの結果が表示された完了済みのラン
設定済み	設定済みだが、開始されていないラン
中止	ユーザーによって中止されたラン
失敗	装置の接続切断などのエラーにより失敗したラン

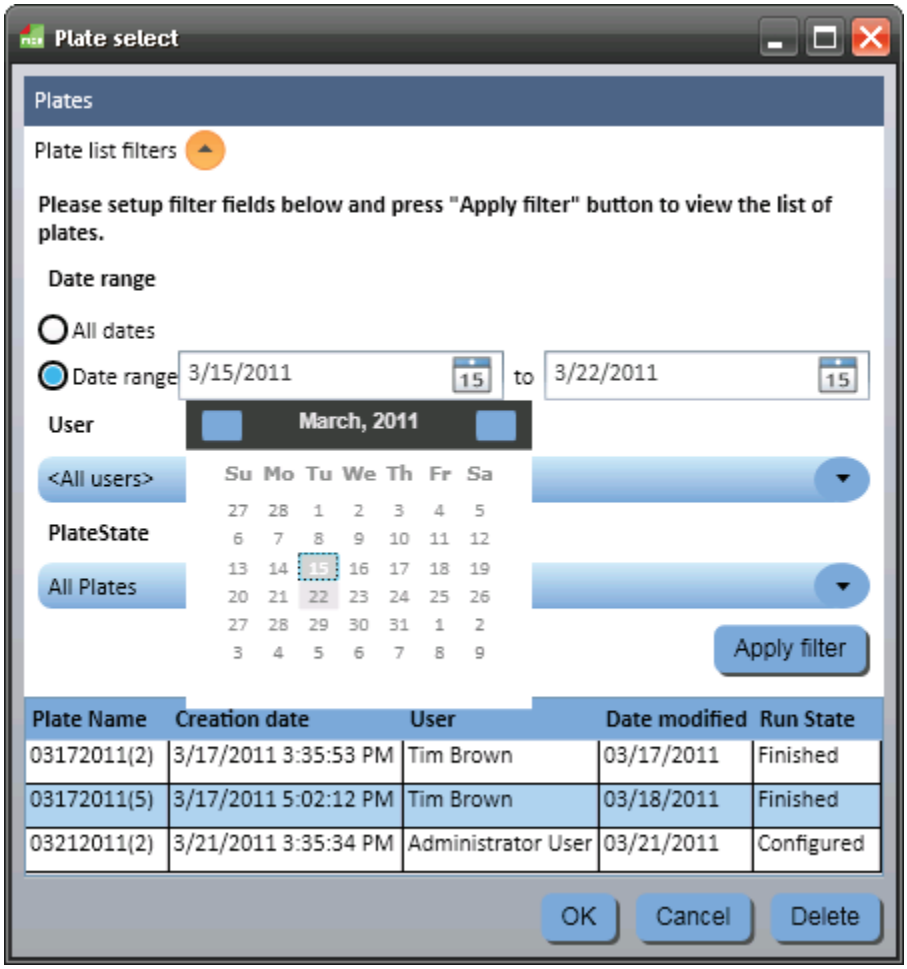
3. 使用するフィルタを選択した後、**[Apply Filter（使用するフィルタ）]**を選択した後、フィルタの適用ボタンをクリックします。
4. 3M 分子検出ソフトウェアが、選択されたフィルタパラメータにマッチする検査リストを表示します。
5. リストからランを選択し、[OK]ボタンをクリックして、ランを表示または削除します。

ランの削除

1. 一度ランを削除するとデータを回復することはできません。ランを削除する前に、ランレポートのエクスポートをお勧めします。
2. 検査を削除するには、メニューバーの**File（ファイル）**を選択し、**Open Runs（検査を開く）**を選択します。
3. *Open Runs（検査を開く）*ウィンドウが表示されたら、削除する検査を選択します。3M™ 分子検出ソフトエアが選択された検査を強調表示します。
4. もし、削除する検査が見つからない場合は、**Run filters（検査フィルタ）**を使用してプレートのフィルタパラメータを設定することができます。フィルタパラメータはすべて任意です。
    a. **All Dates（全日付）**オプションを選択してあらゆる日付に作成された検査を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成された検査を含めます。**日付範囲**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。
    b. **Technician（技術者）**フィールド用のドロップダウンメニューをクリックして、メニューリストに表示される検査を作成した特定のユーザーを選択します。デフォルトオプションは、その時に使用しているユーザーです。
    c. **Run Status（検査のステータス）**用のドロップダウンメニューをクリックして、メニューリストに表示される特定のプレートのステータスを選択します。デフォルト値は**All（すべて）**です。

ランステータス	概要
すべて	データベース内のすべてのラン
完了	完了しているラン
完了（成功）	無効、抑制、調査、エラーが表示されない、無事に完了したラン
完了（確認が必要）	無効、抑制、調査、エラーのうち少なくとも1つの結果が表示された完了済みのラン
設定済み	設定済みだが、開始されていないラン
中止	ユーザーによって中止されたラン
失敗	装置の接続切断などのエラーにより失敗したラン

5. 使用するフィルタを選択した後、**フィルタの適用**ボタンをクリックします。
6. 3M 分子検出ソフトウェアが、選択されたフィルタパラメータにマッチする検査リストを表示します。
7. リストからランを選択し、**削除**ボタンをクリックします。
8. ポップアップボックスで「この検査を永久に削除してもよろしいですか?」というメッセージが表示されます。はいをクリックして、そのランをデータベースから削除します。

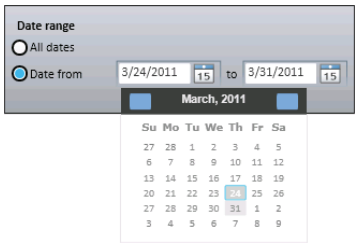


ランを開くウィンドウ

管理レポートの作成

結果の検索レポートの作成

1. レポートにより、データベース内の完了済みランの特定の結果を表示することができます。
2. 結果の検索レポートを作成するには、メニューバーの**Reports（レポート）**を選択し、**Search Results...（結果の検索）**を選択します。または、Start Page（スタートページ）の**Generate Reports**アイコンの隣にあるGenerate Reports（レポートの作成）をクリックするか、サイドバーのGenerate Reports（レポートの作成）アイコンの隣にあるGenerate Reports（レポートの作成）をクリックして、結果の検索レポートを作成します。
3. *Search Results（結果の検索）*ウィンドウが表示されたら、検索する期間を選択すると共に、使用するフィルタパラメータを選んでそのフィルタパラメータ用の値を選択します。
   a. **All Dates（すべての日付）**オプションを選択してすべての日付に作成されたテスト結果を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成されたテスト結果を含めます。**Date Range（日付範囲）**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。



   b. 結果の検索Report（レポート）ウィンドウのフィルタパラメータはすべて任意です。

      i. アッセイタイプ、ウェルタイプ、結果パラメータについては、レポートに含めたい値に関連したボックスにチェックを付けてください。

      ii. リストタイプパラメータについては、ドロップダウンメニューをクリックして、レポートに含めたい値を選択します。

      iii. テキストタイプパラメータについては、レポートに含めたい値を入力するためのフィールドをクリックします。テキストタイプパラメータにはテキスト全体またはキーワードを入力することができます。ワイルドカードは使用できません。

フィルタパラメータ	概要	デフォルト	タイプ
ユーザー	ラン実施者	全ユーザーを含む	リスト
アッセイタイプ	使用した3M病原菌検出アッセイタイプ	全アッセイタイプが対象	チェックボックス
ウェルタイプ	検体、陽性コントロール、陰性コントロール、マトリックスコントロール	全ウェルタイプが対象	チェックボックス
キットロット	使用したアッセイキットのロット番号	全キットロットが対象	テキスト
結果	レポートされたテスト結果	全結果が対象	チェックボックス
ランID	セットアップされた時にランに割り振られたID	全ランが対象	リスト
再試験済み	再試験のみを含める時はこのオプションを選択します。	全テストが対象	チェックボックス
装置	ランに用いられた装置のシリアル番号です（接続の有無に関係なくリスト表示）。	全装置が対象	リスト
検体ID	*Setup（セットアップ）*ウィンドウの*検体*タブで定義した検体ID。	全検体IDが対象	テキスト
検体のタイプ*	オプションフィールド。	全検体タイプが対象	リスト
詳細*	オプションフィールド。	全詳細が対象	テキスト
製品*	オプションフィールド。	全製品が対象	テキスト
ブランド*	オプションフィールド。	全ブランドが対象	テキスト

ロット番号*	オプションフィールド。	全ロット番号が対象	テキスト
ライン*	オプションフィールド。	全ラインが対象	テキスト
顧客*	オプションフィールド。	全プラントが対象	テキスト

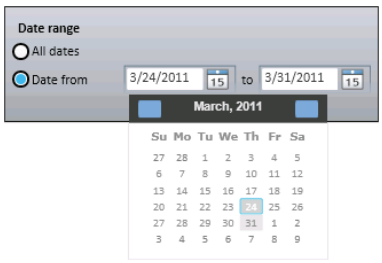
* これらのフィールドは、ソフトウェアのインストール時にカスタマイズ可能です。この表はデフォルトフィールドの名前を示し、*Search Results（結果の検索）*ウィンドウに示されたフィールド名およびフィールドタイプをインストールしている間にカスタマイズした場合には、ウィンドウは異なります。隠されたフィールドは、*Search Results（結果の検索）*ウィンドウには示されません。

4. 使用するフィルタを選択、入力した後、**[Generate（作成）]**ボタンをクリックします。**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックして、レポートを作成せずに*Start Page（スタートページ）*に戻ることもできます。このクエリでは大量のデータをスキャンするため、多数の結果を戻すことができます。レポートの作成には時間がかかり、膨大な情報が提供されます。
5. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
6. ウィンドウ上部の印刷アイコンをクリックして、 レポートを印刷します。
7. ランの詳細レポートを保存するには、**[Export（エクスポート）]**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します（Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word）。Windowsが*名前をつけて保存*ダイアログを開いたら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

検体レポートの作成

1. 検体レポートを作成するためには、メニューバーのレポートを選択し、検体を選択します。また、スタートページのレポート作成アイコンの隣にあるレポートの作成をクリックするか、 サイドバーのレポートの作成アイコンの隣にあるレポートの作成をクリックして、 検体レポートを作成することもできます。
2. 検体*Report（レポート）*ウィンドウが表示されたら、検索する期間を選択すると共に、使用するフィルタパラメータを選んでそのフィルタパラメータ用の値を選択します。
   a. **All Dates（すべての日付）**オプションを選択してすべての日付に作成されたテスト結果を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成されたテスト結果を含めます。**Date Range（日付範囲）**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。



   b. *Samples Report（検体レポート）*ウィンドウのフィルタパラメータはすべて任意です。

      i. リストタイプパラメータについては、ドロップダウンメニューをクリックして、テスト結果レポートに含めたい値を選択します。

      ii. テキストタイプパラメータについては、テスト結果レポートに含めたい値を入力するためのフィールドをクリックします。テキストタイプパラメータにはテキスト全体またはキーワードを入力することができます。ワイルドカードは使用できません。

フィルタパラメータ	概要	デフォルト	タイプ
ユーザー	ラン実施者	全ユーザーを含む	リスト
検体ID	*Setup（セットアップ）*ウィンドウの*検体*タブで定義した検体ID。	全検体IDが対象	テキスト
検体のタイプ*	オプションフィールド	全検体タイプが対象	リスト
詳細*	オプションフィールド	全詳細が対象	テキスト
製品*	オプションフィールド	全製品が対象	テキスト
ブランド*	オプションフィールド	全ブランドが対象	テキスト
ロット番号*	オプションフィールド	全ロット番号が対象	テキスト
ライン*	オプションフィールド	全ラインが対象	テキスト
顧客*	オプションフィールド	全プラントが対象	テキスト

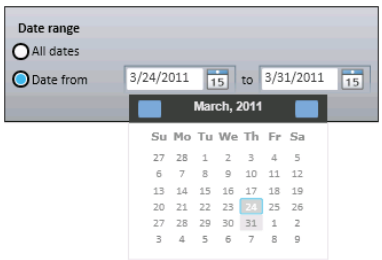
* これらのフィールドは、ソフトウェアのインストール時にカスタマイズ可能です。この表はデフォルトフィールドの名前を示し、*Search Results（結果の検索）*ウィンドウに示されたフィールド名およびフィールドタイプをインストールしている間にカスタマイズした場合には、ウィンドウは異なります。隠されたフィールドは、*Search Results（結果の検索）*ウィンドウには示されません。

3. 使用するフィルタを選択、入力した後、**[Generate（作成）]**ボタンをクリックします。また、**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックして、レポートを作成せずにStart Page（スタートページ）に戻ることもできます。このクエリでは大量のデータをスキャンするため、多数の結果を戻すことができます。レポートの作成には時間がかかり、膨大な情報が提供されます。
4. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
5. ウィンドウ上部の印刷アイコンをクリックして、 レポートを印刷します。
6. ランの詳細レポートを保存するには、**[Export（エクスポート）]**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します（Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word）。Windowsが名前をつけて保存ダイアログを開いたら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

アッセイキットレポートの作成

1. アッセイ（キット）ロットレポートを作成するためには、メニューバーのレポートを選択し、**アッセイキット...**を選択します。また、 Start Page（スタートページ）のレポートの作成アイコンの隣にあるレポートの作成をクリックするか、サイドバーのレポートの作成アイコンの隣にあるレポートの作成をクリックして、 アッセイキットレポートを作成します。
2. 表示されるレポートリストから**アッセイキット...**を選択します。
3. *Assay Kits（アッセイキット）レポート*ウィンドウが表示されたら、検索する期間を選択すると共に、使用するフィルタパラメータを選んでそのフィルタパラメータ用の値を選択します。
   a. **All Dates（すべての日付）**オプションを選択してすべての日付に作成されたテスト結果を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成されたテスト結果を含めます。**Date Range（日付範囲）**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。
   b. *Assay Kits Report（検体レポート）*ウィンドウのフィルタパラメータはすべて任意です。ドロップダウンメニューをクリックして、アッセイキットレポートに含めたい値を選択します。デフォルトは全ユーザー、全アッセイタイプです。



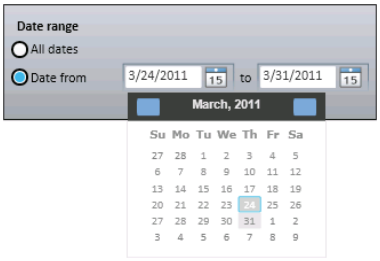
フィルタパラメータ	概要	デフォルト	タイプ
ユーザー	ラン実施者	全ユーザーを含む	リスト
アッセイタイプ	対象の病原菌またはアッセイタイプ	全アッセイタイプが対象	リスト

4. 使用するフィルタを選択、入力した後、**[Generate（作成）]**ボタンをクリックします。**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックして、レポートを作成せずに*Start Page（スタートページ）*に戻ることもできます。このクエリでは大量のデータをスキャンするため、多数の結果を戻すことができます。レポートの作成には時間がかかり、膨大な情報が提供されます。
5. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
6. ウィンドウ上部の印刷アイコンをクリックして、 レポートを印刷します。
7. ランの詳細レポートを保存するには、**[Export（エクスポート）]**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します（Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word）。Windowsが名前をつけて保存ダイアログを開いたら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

完了済みランレポートの作成

1. 完了済みランレポートを作成するために、ユーザーによって中断されずに、 75分の全てのランサイクルを完了させるか、エラーのために中断したものを含むすべてのランリストの中で、メニューバーからレポートを選択してからランの完了を選択します。サイドバーからStart Page（スタートページ）にあるレポートの作成アイコンの隣にあるレポートの作成をクリックし、 完了済みランレポートを作成できます。
2. 表示されるレポートリストから**完了済みラン...**を選択します。
3. *Completed Runs Report（完了済みランレポート）*ウィンドウが表示されたら、検索する期間を選択すると共に、使用するフィルターパラメータを選んでそのフィルターパラメータ用の値を選択します。
   a. **All Dates（すべての日付）**オプションを選択してすべての日付に作成されたテスト結果を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成されたテスト結果を含めます。**Date Range（日付範囲）**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。



   b. *Completed Runs Report（完了済みランレポート）*フィルタパラメータはすべて任意です。ドロップダウンメニューをクリックして、完了済みランレポートに含めたい値を選択します。デフォルトは全てのユーザーおよびすべての装置です。

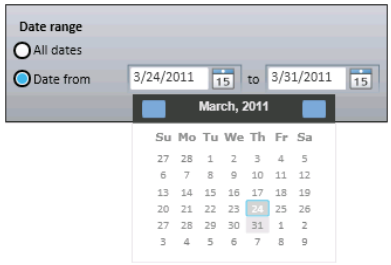
フィルタパラメータ	概要	デフォルト	タイプ
ユーザー	ラン実施者	全ユーザーを含む	リスト
装置	ランに用いられた装置のシリアル番号（接続の有無に関係なくリスト表示）	全装置が対象	リスト

4. 使用するフィルタを選択、入力した後、**[Generate（作成）]**ボタンをクリックします。**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックして、レポートを作成せずに*Start Page（スタートページ）*に戻ることもできます。このクエリでは大量のデータをスキャンするため、多数の結果を戻すことができます。レポートの作成には時間がかかり、膨大な情報が提供されます。
5. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
6. ウィンドウ上部の印刷アイコンをクリックして、 レポートを印刷します。
7. ランの詳細レポートを保存するには、**[Export（エクスポート）]**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します（Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word）。Windowsが*名前をつけて保存*ダイアログを開いたら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

記録の検証レポートの作成

1. Audit Log（ログチェック）レポートを作成するには、メニューバーの**Administration（管理）**を選択し、**Audit Log...（ログチェック）**を選択します。ログチェックレポートは、管理者権限のユーザーのみ利用可能です。以下に記載するすべての操作が検証に記録されます。
   - ユーザーのログイン／ログアウト。
   - ユーザーの作成、更新、削除。
   - 装置の作成、更新、削除。
   - 装置の診断。
   - 装置のファームウェアの更新。
   - 検体の作成、更新、削除。
   - キットロット番号の入力、更新、削除。
   - ランの入力、更新、削除。
   - ランの開始および停止（自動またはユーザーによる中止）。
   - レポート作成。
2. *Activities reports（アクティビティレポート）*ウィンドウが表示されたら、レポートに含める日付の範囲とユーザーを選択します。
   a. **All Dates（すべての日付）**オプションを選択してすべての日付に作成されたテスト結果を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成されたテスト結果を含めます。**Date Range（日付範囲）**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。
   b. ユーザードロップダウンメニューを使用して、レポートに含めたいユーザーを選択します。デフォルト値は全ユーザーです。

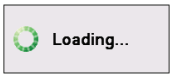


3. 使用するフィルタを選択、入力した後、**[Generate（作成）]**ボタンをクリックします。**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックして、レポートを作成せずに*Start Page（スタートページ）*に戻ることもできます。このクエリでは大量のデータをスキャンするため、多数の結果を戻すことができます。レポートの作成には時間がかかり、膨大な情報が提供されます。
4. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
5. ウィンドウ上部の印刷アイコンをクリックして、 レポートを印刷します。
6. ランの詳細レポートを保存するには、**[Export（エクスポート）]**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します（Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word）。Windowsが*名前をつけて保存*ダイアログを開いたら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

ユーザーのレポートの作成

ユーザーのレポートは管理者のみ利用可能です。

1. 検体レポートを作成するためには、 メニューバーのレポートを選択し、ユーザーを選択します。 また、Start Page（スタートページ）のレポートの作成アイコンの隣にあるレポートの作成をクリックするか、サイドバーのレポートの作成アイコンの隣にあるレポートの作成をクリックして、検体レポートを作成します。
2. *Users report（ユーザーレポート）*ウィンドウが表示されたら、レポートに含めたい日付の範囲を選択します。**All Dates（すべての日付）**オプションを選択してすべての日付に作成されたテスト結果を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成されたテスト結果を含めます。**日付範囲**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。
3. 使用するフィルタを選択、入力した後、**[Generate（作成）]**ボタンをクリックします。**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックして、レポートを作成せずに*Start Page（スタートページ）*に戻ることもできます。このクエリでは大量のデータをスキャンするため、多数の結果を戻すことができます。レポートの作成には時間がかかり、膨大な情報が提供されます。
4. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ 

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
5. ウィンドウ上部の印刷アイコンをクリックして、 レポートを印刷します。
6. ランレポートを保存するには、**[Export（エクスポート）]**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します（Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word）。Windowsが*名前をつけて保存*ダイアログを開いたら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

装置のセルフチェックの結果レポートの作成

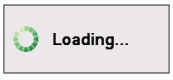
1. 装置のセルフチェックの結果レポートを作成するためには、メニューバーのレポートを選択し、Instrument Self-Check Results…（装置のセルフチェック結果…）ク結果…を選択します。また、 Start Page（スタートページ）のレポートの作成アイコンの隣にあるレポートの作成をクリックするか、サイドバーのレポートの作成アイコンの隣にあるレポートの作成をクリックして、 装置のセルフチェックの結果レポートを作成します。装置セルフチェックレポートは管理者のみ利用可能です。ユーザーが改善可能な不具合はありません。装置のセルフチェックテストに失敗した場合、修理のために装置を3Mまでご輸送ください。
2. *Instrument Self-Check Results reports（装置セルフチェック結果レポート）*ウィンドウが表示されたら、レポートに含める日付の範囲と使用するフィルタパラメータを選択します。**All Dates（すべての日付）**オプションを選択してすべての日付に作成されたテスト結果を含めるか、**Date Range（日付範囲）**オプションを選択して一定期間内に作成されたテスト結果を含めます。**Date Range（日付範囲）**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。
3. 使用するフィルタを選択、入力した後、**[Generate（作成）]**ボタンをクリックします。**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックして、レポートを作成せずに*Start Page（スタートページ）*に戻ることもできます。このクエリでは大量のデータをスキャンするため、多数の結果を戻すことができます。レポートの作成には時間がかかり、膨大な情報が提供されます。
4. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
5. ウィンドウ上部の印刷アイコンをクリックして、 レポートを印刷します。
6. 装置のセルフチェックのレポートを保存するためには、**[Export（エクスポート）]**ボタンをクリックし、 リスト（Microsoft Excel, Adobe PDF および Microsoft Word）からフォーマットを選択します。Windowsが*名前をつけて保存*ダイアログを開いたら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

装置温度記録レポートの作成

1. すべての測定期間中の5秒毎の装置温度を測定する装置温度記録レポートを作成するためには、メニューバーにあるレポートを選択し、 装置温度記録レポートを選択します。 また、Start Page（スタートページ）にあるレポートの作成の側にあるレポートの作成アイコンをクリックし、レポートの作成の側にあるレポートの作成をクリックし装置温度記録の詳細レポートを作成することができます。
2. 表示されるレポートリストから**Instrument Temperature Log…（装置温度記録…）**を選択します。
3. *Instrument Temperature Details report（装置温度詳細レポート）*ウィンドウが表示されたら、検索する期間を選択すると共に、使用するフィルタパラメータを選んでそのフィルタパラメータ用の値を選択します。
    a. **All Dates（すべての日付）**オプションを選択してすべての日付に作成されたテスト結果を含めるか、**日付範囲**オプションを選択して一定期間内に作成されたテスト結果を含めます。**Date Range（日付範囲）**オプションを選択した場合は、最初の日と最後の日を直接入力するか、カレンダーを使用して日付を選択します。デフォルト値は直近の1週間になっています。
    b. *Instrument Temperature Details report（装置温度詳細レポート）*ウィンドウのフィルタパラメータは両方とも任意です。ドロップダウンメニューをクリックして、装置温度記録レポートに含めたい値を選択します。デフォルトは全ランIDおよび全装置です。

フィルタパラメータ	概要	デフォルト	タイプ
ランID	セットアップされた時にそのランに割り振られたID（古いランから順に、完了済みランのみをリスト表示）	全ランが対象	リスト
装置	ランに用いられた装置のシリアル番号（接続の有無に関係なくリスト表示）	全装置が対象	リスト

4. 使用するフィルタを選択、入力した後、**[Generate（作成）]**ボタンをクリックします。**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックして、レポートを作成せずに*Start Page（スタートページ）*に戻ることもできます。このクエリでは大量のデータをスキャンするため、多数の結果を戻すことができます。レポートの作成には時間がかかり、膨大な情報が提供されます。
5. 3M 分子検出ソフトウェアが画面上に表示用印刷プレビューを作成している間、ローディングインジケータ 

が表示されます。レポートの作成例は付録を参照してください。
6. ウィンドウ上部の印刷アイコンをクリックして、 レポートを印刷します。
7. 装置温度の記録を保存するには、**[Export（エクスポート）]**ボタン をクリックして、リストからファイル形式を選択します（Microsoft Excel、Adobe PDF、Microsoft Word）。Windowsが*名前をつけて保存*ダイアログを開いたら、ファイルを保存するフォルダを選択し、**[Save（保存）]**ボタンをクリックします。

用語と定義

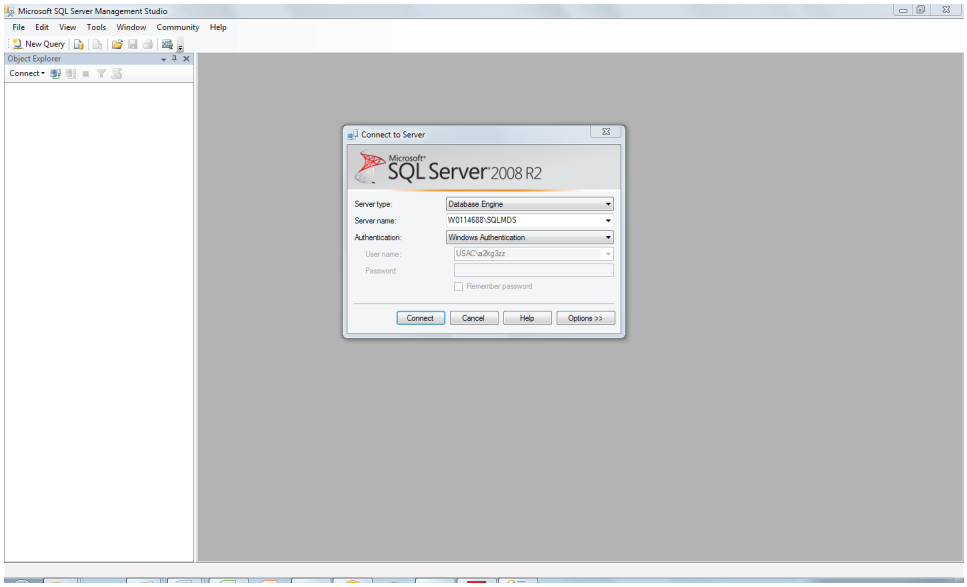
本文書で使用する用語および定義は以下の通りです。

キットロット	3M 病原菌検出アッセイキットの箱に製造ロットが表示されています。
ラン	対象の病原菌の有無を確認するラン。
検体	テスト用に提供された食品または環境の検体。
CSV	カンマ区切り値 – データが区切り文字（通常はカンマ）で区切られるデータファイル。
DB	データベース
EULA	エンドユーザーライセンス契約
GUI	グラフィカルユーザーインターフェース
LED	発光ダイオード
LIMS	実験室情報管理システム
MC	マトリックスコントロール
MDS	病原菌検出システム
NC	陰性コントロール
RAM	ランダムアクセスメモリ – パソコンの物理的に構成されたメモリ
RC	陽性コントロール
RLU	相対発光単位
SQL	構造化照合言語
SRAM	スタティックランダムアクセスメモリ
USB	ユニバーサルシリアルバス

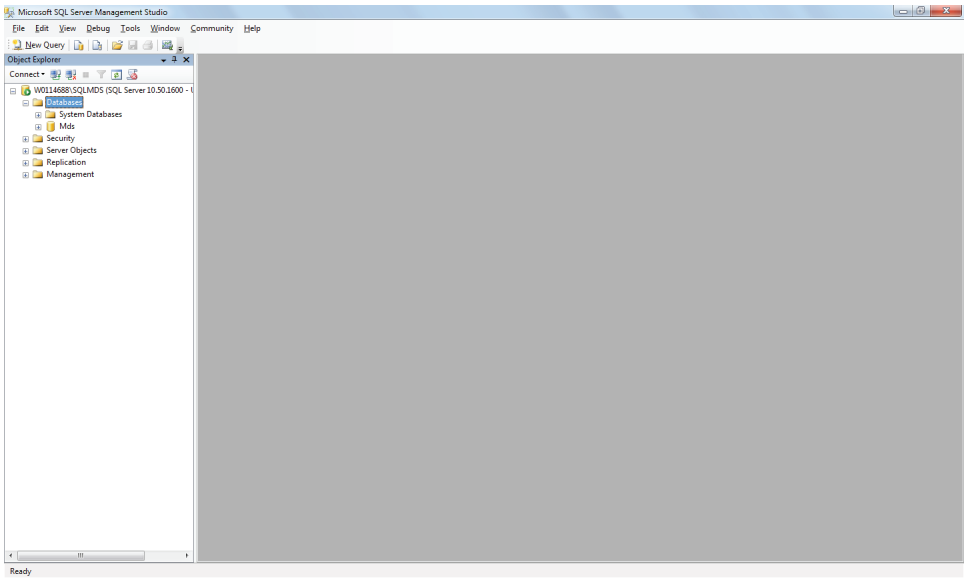
管理者のタスク

バックアップからのデータベース復元

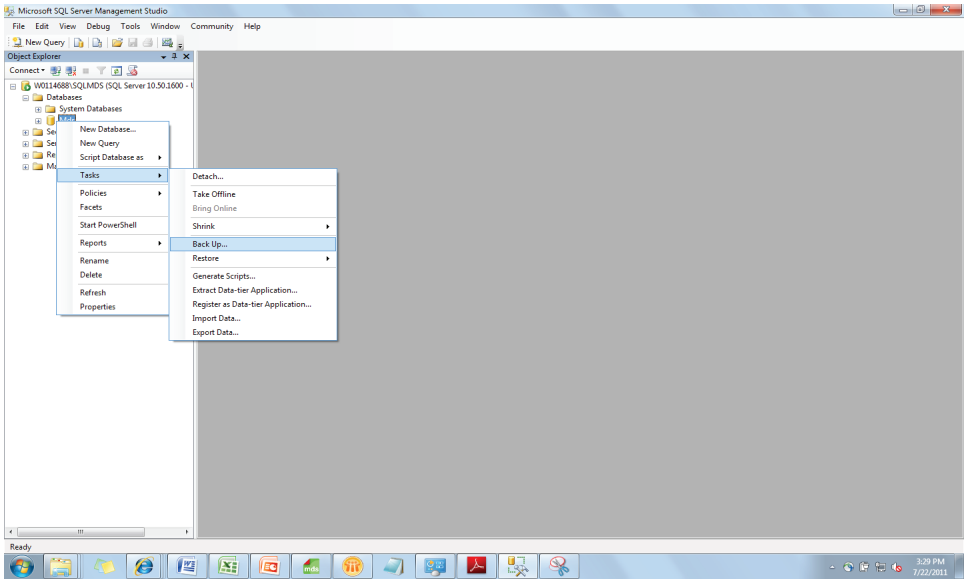
1. Microsoft SQL server Management Studio (SSMS) を開き、**SQLMDS**サーバーに接続します。



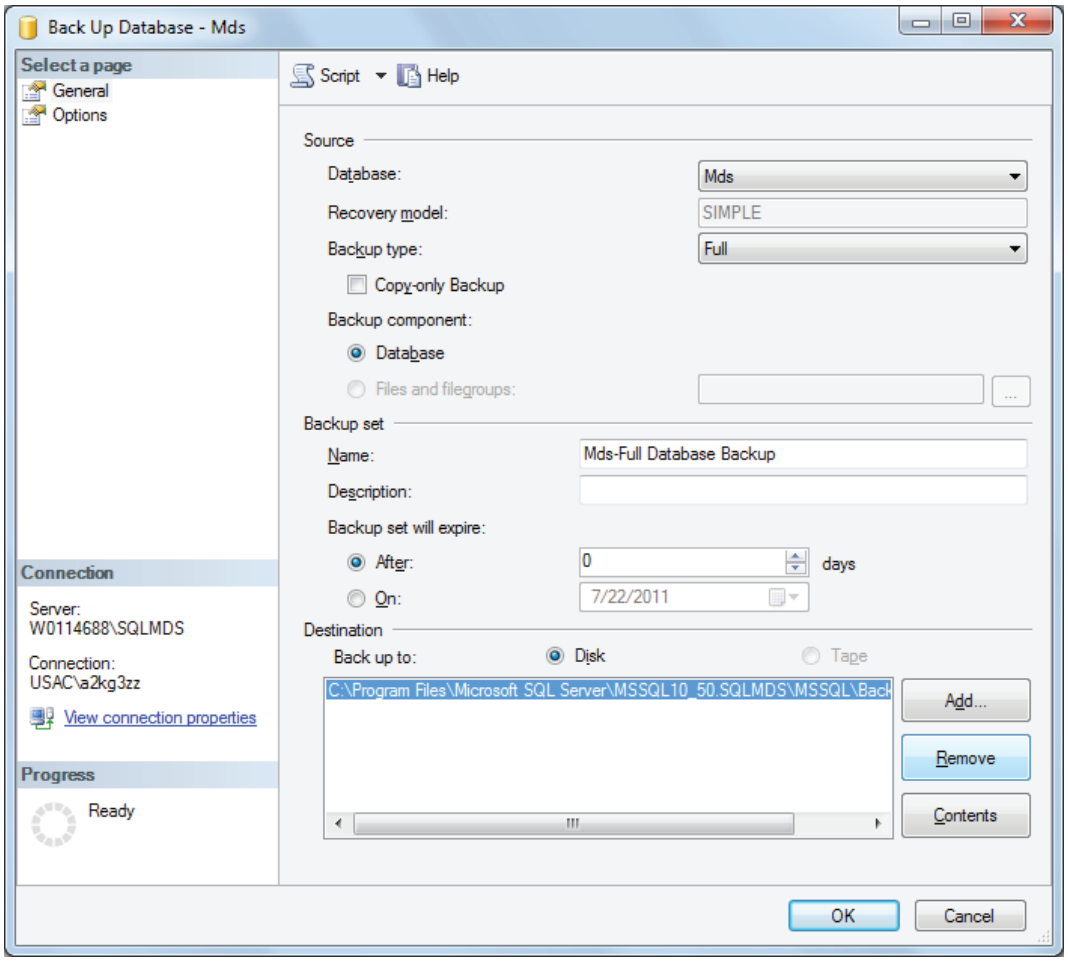
2. オブジェクトエクスプローラーペインで、**データベース**を開きます。



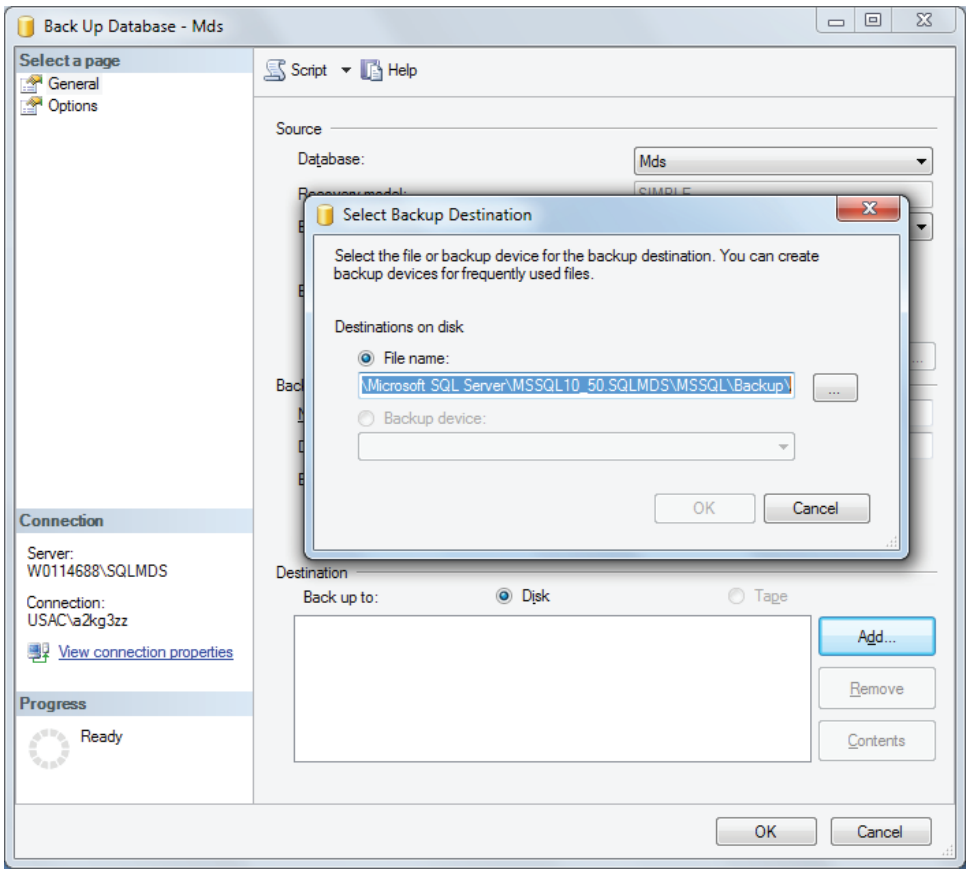
3. **Databases (データベース)** を右クリックして、**Tasks (タスク)** を選択し、**Back Up... (バックアップ)** を選択します。



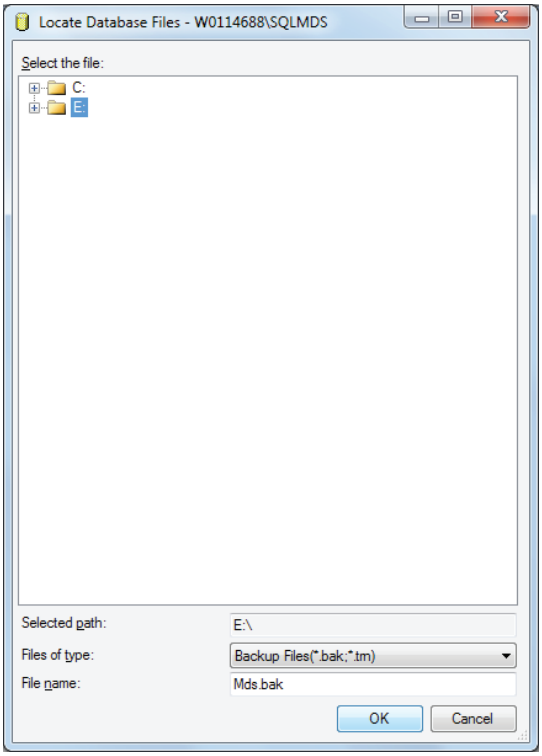
4. 保存先の項目では、リストアップされたバックアップ先を表示し、**[Remove（削除）]**”ボタンをクリックして、デフォルトの保存先を消去します。



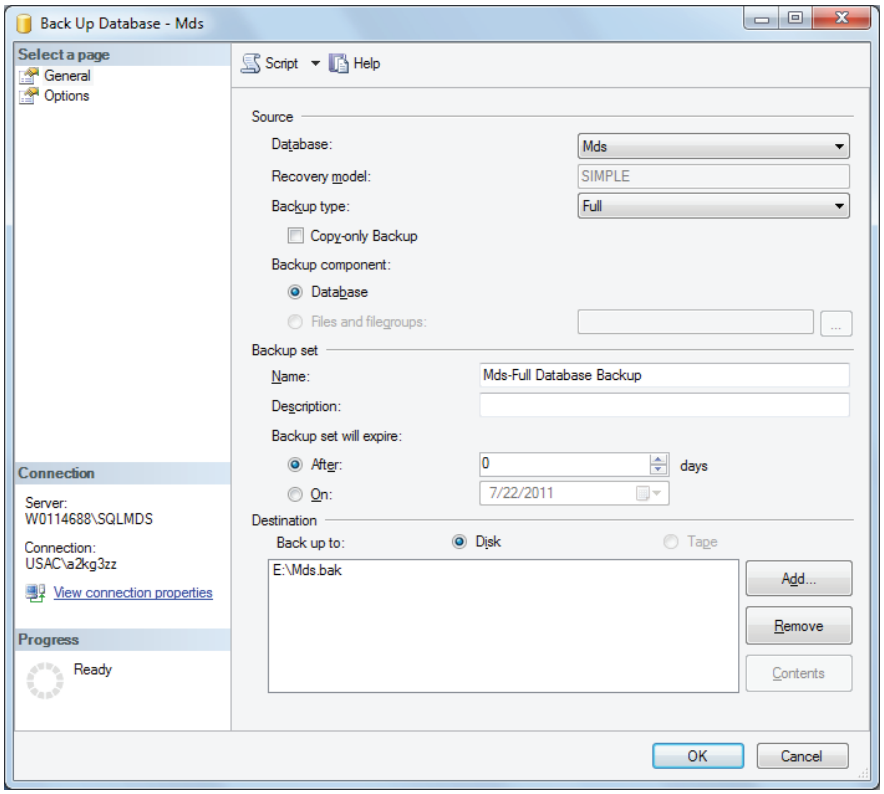
5. 新しい保存先を追加するには、**[Add...（追加...）]** ボタンをクリックし、*保存先を選択*ダイアログの**[...]**ボタンをクリックします。



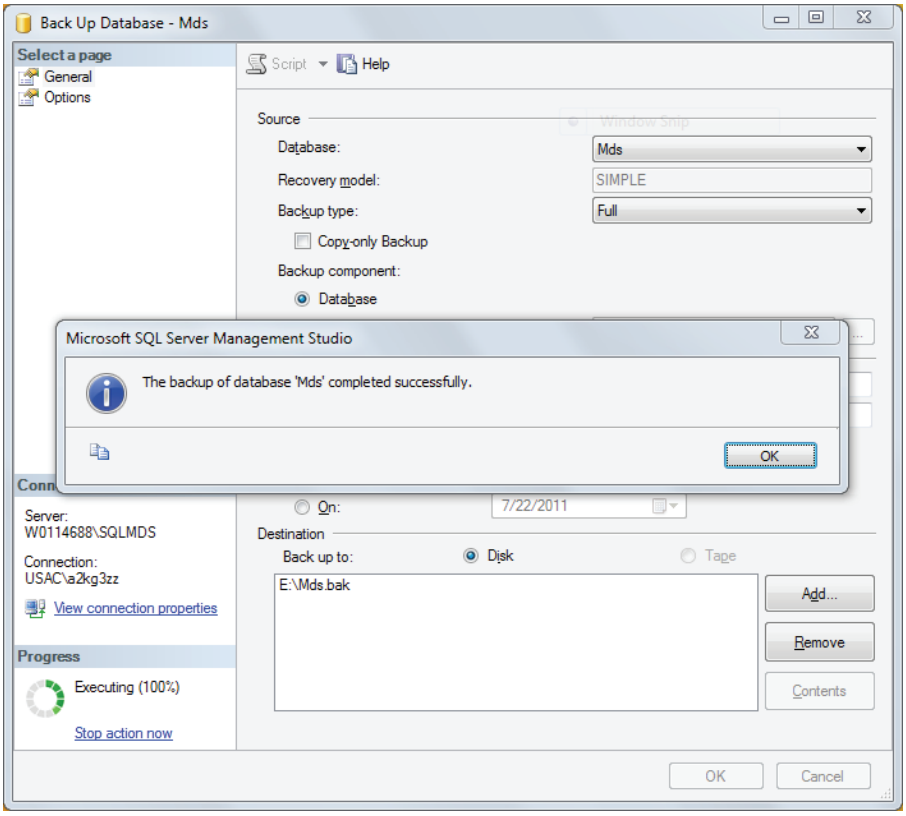
6. 保存先を選択し、拡張子.bakでファイル名を入力します。拡張子各バックアップファイルは、識別しやすいように固有の名前を使用してください。**[OK]**をクリックして、再度**[OK]**をクリックします。**注：**デフォルトの保存先は、Microsoft SQLのプログラムフォルダ内です。ファイルの読み込みを簡単にするために、USBフラッシュドライブへのバックアップをお勧めします。（E:\は以下のスクリーンショット内のドライブの場所です。



7. 新しいバックアップの保存先が**保存先**項目に保存されていることを確認し、**[OK]**をクリックして処理を開始します。



8. 進捗状態が画面左下に表示されます。保存が完了したら、「成功」メッセージが表示されます。

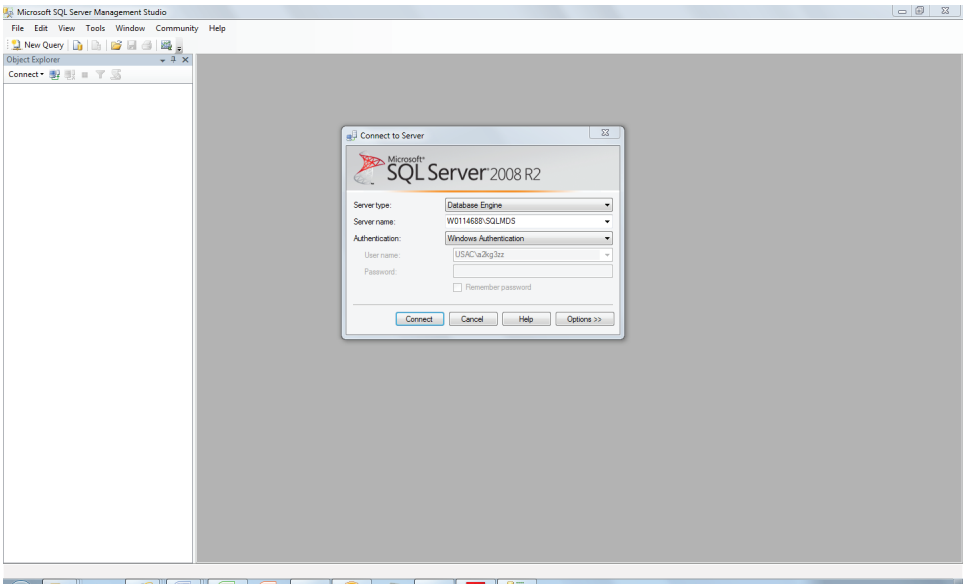


9. .bakを確認し、バックアップ保存をチェックしてください。ファイルが存在します。

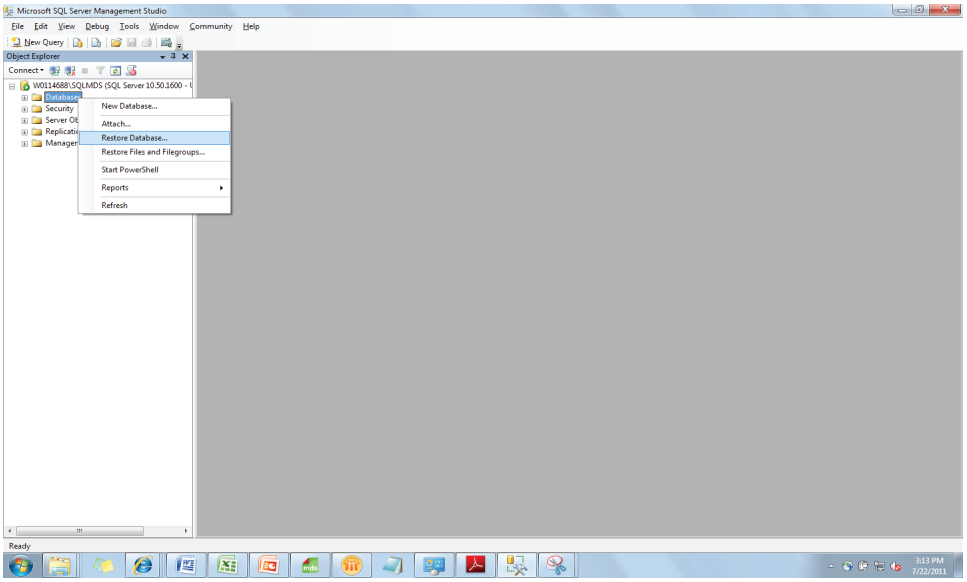
バックアップからのデータベースの復元

注：データベースのバージョンがソフトウェアのバージョンよりも古い場合、以下の手順に従ってデータベースをリストアした後、3M 分子検出ソフトウェアに再インストールしてください。インストール時には、必ず現行のMdsデータベースを使用してください。

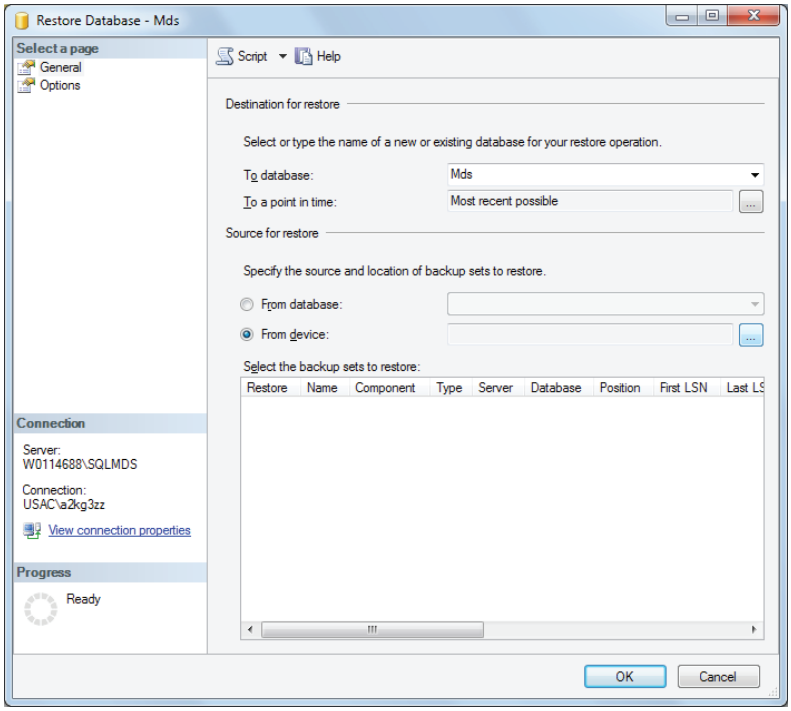
1. Microsoft QL Server Management Studioを開き、**SQLMDS**サーバーに接続します。



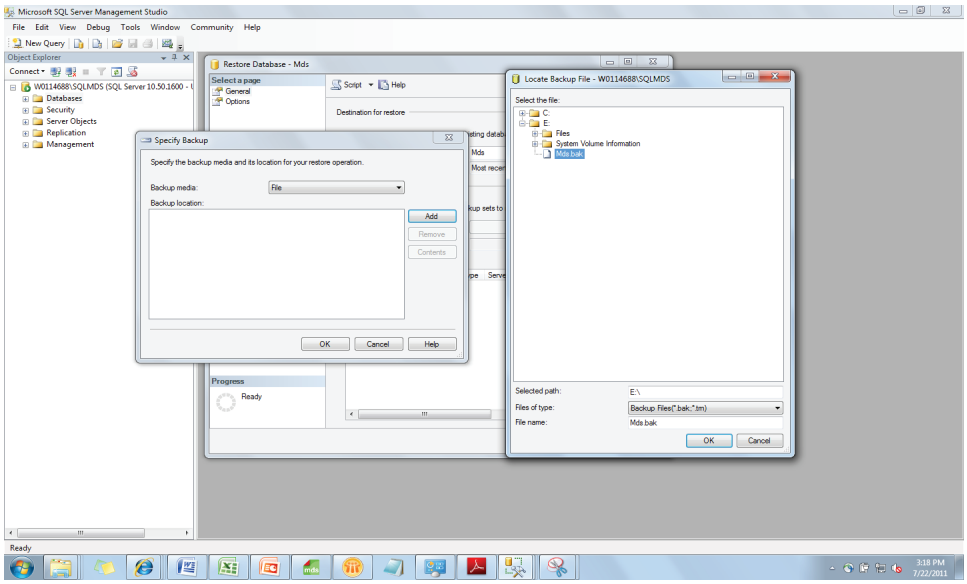
2. *Object Explorer（オブジェクトエクスプローラー）*で、**Databases（データベース）**を開きます。**Mds**データベースが存在している場合は、バックアップを取った後、削除します。**Mds**を右クリックし、Delete（削除）を選択し、[OK]をクリックします。次に、**Databases（データベース）**を右クリックし、**Restore Database（データベースのリストア）**を選択します。



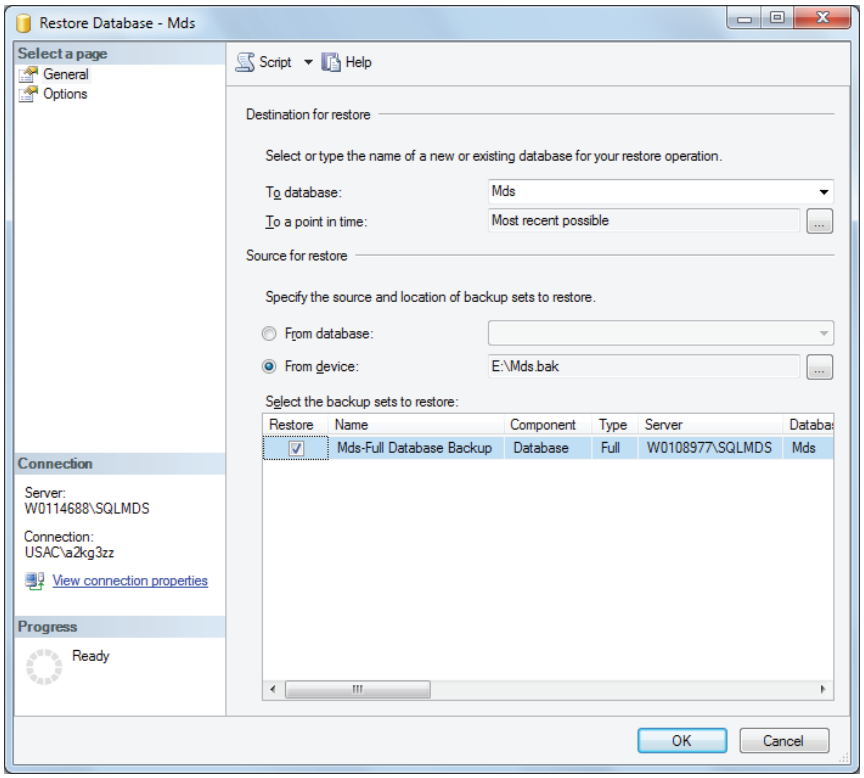
3. **To database（データベースへの復元先）**フィールドで、「Mds」とタイプします。
4. **Source for Restore（復元用ソース）**項目で、**From Device（装置から）：を選択する。**を選択し、**[...]**ボタンをクリックします。



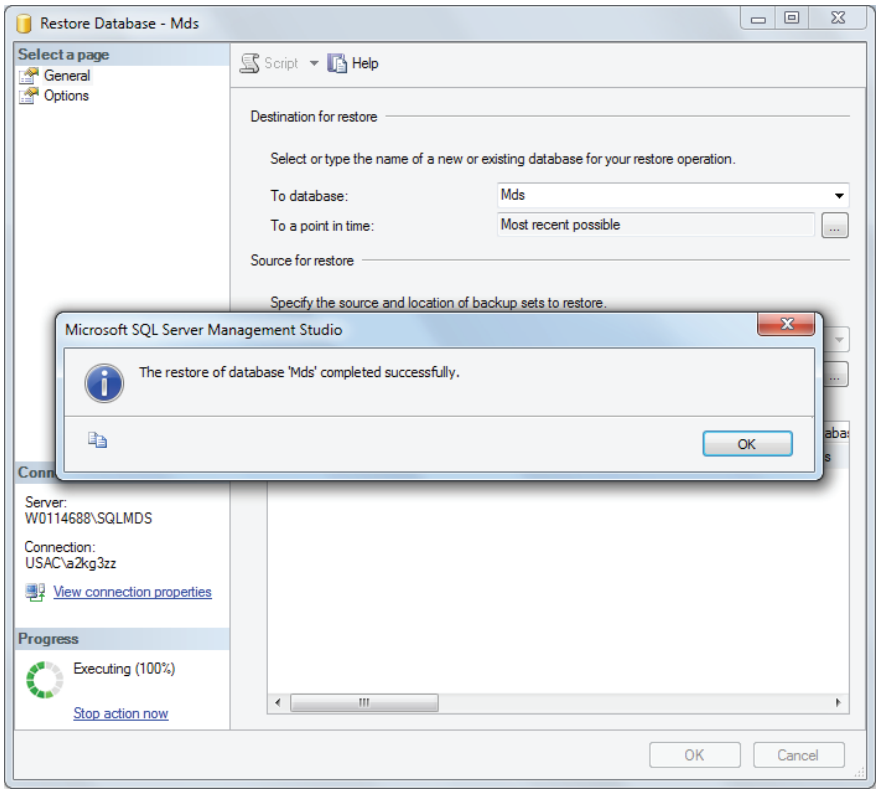
5. **[Add（追加）]**ボタンをクリックし、データベースが保存されている場所からデータベースのバックアップファイル（*.bak）を選択します。**[OK]**をクリックして、再度**[OK]**をクリックします。
注：この表示内でのフォルダのナビゲーションは難しいので、もしデータベースがハードドライブにある場合、Cドライブにコピーしてください。このステップの前に\driveまたはUSBフラッシュドライブ（E:\ は以下のスクリーンショット内のドライブの場所です。



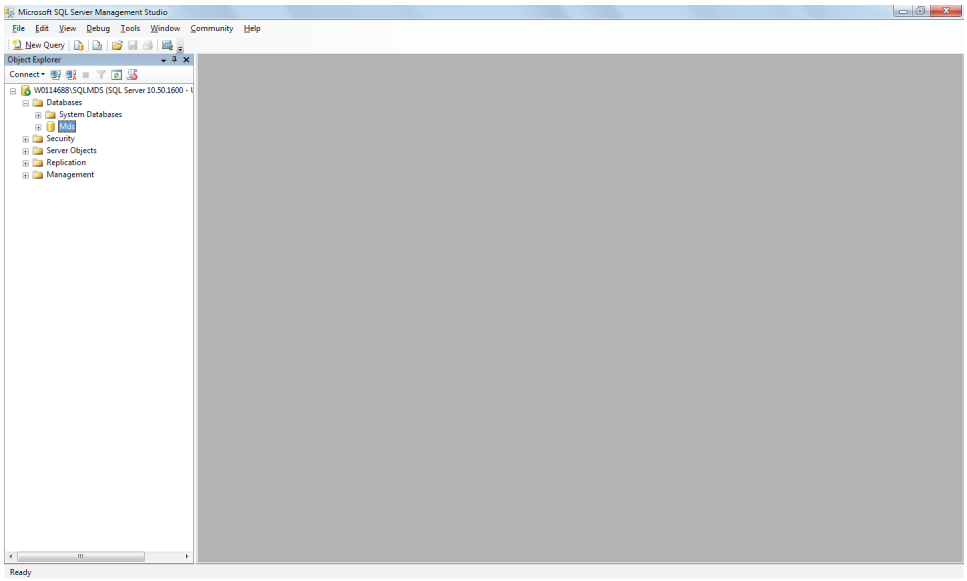
6. **復元**ボックスにチェックをつけ、**[OK]**をクリックして処理を開始します。



7. 進捗状態が画面左下に表示されます。保存が完了したら、「成功」メッセージが表示されます。



8. *Object Explorer（オブジェクトエクスプローラー）*で、**Databases（データベース）**を開きます。**Mds**データベースが表示されます。



ソフトウェアのアンインストール

3M 分子検出ソフトウェアは、すべてのプログラムメニュー、Uninstall.exe、コントロールパネルすべてのプログラムメニュー、アンインストール.exe, あるいはコントロールパネル。

すべてのプログラムメニュー

1. WIndowsデスクトップの**スタート**をクリックし、**すべてのプログラム**を選択します。
2. **3M** を選択します
3. **3M Molecular Detection System（3M 病原菌検出システム）** を選択します
4. **アンインストール**を選択します。
5. *3M Molecular Detection System Uninstall（3M 分子検出システムのアンインストール）* ダイアログが表示されます。既存の3M病原菌検出システムデータベースを削除するか、保存するかを選択できます。デフォルトはデータベースの保存です。データベースを削除するには、**Delete database（データベースの削除）** チェックボックスをクリックします。
6. **[Uninstall（アンインストール）]**ボタンをクリックしてソフトウェアをアンインストールするか、**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックしてアンインストール作業を中断します。

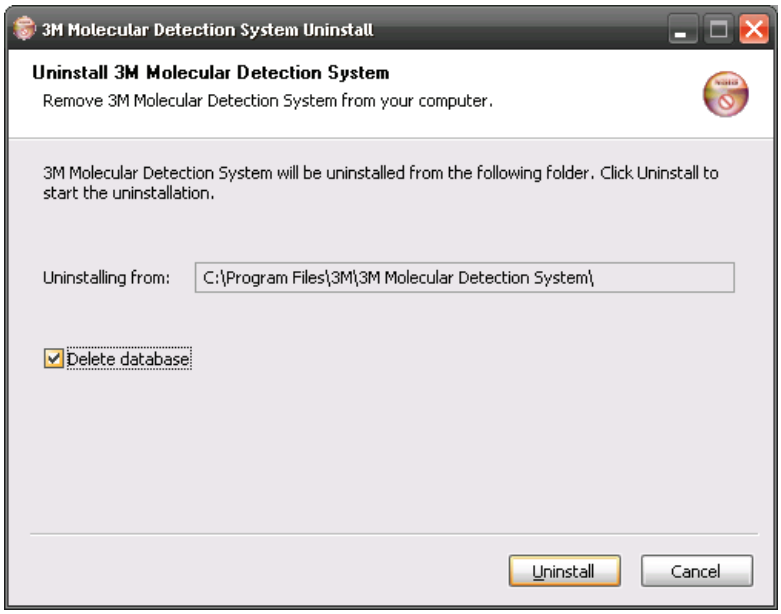
Uninstall.exe

1. Windowsエクスプローラを使い、Cドライブを開けます。\Program Files\3M\3M Molecular Detection System. ソフトウェアのインストールウィザードのプロセスでインストール場所としてデフォルトのフォルダを選択していない場合は、当該プロセス中に選択したインストール場所のフォルダに進みます。
2. **Uninstall.exe** をダブルクリックします。
3. *3M Molecular Detection System Uninstall（3M 分子検出システムのアンインストール）* ダイアログが表示されます。既存の3M病原菌検出システムデータベースを削除するか、保存するかを選択できます。デフォルトはデータベースの保存です。データベースを削除するには、**Delete database（データベースの削除）** チェックボックスをクリックします。
4. **[Uninstall（アンインストール）]**ボタンをクリックしてソフトウェアをアンインストールするか、**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックしてアンインストール作業を中断します。

コントロールパネル

1. WIndowsデスクトップの**スタート**をクリックし、**コントロールパネル**を選択します。
2. **プログラムの追加と削除**をダブルクリックします。
3. **3M Molecular Detection System（3M 病原菌検出システム）** を選択します
4. **変更／削除**を選択します。

5. *3M Molecular Detection System Uninstall（3M 分子検出システムのアンインストール）*ダイアログが表示されます。既存の3M病原菌検出システムデータベースを削除するか、保存するかを選択できます。デフォルトはデータベースの保存です。データベースを削除するには、**Delete database（データベースの削除）**チェックボックスをクリックします。
6. **[Uninstall（アンインストール）]**ボタンをクリックしてソフトウェアをアンインストールするか、**[Cancel（キャンセル）]**ボタンをクリックしてアンインストール作業を中断します。



アンインストール画面

3M病原菌検出装置のセルフチェックの操作

実行する前に

- 3M病原菌検出装置のセルフチェックは電源を入れると自動的に始まり、ソフトウェアの使用ができるようになります。3Mではセルフチェックを3M病原菌検出装置を使用する日ごとに行うことを推奨しています。
- セルフチェックでは以下の点が確認されます。
  - ファームウェアの妥当性
  - LED機能
  - 配電
  - ヒーター機能
  - フォトダイオード機能
  - メモリの状態チェック
- 失敗を防ぐために、セルフチェック開始前に以下のことを行ってください。
  - 挿し込み式ヒーターが適切に取り付けられていることを確認する
  - 3M スピードローダートレイを装置から取り外す
  - 装置の蓋を閉める
- セルフチェックは約2分かかります。セルフチェックが行われている間、装置のステータスライトは色が順番に変わり、電源ライトが一定時間赤く点滅した後、すべてのライトが消えます。
- スタートアップ時のセルフチェックの結果をソフトウェアに取り込みたい場合は、装置をコンピュータに接続して、装置の電源を入れる前にソフトウェアを起動させます。

セルフチェックの開始

1. 3M病原菌検出装置の電源を入れ直すか装置のソフトウェアステータスバーにあるアイコンを右クリックしてコンテキストセンシティブメニューを表示します。また、装置アイコンをダブルクリックしても装置タブが開きます。
2. **セルフチェックの開始**を選択します。
3. 装置アイコンが白色に変わり、装置のステータスが診断に変わります。装置タブにセルフチェックのプログレスバーが表示されます。
4. セルフチェックが完了したら、ポップアップウィンドウが表示されて、結果（「合格」または「失敗」）が表示されます。装置のステータスバーおよびアイコンも下表のとおり結果を表示します。

装置のステータスライト	装置アイコン	結果
オレンジまたは緑		合格
赤色点滅	（点滅）	失敗

5. **[OK]**ボタンをクリックして通知表示を閉じるか、[View Report（レポートの表示）]ボタンをクリックして個々のテストの結果を表示します。
6. **Reports（レポート）**メニューの**Instrument Self-Check Results（装置のセルフチェックの結果）**を選択して、過去のセルフチェックの結果を表示することができます。レポートの作成に関する詳細は、本マニュアルの該当セクションをご覧ください。
7. セルフチェックの不具合に関するトラブルシューティングの情報はトラブルシューティング項目をご覧ください。

エラーログファイルの表示

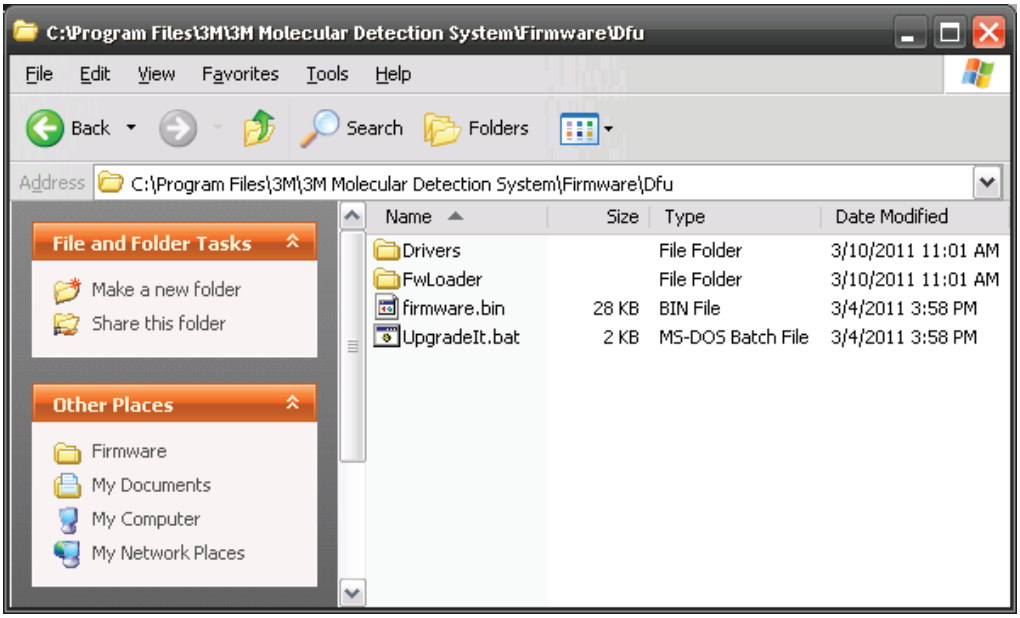
3M 分子検出ソフトウェアでは、ソフトウェアのエラーのトラブルシューティングに役立つエラーログを作成します。ソフトウェアに表示されるエラーメッセージは、特定のエラーの詳細情報に関してこのファイルに言及する場合があります。コンピュータ上にはユーザーアカウントごとにこのファイルのコピーが1部のみ存在し、3M 分子検出ソフトウェアの起動中に使用されます。ファイルは下記のフォルダ内に保存されています。

Windows XP
C:\Documents and Settings\<Username>\3M\3M Molecular Detection System\LOG

Windows Vista／7
C:\Users\<Username>\3M\3M Molecular Detection System\LOG

Windows XPのファームウェアのアップグレード

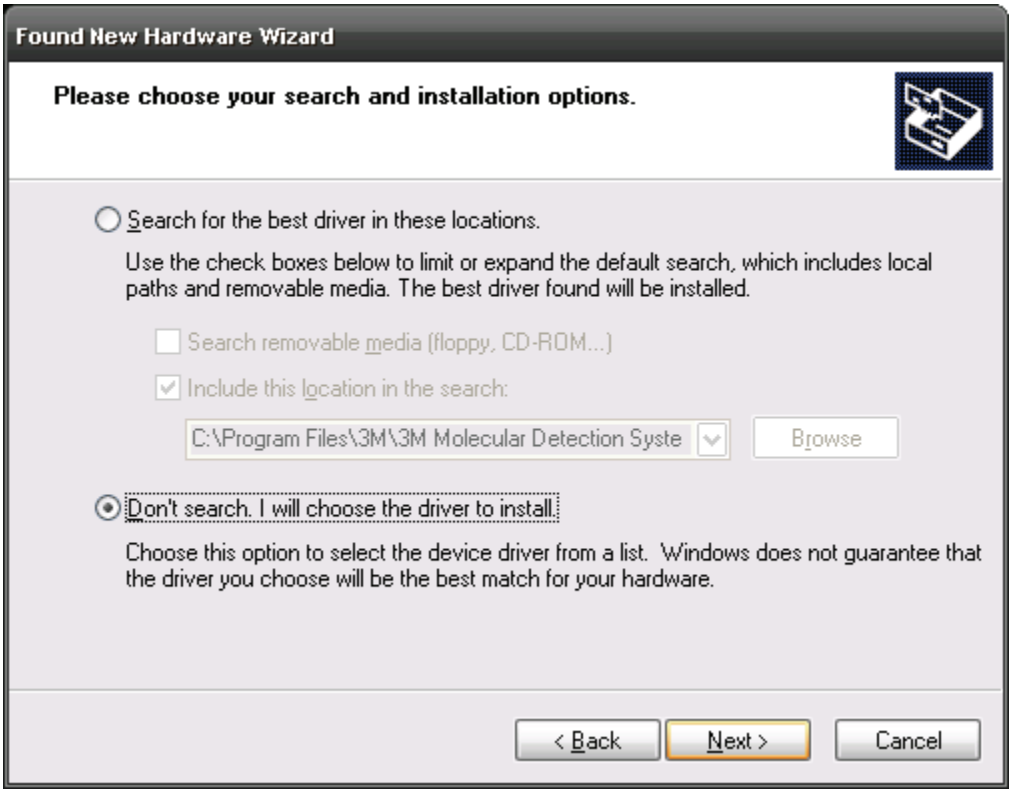
1. 3Mの指示がない限り、装置のファームウェアはアップグレードしないでください。装置のパフォーマンスを向上させるためにファームウェアのアップグレードが必要な場合は、3Mよりユーザーにご連絡の上、アップグレードファイルの入ったメディアをお渡しします。
2. Windows Explorerを使い、firmware.binのファームウェアアップグレードファイルをCドライブ\Program Files\3M\3M Molecular Detection System\Firmware\DFU folderフォルダー.にコピーしてください。\Program Files\3M\3M Molecular Detection System\Firmware\DFU folder. このフォルダはデフォルトのインストール先フォルダです。ソフトウェアのインストール時に別のフォルダを選択した場合は、限定した場所にフォルダーがあります。既存のfirmware.binファイルと置き換えてください。
3. firmware.binファイルをコピーした後、アップグレード処理を開始してください。ファームウェアのアップグレードは管理者限定となります。装置のcontest-sensitiveメニューから[Upgrade Firmware（**ファームウェアのアップグレード**）]をクリックすることによって開始するか装置タブにある**[Upgrade Firmware（ファームウェアのアップグレード）]**ボタンをクリックする。アップグレード処理を開始すると、装置はシステムから切断され、装置アイコンがステータスバーから消えます。
4. 黒い*UpgradeIt*コマンドウィンドウが開きます



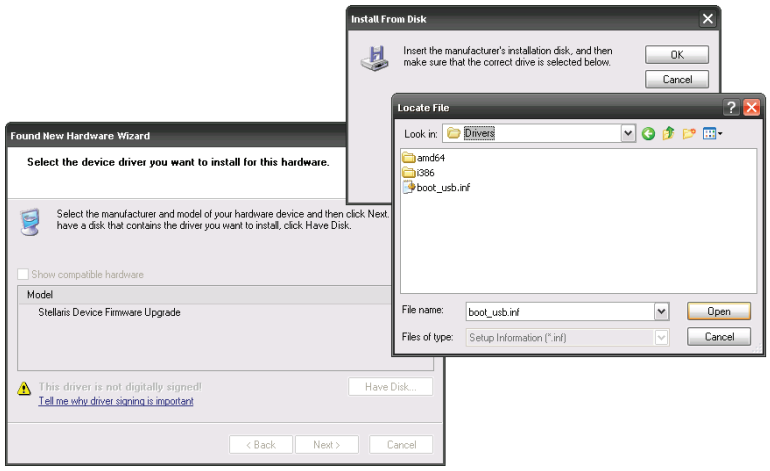
ファームウェアのインストールフォルダ

5. もしこのコンピュータを使用してのファームウェアのアップグレードが初めての場合UpgradeItウィンドウを最小化し、サポートドライバーをインストールしてください。
6. *新しいハードウェアが見つかりましたウィザード*が表示されたら、**「特定の場所のリストからインストールする（上級）」**を選択します。
7. **この場所にある最適なドライバを検索する**を選択し、「検索にこの場所を含める」にチェックを入れます。
8. 上記ステップ2に示した病原菌検出システムフォルダ内のDfu\Driversフォルダを開きます。
9. ウィザードによるドライバのインストール完了後、お使いのコンピュータがデバイスの認識処理を完了させ、新しいデバイスが使用できる状態になったことを通知します。

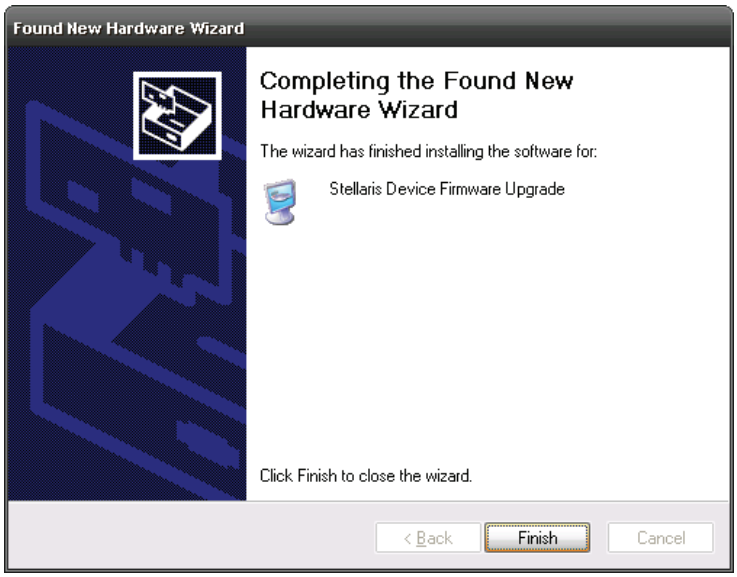
Windows XPのファームウェアのアップグレードのインストール(1)



Windows XPのファームウェアのアップグレードのインストール(2)



Windows XPのファームウェアのアップグレードのインストール(3)



Windows XPのファームウェアのアップグレードのインストール(4)

10. ドライバインストール後に再起動してください。
11. 再起動後、ソフトウェアを開け、装置のアイコンを右クリックし、**ファームウェアのアップグレード**を選択します。
12. 以下に示すようにコマンドウィンドウ上に「Yes」または「Y」を入力してください。新しいファームウェアがダウンロードされると、装置が再起動し、セルフチェックを開始します。
13. 装置は3M病原菌検出ソフトウェアで確認し、装置アイコンがステータスバーに表示されます。装置アイコンの上にポインタをあわせると、新しいファームウェアの改訂番号が表示されます。
14. 装置が認識されていない場合は、エラーが起こっています。修復するためには、装置の電源を切り、再度電源を入れてからアップグレードプロセスを再度行ってください。

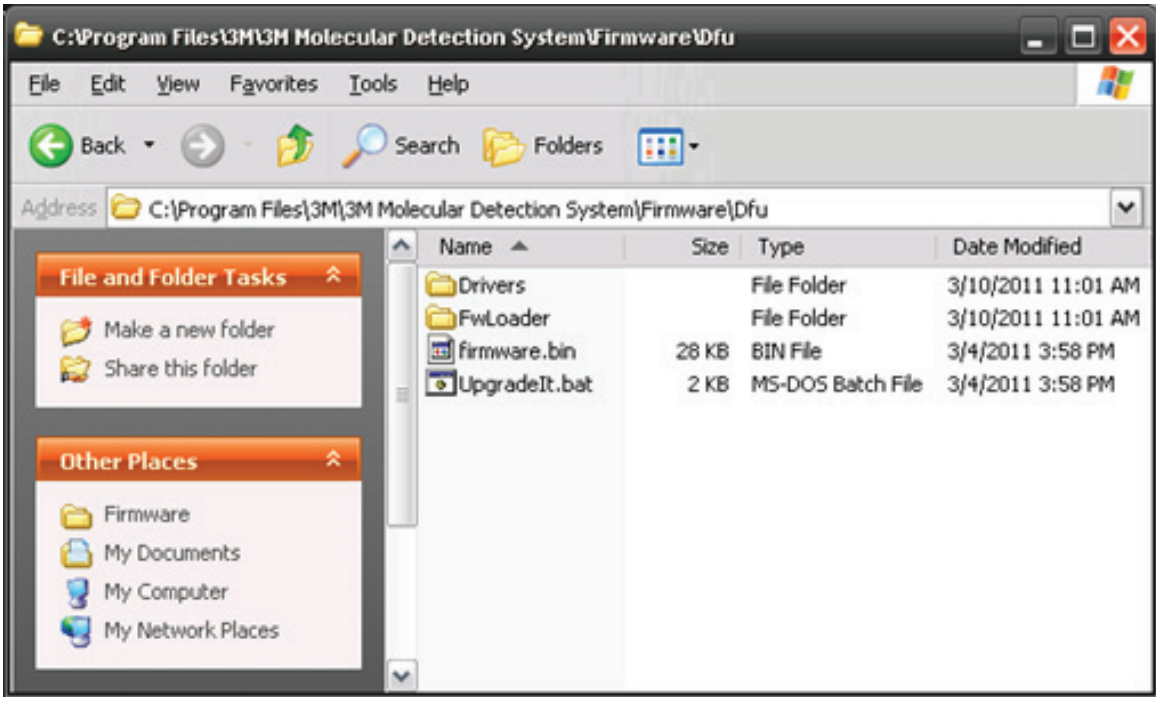
***UpgradeIt*のコマンドウィンドウ**

Windows 7およびVistaにおけるファームウェアのアップグレード

1. 3Mの指示がない限り、装置のファームウェアはアップグレードしないでください。装置のパフォーマンスを向上させるためにファームウェアのアップグレードが必要な場合は、3Mよりユーザーにご連絡の上、アップグレードファイルの入ったメディアをお渡しします。
2. Windows Explorerを使い、firmware.binのファームウェアアップグレードファイルをCドライブ\Program Files\3M\3M Molecular Detection System\Firmware\DFU folderフォルダー.にコピーしてください。\Program Files\3M\3M Molecular Detection System\Firmware\DFU folder. このフォルダはデフォルトのインストール先フォルダです。ソフトウェアのインストール時に別のフォルダを選択した場合は、限定した場所にフォルダーがあります。既存のfirmware.binファイルと置き換えてください。
3. firmware.binファイルをコピーした後、アップグレード処理を開始してください。ファームウェアのアップグレードは管理者限定となります。装置のcontest-sensitiveメニューからファームウェアのアップグレードをクリックすることによっ

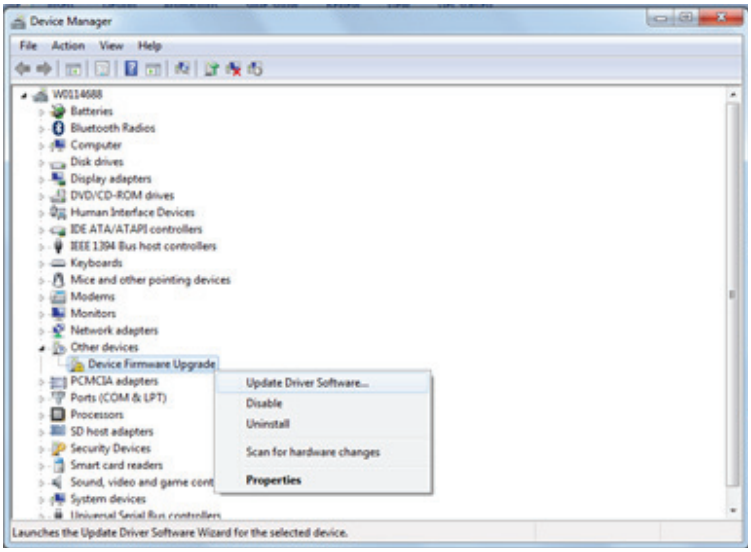
て開始するか装置タブにある[Upgrade Firmware（ファームウェアのアップグレード）]ボタンをクリックする。アップグレード処理を開始すると、装置はシステムから切断され、装置アイコンがステータスバーから消えます。

4. 黒いUpgradeItコマンドウィンドウが開きます

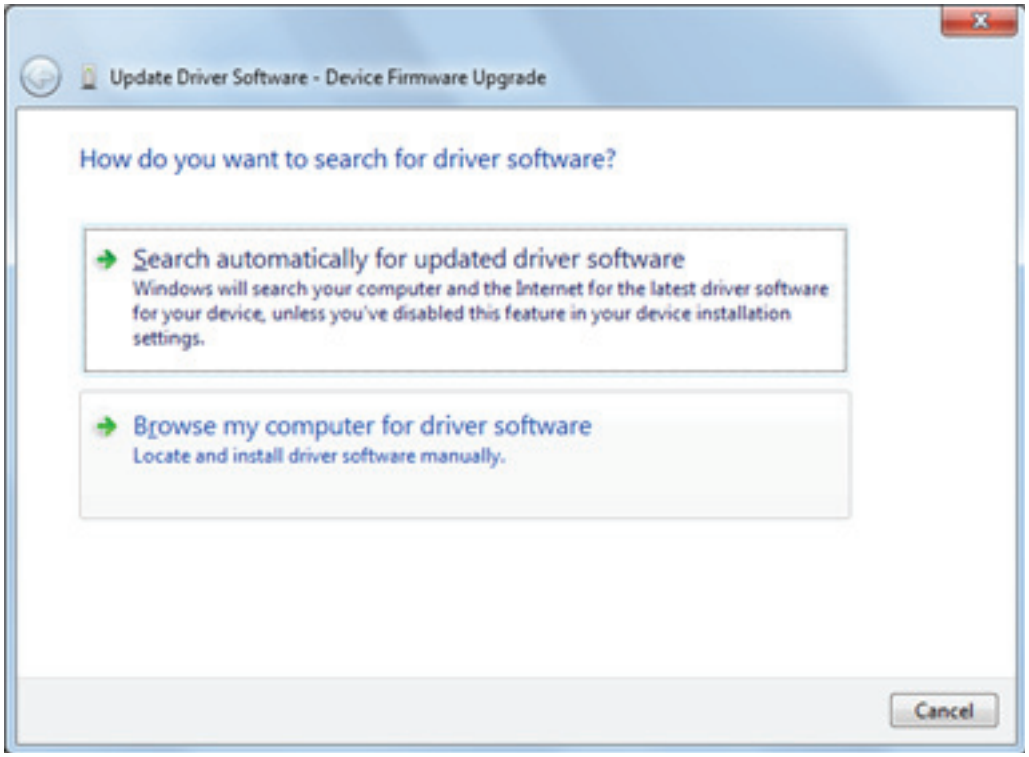


ファームウェアのインストールフォルダ

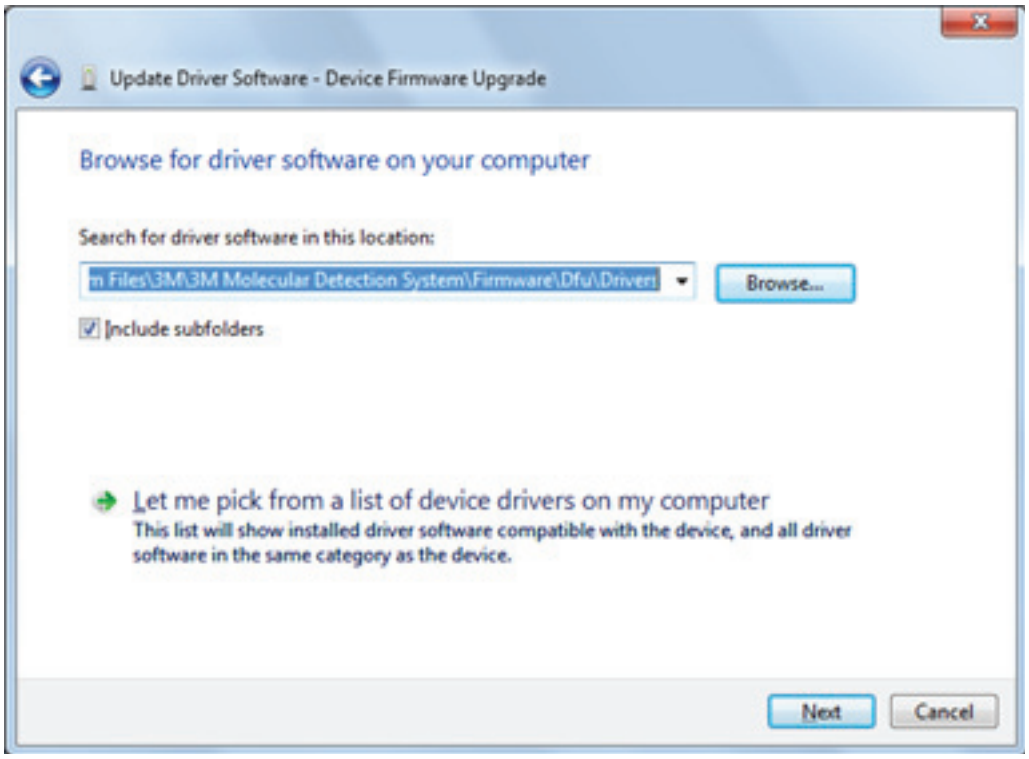
5. もしこのコンピュータを使用してのファームウェアのアップグレードが初めての場合UpgradeItウィンドウを最小化し、サポートドライバーをインストールしてください。
6. 自動インストールは失敗します。デバイスマネージャーを開け、デバイスファームウェアのアップグレードを右クリックし、ドライバーソフトウェアのアップグレードを選択します。
7. ドライバーソフトウェアのためにコンピュータをブラウズを選択します。
8. ブラウズをクリックします。
9. 上記ステップ2に示した病原菌検出システムフォルダ内のDfu\Driversフォルダを開きます。
10. Windowsのセキュリティーウィンドウが表示されます。本ドライバーソフトウェアをインストールするをクリックします。
11. ウィザードによるドライバのインストール完了後、お使いのコンピュータがデバイスの認識処理を完了させ、新しいデバイスが使用できる状態になったことを通知します。



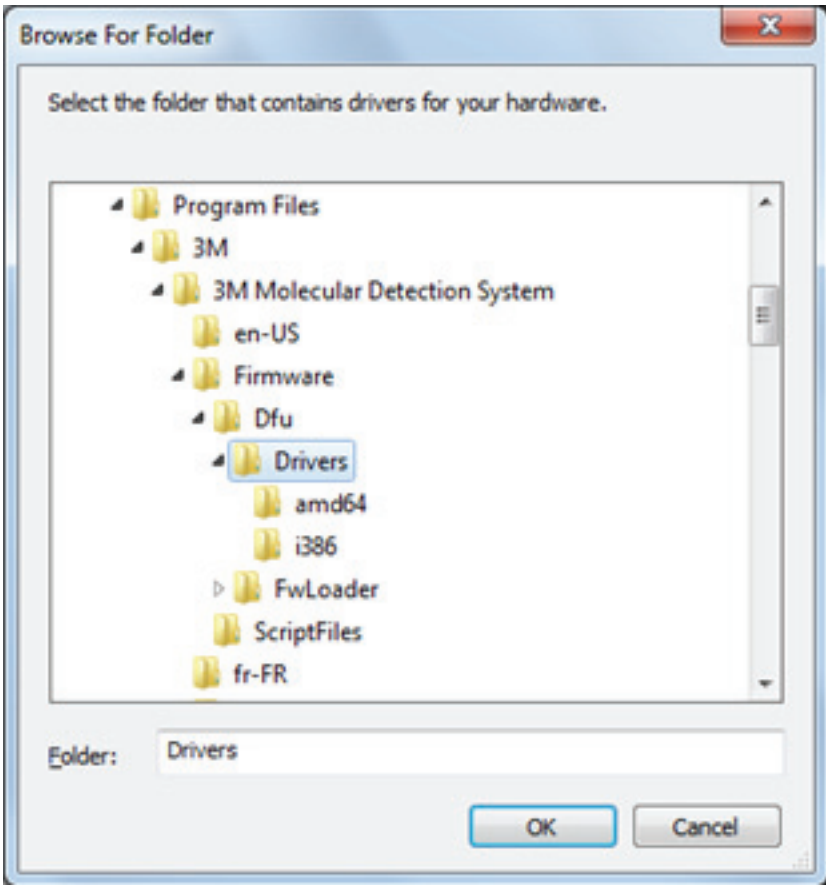
デバイスマネージャー



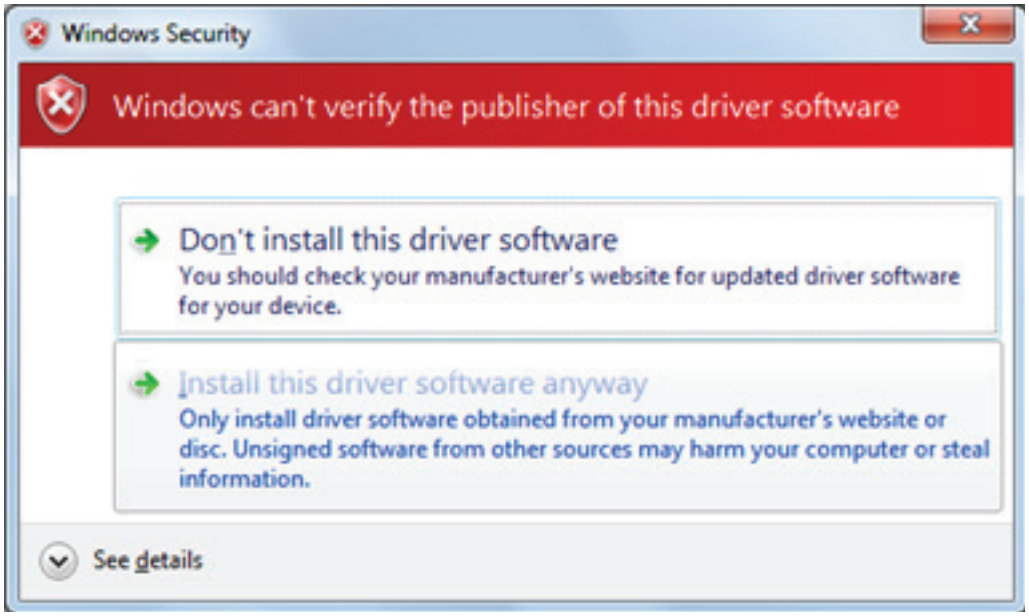
Windows 7およびVistaのファームウェアのアップグレードのインストール(1)



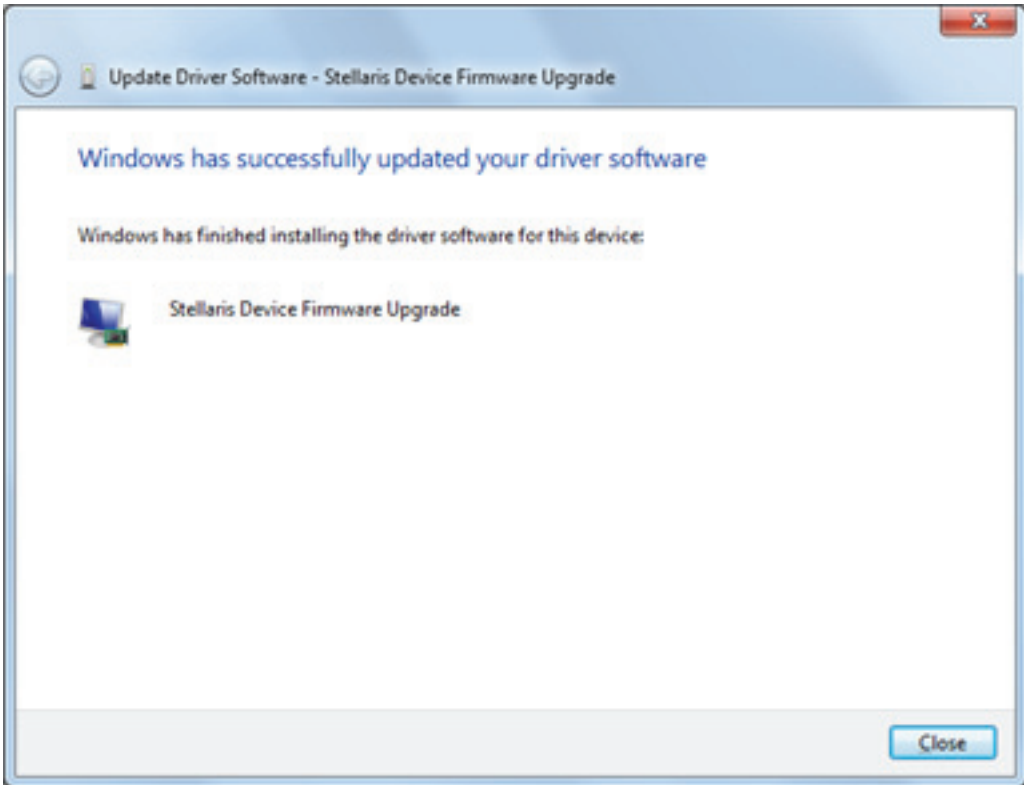
Windows 7およびVistaのファームウェアのアップグレードのインストール(2)



Windows 7およびVistaのファームウェアのアップグレードのインストール(3)



Windows 7およびVistaのファームウェアのアップグレードのインストール(4)



Windows 7およびVistaのファームウェアのアップグレードのインストール(5)

12. ドライバーがインストールされたら以下に示すようにコマンドウィンドウ上に「Yes」または「Y」を入力してください。新しいファームウェアがダウンロードされると、装置が再起動し、セルフチェックを開始します。
13. 装置は3M病原菌検出ソフトウェアで確認し、装置アイコンがステータスバーに表示されます。装置アイコンの上にポインタをあわせると、新しいファームウェアの改訂番号が表示されます。
14. 装置が認識されていない場合は、エラーが起こっています。修復するためには、装置の電源を切り、再度電源を入れてからアップグレードプロセスを再度行ってください。

UpgradeItのコマンドウィンドウ

装置のクリーニングと消毒

警告: 装置またはプレートを取り扱う際、または装置のクリーニングおよび消毒を行う際は、試験実施基準に従い、適正な防護服 (PPE) を装備してください。

警告: 危険電圧に伴う危険を軽減するため、装置のクリーニングおよび消毒を行う前に必ず装置の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

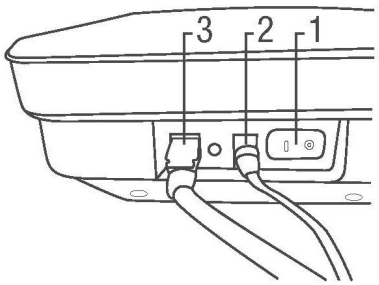
液体がこぼれた場合は、速やかに装置のクリーニング、消毒を行ってください。

装置の外表面は1カ月に1回、定期的に掃除してください。

装置の内部は1カ月に1回、定期的に消毒してください。

外表面のクリーニング

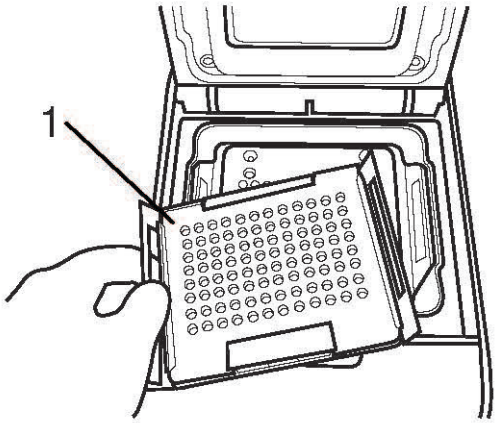
1. 電源を切り (1) 、バックパネルの電源ケーブル (2) 、USBケーブル (3) を抜きます。



2. 水で1～5%に薄めた家庭用漂白剤を軽く浸した使い捨てタオル (1) で、装置の外表面をやさしく拭きます。使い捨てタオルは水滴が落ちない程度までしっかりと絞ります。外表面をクリーニングする際は、バックパネルのパワーケーブル接続部およびUSBケーブル接続部は避けてください。
3. DI水 (蒸留水またはイオン交換水) に浸した別の使い捨てタオルで、同じ手順を繰り返します。

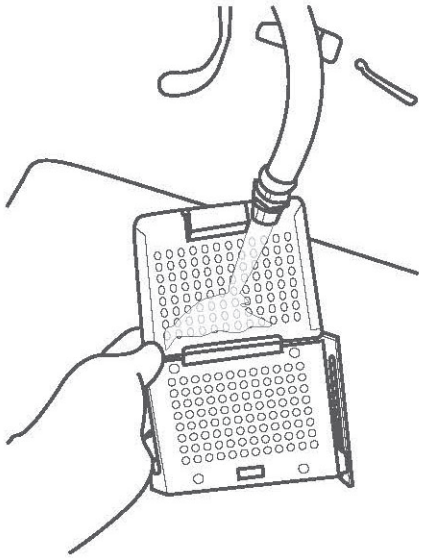
内部の消毒

1. 装置の蓋を開ける前に、蓋のヒーター、挿し込み式ヒーターを5分間冷却させます。
2. 装置の蓋を開けて、3M スピードローダートレイ (1) を装置から取り出します。

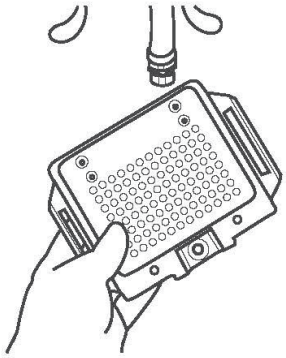


3. 水で1～5%に薄めた家庭用漂白剤、水で1～5%に薄めた家庭用漂白剤を、スプレーボトルを使用してスピードローダーにスプレーします。
4. 使い捨てタオルで、スピードローダートレイの漂白剤を拭き取ります。

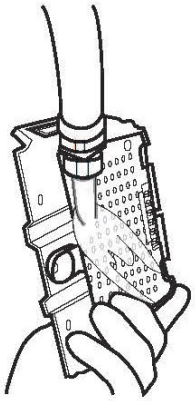
5. 実験室のシンク内で、流水下に3M スピードローダートレイを持ち、水道水で濯ぎます。
6. 3M スピードローダートレイを、自然乾燥できる場所で少なくとも1時間乾燥させます。



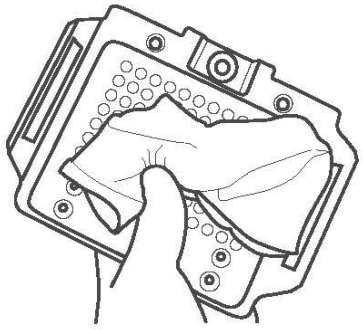
7. 装置から挿し込み式ヒーターを取り外し、に薄めた家庭用漂白剤を、スプレーボトルを使用して挿し込み式ヒーターにスプレーします。



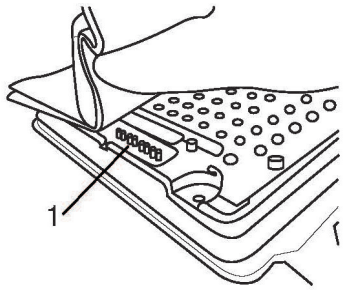
8. 使い捨てタオルで、挿し込み式ヒーターの漂白剤を拭き取ります。
9. 実験室のシンクに挿し込み式ヒーターを置いて、蛇口からの流水で、すすぎます。



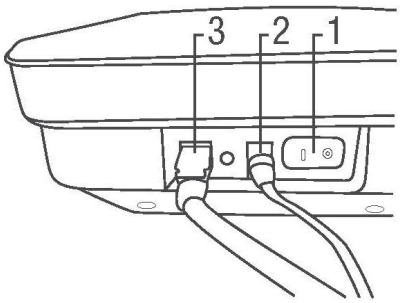
10. 乾燥した使い捨てタオルで、挿し込み式ヒーターが乾くまで拭きます。



11. 乾燥した使い捨てタオルで、挿し込み式ヒーターの各スプリングピン (1) をやさしく押し下げます。



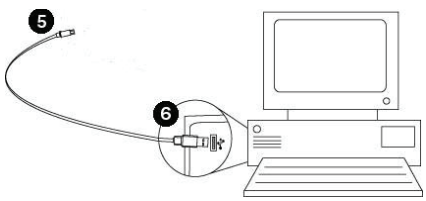
12. 挿し込み式ヒーターを、自然乾燥できる場所で少なくとも1時間乾燥させます。
13. 水で1～5%に薄めた家庭用漂白剤、装置の外表面をやさしく拭きます。使い捨てタオルは水滴が落ちない程度までしっかりと絞ります。
14. DI水 (蒸留水またはイオン交換水) に浸した別の使い捨てタオルで、同じ手順を繰り返します。
15. 装置の内側表面を乾いた使い捨てタオルで、装置が乾くまで拭き上げます。装置の内表面を、少なくとも1時間自然乾燥させます。装置が乾燥するまでは、電源ケーブルやUSBケーブルを再接続しないでください。
16. USBケーブル (3) 、電源ケーブル (2) を接続して、電源 (1) を入れます。



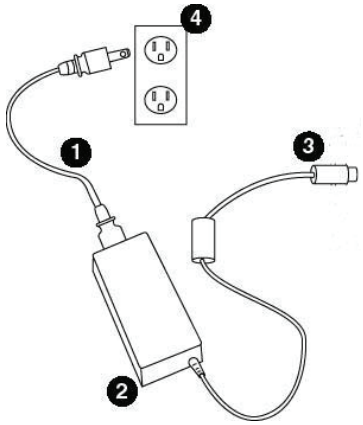
修理のために3Mに装置を返送する際の梱包

警告: 修理のために装置を返送する前に、必ずクリーニングおよび消毒処置を行ってください。

1. 装置のバックパネルにあるOn/Offスイッチを使用して3M 病原菌検出システムの電源を切ります。
2. 装置のバックパネルにあるUSB2. 0ポート (5) とコンピュータ側のUSB2. 0ポート (6) からUSBケーブルを取り外します。



3. コンセント (4) から電源コード (1) を抜き、3M 病原菌検出システムの電源ポート (3) から電源装置 (2) を取り外します。



4. 代替品の3M 病原菌検出装置が配送された際に使われていた輸送容器に返却する3M 病原菌検出装置を入れます。
5. 輸送容器を閉めて3M 病原菌検出システムおよびアクセサリを容器内に密封します。

トラブルシューティング

3M 病原菌検出装置のトラブルシューティング

問題	考えられる原因	解決策
装置の温度が下がらない（ステータスライトがオレンジ） コア温度が「Infinity℃」と表示される セルフチェックによって、コアとなるヒーター、および／または蓋のヒーターが不合格	挿し込み式ヒーターが正しく設置されていない	挿し込み式ヒーターを設置しなおし、装置の電源を再度入れてください。
	挿し込み式ヒーターは最近クリーニングされ、完全に乾いていない	ヒーターを十分に自然乾燥させてください
	ヒーターのポゴピンがまっすぐになっていない	ピンをまっすぐにしてください
	インナーシェルのピンのヘッドが汚れているまたは腐食している	ピンをきれいにします
コア温度が「NaN」と表示される	ソフトウェアと装置が同期していない	装置の電源を再接続してください
セルフチェックでフォトダイオードテストが不合格	装置の蓋が開いている、セルフチェック中に装置内部にトレイ、チューブが残っている	蓋を閉め、トレイ／チューブを取り出して、セルフチェックを再度行ってください
セルフチェックで電源テスト不合格	電源がしっかり接続されていない	電源のスイッチを切り、接続を確認し、電源を入れてください。
セルフチェックでSRAMテスト不合格	メモリが破損している	ファームウェアを再インストールしてください。改善されない場合は、修理のために装置を返送してください。
セルフチェックでファームウェアテスト不合格	メモリが破損している チェックサムの不一致	ファームウェアを再インストールしてください。改善されない場合は、修理のために装置を返送してください。
セルフチェックでシリアル番号テスト不合格	無効なシリアル番号	ファームウェアを再インストールしてください。改善されない場合は、修理のために装置を返送してください。
蓋が開かない	挿し込み式ヒーター、スピードローダートレイが正しく設置されていない	１．装置の電源を再接続してください2．万一メイン蓋ボタンを使用して蓋が開かない場合には、装置の底にある緊急蓋解除を使用してください。ねじをカバーしているボタンを外した後に、薄い物を穴(例えば小さなねじ回しまたは広げられたクリップ)に挿入してください。3. ヒーターおよびトレイに異常がないことを確認してください
	ソレノイドの異常	１．装置の電源を再接続してください2．万一メイン蓋ボタンを使用して蓋が開かない場合には、装置の底にある緊急蓋解除を使用してください。ねじをカバーしているボタンを外した後に、薄い物を穴(例えば小さなねじ回しまたは広げられたクリップ)に挿入してください。3．蓋を開け、蓋のプランジャーを押し下げ、開蓋ボタンを押します。４．ソレノイドが作動しない場合（クリック音が鳴らない場合）、修理のために装置を返送してください。

問題	考えられる原因	解決策
蓋が閉まらない	ラッチやインナーシェルに破片などがある	ラッチやインナーシェルを掃除します
	ソレノイドがオープンポジションのままとなる	装置の電源を再接続してください改善されない場合は、修理のために装置を返送してください。
ステータスバーは表示されていないが、電源ライトは点いている	装置がスタンバイモードにある	ソフトウェアを使用してスタンバイモードから起動するか、装置の電源を再接続します
	LEDが作動しない	セルフチェックを開始して、ステータスバーの色の変化を確認してください。赤、緑、青のライトが点灯されない場合は、修理のために装置を返送してください。
装置の電源が入らない	電源がしっかり接続されていない	電源のスイッチを切り、接続を確認し、電源を入れてください。
	電源ライトが作動しない	装置をコンピュータに接続し、電源を入れ、ソフトウェアから装置のステータスをチェックしてください

3M 分子検出ソフトウェアのインストールに関するトラブルシューティング

問題	考えられる原因	解決策
SQLサーバーのインストール中に、特定のコンポーネント／ディペンデンシーがインストールされていない旨のメッセージが表示される	必要なコンポーネントが不足している	該当するコンポーネントをインストールしてください
SQL サーバーのインストール中に「SQL server Setup has encountered an error when running a Windows Installer file」メッセージが表示される	複数の原因	キャンセルをクリックしてください。インストール終了時に失敗メッセージが表示されます。コンピュータを再起動し、SQLサーバーのインストールを再度行ってください。
SQLサーバーインストール終了時の失敗	複数の原因	コンピュータ再起動後、SQLサーバーを再インストールしてください。
Windows VistaまたはでMDSアプリケーションインストール中に「Error opening file for writing」メッセージが表示される	アプリケーションが管理者権限を持っていない	インストールを中止し、3M.Mds.exeファイルを右クリックして、「管理者として実行」を選択します。
MDSアプリケーションのデータベース接続設定画面で「SQL server does not exist or access denied」メッセージが表示される	SQLサーバーのサーバー名が不適切	通常ローカルのコンピュータ名の後に「/SQLMDS」が続く正しいサーバー名を入力してください。コンピュータ名はWindowsのコンピュータのプロパティで見ることができます。
	WindowsユーザーがSQLMDSサーバーとの接続権利がありません。	SQLサーバーマネージメントスタジオを使い、SQLMDSサーバーへのアクセス権を付けてください。

問題	考えられる原因	解決策
「言語初期設定時にエラー発生。データベース接続を確認してください。」メッセージがMDSアプリケーションを開いた後に表示される。	SQLサーバーがオンラインではありません。	SQL server Configuration Managerを使用して、サーバーの状態をチェックし、サーバーを始動してください。
	データベースが適正にインストールされていない	MDSアプリケーションを再インストールしてください
	SQLサーバーが適正にインストールされていない	SQLサーバーを再インストールしてください

3M 分子検出ソフトウェアの操作に関するトラブルシューティング

問題	考えられる原因	解決策
「無効なファイル形式」が表示されるインポートエラー	インポートファイルの拡張子または区切り文字の種類が適正でない。	Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）でファイルの拡張子および区切り文字をインポートするファイルに合わせて設定してください
	インポートファイルのヘッダーラインの数がImport and Export Options（インポート／エクスポートオプション）ョンで設定した数と一致していない	Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）でヘッダーラインの数をインポートするファイルに合わせて設定してください。
	CSVファイルでは、ラインの最後の値の後ろであっても、空のフィールドはカンマで区切られる必要があります。	メモ帳でCSVファイルを開いて、必要な場所にカンマを追加してください
ランのセットアップファイルをインポート後、定義される最初の列のウェルが空です	インポートファイルのヘッダーラインの数がImport and Export Options（インポート／エクスポートオプション）で設定した数と一致していない	Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）でヘッダーラインの数をインポートするファイルに合わせて設定してください。
ファイルインポート時に「必要な承認がありません」というエラーが表示される	インポートファイルの場所は、Windows7のプログラムファイルディレクトリに設定されています	Import and Export Options（インポート／エクスポートオプション）で、インポートファイルの場所をドキュメントフォルダなど他の場所に設定してください。
ファイルインポート時に「必要な承認がありません」というエラーが表示される	エクスポートファイルの場所がWindows7のプログラムファイルディレクトリに設定されています	インポート／エクスポートオプションで、エクスポートファイルの場所をドキュメントフォルダなど他の場所に設定してください。
新しいランを開始することができない	ランが保存されていない	ランを保存してください
	装置が待機状態（ステータスバー：緑）ではない	装置が待機状態になるまでランを開始するのを待ってください。装置がスタンバイ状態（ステータスバー：色なし）の場合、装置を修復させてください。
	装置がテスト完了状態（ステータスバー：赤）にある	装置の蓋を開け閉めしてください。
検体ID、キットのロット番号の値がセットアップ（グリッド）またはセットアップ（リスト）タブに保存されていない	グレイのドロップダウンリストに値を入力しようとしている。フィールドがリストモードの時は新しい値を入力することができません。	1. ＋ボタンをクリックして、テキスト入力フィールド（白）に切り替えます 2. 値を入力します 3. 緑のボタンをクリックするか、Enterを押します。
キットのロット番号がセットアップ（グリッド）またはセットアップ（リスト）タブに保存されていない	固有でないキットのロット番号を入力しようとしている。	キットのロット番号を確認し、再度入力してください。キットのロット番号は固有でなければなりません（例えば、SALとECOキットに同じロット番号を付すことはできません）。
温度エラーによりランが不合格	温度エラー	1. 装置からトレイを取り出します 2. 挿し込み式ヒーターを再度設置します 3. セルフチェックを実行します 4. このエラーによりセルフチェックで失敗、または追加の検査で失敗した場合、修理のため装置を返送してください。

問題	考えられる原因	解決策
装置の接続が切断したためランが不合格	USBケーブルが接続されていない	装置のUSB接続を確認してください
	電力不足	装置の電力を確認してください
ソフトウェアが入力できないか、フリーズしている	レポートはレポートビューアーに表示されます。レポートビューアーが開いているときには、メインソフトウェアスクリーンは使用できません。	Windowsタスクバーからアイコンを使用してレポートに変更。レポートビューアーを閉じて、メインソフトウェアスクリーンに戻ります。

製品およびサービス情報に関する3Mへの問い合わせ

1. お使いのウェブよりwww.3M.com/foodsafetyへアクセスし、3M食品衛生製品情報をご覧いただくか
2. 3M技術サポートへお電話ください

3M技術サポート

3M United States	**3M Canada**	**3M Europe and MEA**	**3M Latin America**
3M Center	Post Office Box 5757	3M Deutschland GmbH	3M Center
Bldg. 275-5W-05	London, Ontario N6A 4T1	Carl-Schurz - Strasse 1	Bldg. 275-5W-05
St. Paul, MN 55144-1000	Canada	D41453 Neuss/Germany	St. Paul, MN 55144-1000
USA	1-800-563-2921	+49-2131-14-3000	USA
1-800-328-6553			1-954-340-8263

3M Asia Pacific	**3M Japan**	**3M Australia**
No 1, Yishun Avenue 7	3M Health Care Limited	Bldg A, 1 Rivett Road
Singapore, 768923	33-1, Tamagawadai 2-chrome	North Ryde, NSW 2113
65-64508869	Setagaya-ku, Tokyo	Australia
	158-8583, Japan	61 1300 363 878
	81-570-011-321	

商標

3Mおよび3Mのロゴは3Mの商標です。Microsoft Windows XP、Microsoft Vista、Microsoft Windows 7はMicrosoft社の登録商標です。

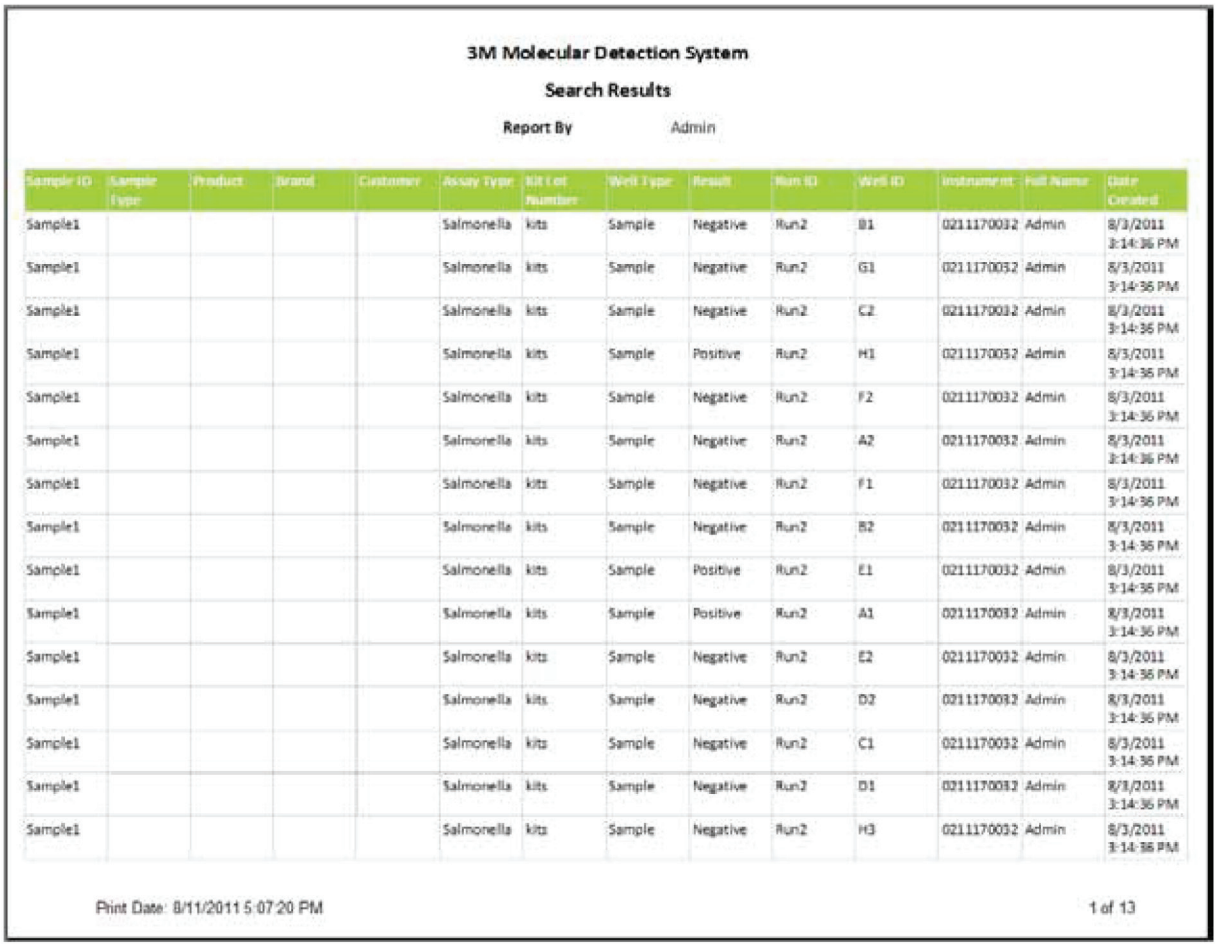
付録

この付録では、3M 分子検出ソフトウェアによって使用、作成されるファイルの例を紹介します。

レポート見本

以下に3M 分子検出ソフトウェアのレポートの例をご紹介します。一部の例は、情報の重複を避けるため簡略化しています。関連するデータはすべて表示しています。

結果の検索



3M Molecular Detection System

Search Results

Report By Admin

Sample ID	Sample Type	Product	Brand	Customer	Assay Type	Kit Lot Number	Well Type	Result	Run ID	Well ID	Instrument	Full Name	Date Created
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	B1	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	G1	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	C2	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Positive	Run2	H1	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	F2	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	A2	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	F1	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	B2	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Positive	Run2	E1	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Positive	Run2	A1	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	E2	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	D2	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	C1	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	D1	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM
Sample1					Salmonella	kits	Sample	Negative	Run2	H3	0211170032	Admin	8/3/2011 3:14:36 PM

Print Date: 8/11/2011 5:07:20 PM 1 of 13

検体レポート

3M Molecular Detection System

Samples Report

Report By Admin

Sample ID	Sample Type	Product	Brand	Customer	Hidden	Full Name	Date Created
Test					No	Admin	8/2/2011 8:51:47 AM
1					No	Admin	8/2/2011 12:16:03 PM
2					No	Admin	8/2/2011 12:16:03 PM
3					No	Admin	8/2/2011 12:16:05 PM
4					No	Admin	8/2/2011 12:16:06 PM
5					No	Admin	8/2/2011 12:16:06 PM
6					No	Admin	8/2/2011 12:16:06 PM
7					No	Admin	8/2/2011 12:16:07 PM
8					No	Admin	8/2/2011 12:16:07 PM
Sample1					No	Admin	8/3/2011 3:18:46 PM
Sample2					No	Admin	8/3/2011 3:19:42 PM

Print Date: 8/11/2011 5:10:23 PM 1 of 1

アッセイキットレポート

3M Molecular Detection System

Assay Kits Report

Report By Admin

Assay Type	Lot Number	Expiration Date	Hidden	Full Name	Date Created
Salmonella	SalLot01		No	Admin	8/2/2011 8:51:45 AM
E. coli O157	EcoLot01		No	Admin	8/2/2011 8:52:04 AM
Listeria	LisLot01		No	Admin	8/2/2011 8:52:15 AM
L. monocytogenes	LmLot01		No	Admin	8/2/2011 8:52:25 AM
Matrix Control	MCLot01		No	Admin	8/2/2011 8:53:35 AM
Salmonella	kits		No	Admin	8/3/2011 3:19:03 PM
E. coli O157	kit		No	Admin	8/3/2011 3:19:30 PM
Listeria	lis kit		No	Admin	8/3/2011 3:19:39 PM
Matrix Control	ic kit		No	Admin	8/3/2011 3:19:51 PM
E. coli O157	kit rc		No	Admin	8/3/2011 3:20:26 PM
E. coli O157	kit nc		No	Admin	8/3/2011 3:20:35 PM
Listeria	kit 4		No	Admin	8/3/2011 3:20:56 PM
Listeria	nc kit		No	Admin	8/3/2011 3:21:15 PM
Listeria	rc		No	Admin	8/3/2011 3:21:42 PM
Matrix Control	1		No	Admin	8/3/2011 3:21:47 PM
L. monocytogenes	lmono		No	Admin	8/3/2011 3:22:17 PM
Listeria	lot list		No	Admin	8/3/2011 3:22:42 PM
Salmonella	sal		No	Admin	8/3/2011 3:22:49 PM
Listeria	3		No	Admin	8/3/2011 3:23:10 PM
Salmonella	4		No	Admin	8/3/2011 3:23:31 PM

Print Date: 8/11/2011 5:11:30 PM 1 of 2

完了済みランレポート

3M Molecular Detection System

Completed Runs Report

Report By Admin

Run ID	Run Creator	User	Instrument	Test Date
Run2	Admin	Admin	0211170032	8/3/2011 4:46:00 PM
Run1	Admin	Admin	0211170031	8/3/2011 4:44:19 PM
Run3	Admin	Admin	0211170027	8/3/2011 4:47:51 PM
Run4	Admin	Admin	0211170005	8/3/2011 4:49:01 PM

Print Date: 8/11/2011 5:12:45 PM 1 of 1

ユーザーレポート

3M Molecular Detection System

Users Report

Report By Admin

Full Name	User Name	Role	Hidden	Date Created
Admin	admin	Administrator	No	8/2/2011 3:28:31 AM
User	user	User	No	8/11/2011 5:13:30 PM

Print Date: 8/11/2011 5:13:45 PM

1 of 1

装置のセルフチェックレポート

3M Molecular Detection System

Instrument Self-Check Results

Report By Admin

Instrument	Date/Time	Test	Result
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	SRAM	Pass
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	Firmware	Pass
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	Serial Number	Pass
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	Cal data	Pass
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	Power	Pass
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	Ambient temp	Pass
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	LEDs	Pass
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	Core heaters	Pass
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	Lid Heater	Pass
0211090013	8/11/2011 5:16:22 PM	Photodiodes	Pass

Print Date: 8/11/2011 5:16:26 PM 1 of 1

装置温度記録

3M Molecular Detection System

Instrument Temperature Log

Run ID	Run4	**Instrument**	0211170005:MDS 3
Report By	Admin		

Date/Time	Core Temp. (°C)	Lid Temp. (°C)
8/3/2011 3:34:16 PM	58.7	65.1
8/3/2011 3:34:31 PM	58.8	65.3
8/3/2011 3:34:46 PM	59.1	65.2
8/3/2011 3:35:01 PM	59.5	65.3
8/3/2011 3:35:16 PM	59.6	65.3
8/3/2011 3:35:31 PM	59.7	65.3
8/3/2011 3:35:46 PM	59.9	65.3
8/3/2011 3:36:01 PM	60.2	65.3
8/3/2011 3:36:16 PM	60.2	65.3
8/3/2011 3:36:31 PM	60.4	65.3
8/3/2011 3:36:46 PM	60.4	65.3
8/3/2011 3:37:01 PM	60.3	65.3
8/3/2011 3:37:16 PM	60.1	65.3
8/3/2011 3:37:31 PM	60.1	65.3
8/3/2011 3:37:46 PM	60.0	65.3
8/3/2011 3:38:01 PM	60.1	65.3
8/3/2011 3:38:16 PM	60.1	65.3
8/3/2011 3:38:31 PM	60.2	65.4
8/3/2011 3:38:46 PM	60.2	65.3
8/3/2011 3:39:01 PM	60.2	65.4
8/3/2011 3:39:16 PM	60.2	65.4
8/3/2011 3:39:31 PM	60.2	65.3
8/3/2011 3:39:46 PM	60.2	65.3
8/3/2011 3:40:01 PM	60.1	65.3
8/3/2011 3:40:16 PM	60.1	65.4
8/3/2011 3:40:31 PM	60.1	65.3
8/3/2011 3:40:46 PM	60.2	65.3
8/3/2011 3:41:01 PM	60.2	65.4
8/3/2011 3:41:16 PM	60.2	65.3
8/3/2011 3:41:31 PM	60.2	65.4
8/3/2011 3:41:46 PM	60.2	65.4
8/3/2011 3:42:01 PM	60.2	65.4
8/3/2011 3:42:16 PM	60.2	65.3
8/3/2011 3:42:31 PM	60.1	65.3

Print Date: 8/11/2011 5:14:48 PM 1 of 9

ログのチェック

3M Molecular Detection System

Audit Log

Report By Admin

Date/Time	User	Event Type	Details
8/2/2011 8:29:44 AM	Admin	Login	Application login
8/2/2011 8:53:46 AM	Admin	CreateObject	Created run "08022011 (2)".
8/2/2011 8:54:04 AM	Admin	RunStart	Started run "08022011 (2)".
8/2/2011 8:54:04 AM	Admin	ChangeObject	Changed run "08022011 (2)".
8/2/2011 8:54:28 AM	Admin	CreateObject	Created run "08022011 (3)".
8/2/2011 8:54:46 AM	Admin	RunStart	Started run "08022011 (3)".
8/2/2011 8:54:46 AM	Admin	ChangeObject	Changed run "08022011 (3)".
8/2/2011 8:55:03 AM	Admin	RunAbort	Aborted run "08022011 (2)".
8/2/2011 8:56:03 AM	Admin	RunAbort	Aborted run "08022011 (3)".
8/2/2011 10:06:53 AM	Admin	CreateObject	Created run "08022011 (4)".
8/2/2011 10:07:04 AM	Admin	RunStart	Started run "08022011 (4)".
8/2/2011 10:07:04 AM	Admin	ChangeObject	Changed run "08022011 (4)".
8/2/2011 10:07:33 AM	Admin	CreateObject	Created run "08022011 (5)".
8/2/2011 10:07:43 AM	Admin	GenerateReport	Generated report "Run Layout".
8/2/2011 10:07:59 AM	Admin	ChangeObject	Changed run "08022011 (5)".
8/2/2011 10:08:01 AM	Admin	GenerateReport	Generated report "Run Layout".
8/2/2011 10:08:40 AM	Admin	RunStart	Started run "08022011 (5)".
8/2/2011 10:08:40 AM	Admin	ChangeObject	Changed run "08022011 (5)".
8/2/2011 11:22:10 AM	Admin	RunStop	Stopped run "08022011 (4)".
8/2/2011 11:23:45 AM	Admin	RunStop	Stopped run "08022011 (5)".
8/2/2011 12:04:44 PM	Admin	CreateObject	Created run "08022011 (6)".
8/2/2011 12:04:56 PM	Admin	RunStart	Started run "08022011 (6)".
8/2/2011 12:04:56 PM	Admin	ChangeObject	Changed run "08022011 (6)".

Print Date: 8/11/2011 5:20:16 PM 1 of 5

ランレイアウト

3M Molecular Detection System

Run Layout

Run ID 08112011(2)
Run Date
Technician Admin
Run Comment

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	SAL:RC	SAL 9	ECO:RC	ECO 9	LIS:RC	LIS 108	LM:RC	LM 208	MC 1	MC 9		
B	SAL:NC	SAL 10	ECO:NC	ECO 0	LIS:NC	LIS 109	LM:NC	LM 209	MC 2	MC 10		
C	SAL 3	SAL 11	ECO 3	ECO 11	LIS 102	LIS 110	LM 202	LM 210	MC 3	MC 11		
D	SAL 4	SAL 12	ECO 4	ECO 12	LIS 103	LIS 111	LM 203	LM 211	MC 4	MC 12		
E	SAL 5	SAL 13	ECO 5	ECO 13	LIS 104	LIS 112	LM 204	LM 212	MC 5	MC 13		
F	SAL 6	SAL 14	ECO 6	ECO 14	LIS 105	LIS 113	LM 205	LM 213	MC 6	MC 14		
G	SAL 7	SAL 15	ECO 7	ECO 15	LIS 106	LIS 114	LM 206	LM 214	MC 7	MC 15		
H	SAL 8	SAL 16	ECO 8	ECO 16	LIS 107	LIS 115	LM 207	LM 215	MC 8	MC 16		

Well ID	Sample ID	Assay Type	Well Type	Kit Lot Number
A1		Salmonella	Reagent Control	SalLot01
B1		Salmonella	Negative Control	SalLot01
C1	3	Salmonella	Sample	SalLot01
D1	4	Salmonella	Sample	SalLot01
E1	5	Salmonella	Sample	SalLot01
F1	6	Salmonella	Sample	SalLot01
G1	7	Salmonella	Sample	SalLot01

Print Date: 8/11/2011 5:28:11 PM

1 of 6

ランレポート (グラフ表示あり)

3M Molecular Detection System

Run Report

Run ID	Run1	**Run Date**	8/3/2011 3:29:19 PM
Run Status	Completed (requires examination)	**User**	Admin
Technician	Admin	**Report By**	Admin
Run Comment		**Instrument**	0211170031:MDS 2

Well ID	Sample ID	Assay Type	Well Type	Kit Lot Number	Result	Comment
A1		E. coli O157	Reagent Control	kit rc	Valid	test
B1	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
C1	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
D1	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
E1	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
F1	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
G1	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
H1	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
A2	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
B2	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
C2		E. coli O157	Negative Control	kit nc	Invalid	
D2	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
E2	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
F2	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	
G2	Sample1	E. coli O157	Sample	kit	Positive	

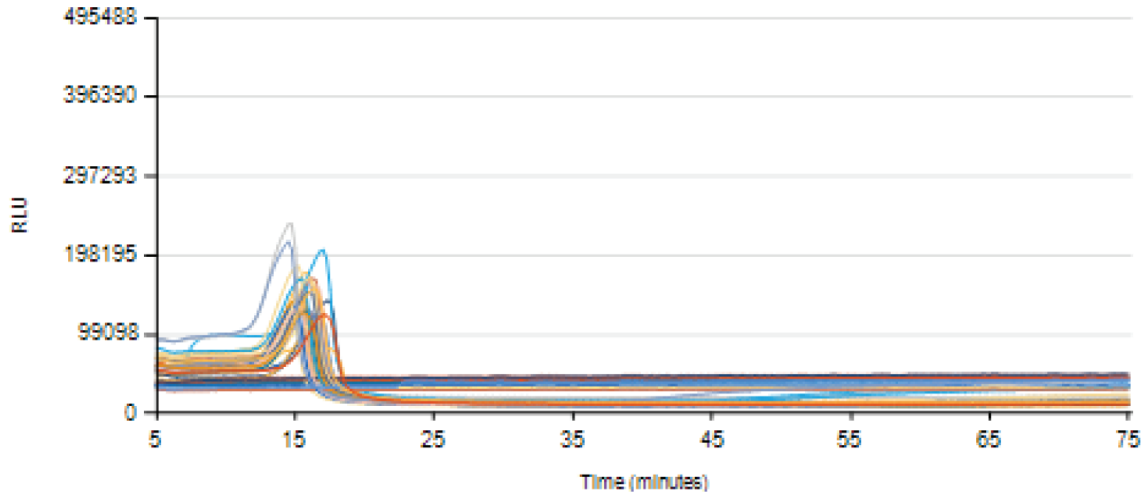
Print Date: 8/11/2011 5:30:06 PM 1 of 9

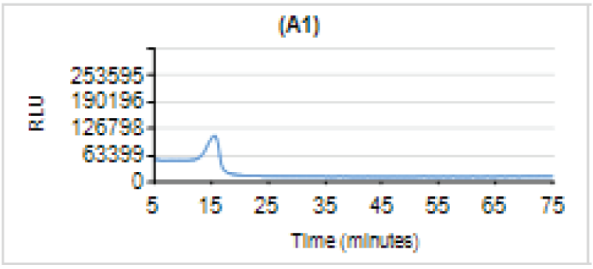
3M Molecular Detection System

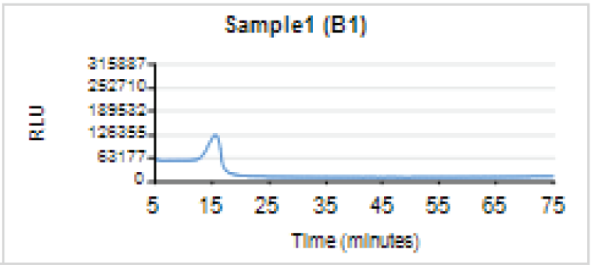
Run Report

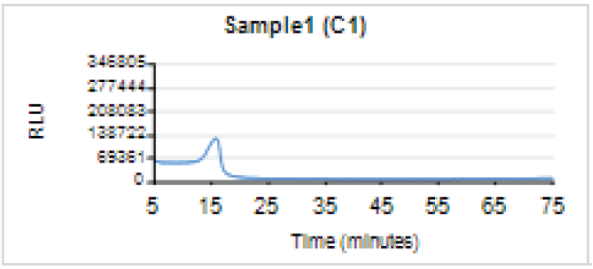
Run ID	Run1	**Run Date**	8/3/2011 3:29:19 PM
Run Status	Completed (requires examination)	**User**	Admin
Technician	Admin	**Report By**	Admin
Run Comment		**Instrument**	0211170031:MDS 2

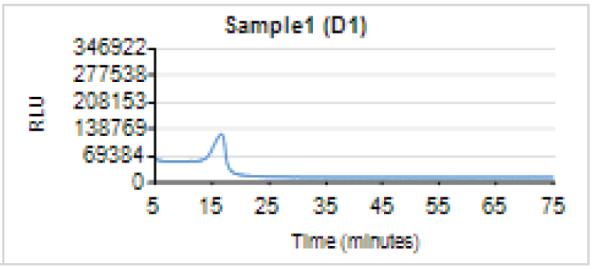
All Results











インポート／エクスポートファイル見本

カンマ区切り値（.CSV）ファイル検体

検体定義のインポートに使用できるカンマ区切り値（.CSV）ファイルの内容は以下の通りです。各ラインは新しい検体の定義で、データが規則的に配列されます。間に文字の入らない連続する2つの区切り文字はブランクフィールドであることを示します。以下のリストは検体の記述子フィールドの位置を最初の定義で特定された値と関連づけたものです。

1. 検体 ID → 検体01,
2. Sample Type → Processed（許容値は本マニュアルの「フィールドの設定」に記載,
3. 種類 → 食肉,
4. Product → Franks,
5. ブランド → ブランド X,
6. ロット番号 → 20110408-A,
7. ライン → 5,
8. 顧客 → 顧客 X.

検体01,加工,食肉,Franks,商品名 X,20110408-A,5,顧客 X

検体02,環境,撹拌機 A,,,,6,顧客 Y

検体03,,,,,,,

カンマ区切り値（.CSV）ファイルの検査セットアップ

検体、ラン、キットロット定義のインポートに使用できるカンマ区切り値（.CSV）ファイルの内容は以下の通りです。データは規則的に配列されます。間に文字の入らない連続する2つの区切り文字はブランクフィールドであることを示します。以下のリストはラン、検体、キットロットの記述子フィールドの位置を最初の定義で特定された値と関連づけたものです。

1. 実行ID → 04062001(2)
2. ウェルID → A1
3. アッセイタイプ → SAL（許容値は、本マニュアルの「新しいランのインポート」項目に記載）
4. ウェルタイプ → 検体（許容値は、本マニュアルの「新しいランのインポート」項目に記載）
5. ウェルコメント → <ブランク>,
6. 再試験 → 不合格,
7. 再試験実行ID → <ブランク>,
8. 再試験ウェル ID → <ブランク>,
9. キットロット番号 → キットロット_SAL,
10. 有効期限 (キットロット) → 2012-12-31,
11. 検体ID → 検体01,
12. 検体種 → 処理済（許容値は本マニュアルの「フィールドの設定」に記載,
13. 詳細 → 牛,
14. 製品 → フランク,
15. ブランド → ブランド X,
16. ロット番号 → 20110408-A,
17. ライン → 5,
18. ユーザー → ユーザー X.

04062011（2）,A1,SAL,Sample,,False,,,KitLot_SAL,2012-12-31,Sample01,Processed,Beef ,Franks,Brand X,20110408-A,5,Customer X

04062011（2）,A2,MC,,,False,,,KitLot_MC,2012-12-31,Sample01,Processed,Beef ,Franks,Brand X,20110408-A,5,Customer X

04062011（2）,B1,SAL,RC,,False,,,KitLot_SAL,2012-12-31,,,,,,,,

04062011（2）,C1,SAL,NC,,False,,,KitLot_SAL,2012-12-31,,,,,,,,

ラン結果のカンマ区切り値（.CSV）ファイル

カンマ区切り値（.CSV）ファイルにエクスポートされる検査の結果の1例を以下にご紹介します。以下のリストは記述子フィールドの位置を最初の定義で特定された値と関連づけたものです。間に文字の入らない連続する2つの区切り文字はブランクフィールドであることを示します

1. 実行ID → 04062001(2)
2. ウェルID → A1
3. アッセイタイプ → SAL（許容値は、本マニュアルの「新しいランのインポート」項目に記載）
4. ウェルタイプ → 検体（許容値は、本マニュアルの「新しいランのインポート」項目に記載）
5. ウェルコメント → <ブランク>,
6. 再試験 → 不合格,
7. 再試験実行ID → <ブランク>,
8. 再試験ウェル ID → <ブランク>,
9. キットロット番号 → キットロット_SAL,
10. 有効期限 (キットロット) → 2012-12-31,
11. 検体ID → 検体01,
12. 検体種 → 処理済（許容値は本マニュアルの「フィールドの設定」に記載,
13. 詳細 → 牛,
14. 製品 → フランク,
15. ブランド → ブランド X,
16. ロット番号 → 20110408-A,
17. ライン → 5,
18. ユーザー → ユーザー X.
19. 結果 → 陽性

04062011（2）,A1,SAL,Sample,,False,,,KitLot_SAL,2012-12-31,Sample01,Processed,Beef ,Franks,Brand X, 20110408-A,5,Customer X,Positive

04062011（2）,A2,MC,,,False,,,KitLot_MC,2012-12-31,Sample01,Processed,Beef ,Franks,Brand X, 20110408-A,5,Customer X,Valid

04062011（2）,B1,SAL,RC,,False,,,KitLot_SAL,2012-12-31,,,,,,,,,Valid

04062011（2）,C1,SAL,NC,,False,,,KitLot_SAL,2012-12-31,,,,,,,,,Valid

ライセンス契約

3M 病原菌検出システムのご購入および同ソフトウェアのライセンスに関しては、以下の条項が適用されます。

3Mエンドユーザーライセンス契約
3M™ 病原菌検出システムソフトウェア
本エンドユーザーライセンス契約（以下「本契約」）は、本契約で特定される本ソフトウェアへのアクセスおよび使用に関する、お客様（以下「お客様」または「ユーザー」）と3Mカンパニー（以下「3M」）との間の法的契約です。本契約で表示される「I accept（同意します）」ボタンをクリックし、または本ソフトウェアをダウンロード、インストール、コピーもしくは使用することで、お客様は本契約により法的に拘束されることに同意したことになります。お客様が、特定の会社または他の法人の代理として本契約に同意する場合、お客様は当該組織を本契約に法的に拘束する権限を持つことを表明および保証します。その場合、本契約中での「お客様」、「お客様の」および「ユーザー」という表現は、当該組織を指すものとします。お客様がかかる権限を持たない場合、または本契約による拘束に同意されない場合は、「I do not accept（同意しない）」ボタンをクリックするものとし、本ソフトウェアのダウンロード、インストール、コピーまたは使用を行ってはなりません。また、3Mの販売代理店に連絡して、3M 分子検出システムを返却して返金を受けることができます。

1. ライセンス
ユーザーが3Mに支払う購入価格に対して、3Mは非排他的で譲渡不可の以下の権利をユーザーに許諾します。(a) 3M 分子検出システムに含まれる3M 分子検出ソフトウェアプログラムのオブジェクトコードを、もっぱら3M 分子検出システム（3Mによりユーザーに提供される全ユーザー文書ならびにあらゆる将来のバージョン、アップデートおよび機能強化を含む3M 分子検出システムのソフトウェアは、以下「本ソフトウェア」とする）と併用して、自社の業務内で、社内で使用する権利 (b) 本ソフトウェアのバックアップ用コピーを1部作成する権利。ただし、本契約で許可されたユーザーによる本ソフトウェアの使用に必要な場合に限る。(c) ユーザーが社内で使用するためにユーザーマニュアルをコピーする権利ユーザーは本ソフトウェアまたはユーザーマニュアル以外のコピーを一切作成しないことに同意します。本契約のいかなる部分もユーザーに本ソフトウェアのソースコードを受領または使用する権利がありません。本契約の目的に関して、3M 分子検出システムには、3M 分子検出装置、ソフトウェアおよび3M 分子検出システムユーザーマニュアル（「ユーザー文書」）に記載される3Mが提供するその他のコンポーネントが含まれます。

2. オーナーシップ
両当事者は、本ソフトウェアが3Mおよび／またはそのライセンサーの独占的所有物であることを認めます。ユーザーは、自己が作成する本ソフトウェアまたはユーザーマニュアルのコピーに、すべての著作権および所有権の告示ならびに本ソフトウェアまたはユーザーマニュアルに表示される類似の告示を再現することに同意します。

3. 使用に関する制限
ユーザーは、本ソフトウェアの貸与、サブライセンス、販売、デコンパイル、逆アセンブル、修正、リバースエンジニアリング、譲渡、または、他言語への翻訳を行わないことに同意します。ユーザーは、ユーザー以外の誰にもソフトウェアのユーザーの目に見えるスクリーンディスプレイ以外のソフトウェアのどの部分も開示しない、またはネットワークまたは他の媒介を通してユーザーの会社以外の誰にもソフトウェアにアクセスさせないことに同意するものとします。

4. 限定保証
3M食品衛生部門のハードウェア(以下「ハードウェア」)は、3M病原菌検出装置および「具体的な製品を記載」および適用されるインストールおよびお取り扱いガイド(以下「ユーザーマニュアル」)に記載される、3Mが提供する関連するソフトウェアおよびその他の構成部品を含みます。

制限付き保証および免責条項
3Mは出荷日から1年間、本ハードウェアがユーザーマニュアルに従い十分に機能することを保証します。この保証は、以下のいずれかの場合には無効です。(A) 本ハードウェアが、3Mによる権限を受けていない人物により修理されていた場合 (B) 本ハードウェが改造、改変または誤用されていた場合 (C) 本ハードウェアが、本ハードウェアとの併用を目的に3Mが提供するもの以外の製品、備品、コンポーネントまたはソフトウェアと共に使用される場合 (D) 本ハードウェアまたはコンポーネントが、他の目的に使用（他の回路基板またはソフトウェアとの使用等）される場合 (E) 本ハードウェアがユーザーマニュアルに従って保守または使用されていない場合。本保証は、法律により禁じられない限り、明示または黙示を問わず、あらゆる他の保証の代わりになされます。こうした他の保証には、特定目的への適合性に関する黙示の保証、商品性に関する黙示の保証、あるいは取扱いもしくは実行の過程から、または商取引上の慣習もしくは使用から発生する黙示の保証などが含まれます。3Mは、本ソフトウェアが一切エラーを生じさせずに機能することを保証しません。

出荷後1年以内に、本ハードウェアが上記に記載される明示的保証に適合しない事態が生じた場合、3Mおよびユーザーに対しての唯一の義務としての救済方法は、1) 不適合コンポーネントの修理または交換2) 購入額の返金

5. 機密保持
当事者は、ソフトウェアおよびその機能と能力に関連する情報は機密性を有するものであり、3Mにより排他的に所有される専有情報（以降、「機密情報」）であることに同意するものとします。ユーザーは、機密情報の秘密を保ち、本契約により具体的に承認される場合を除きこれを使用または開示しないことに同意します。ユーザーは、機密情報の開示先を、本契約により許可された本ソフトウェアの使用に直接関わる役員、従業員および販売店のうち、機密情報の機密性を維持することに同意した者に限定することに同意とします。ユーザーは、機密情報がユーザーの過失によらずに一般的に利用可能となった場合、またはユーザーが、本契約に基づき機密情報を3Mから受領、もしくは開発する以前にかかる情報を所有していた場合には、いかなる機密情報の機密性を維持する責任も負いません。本第5項のユーザーの義務は本契約書の満了または終了後5年間継続されるものとします。

6. 3Mの保証責任範囲
3Mは、法律により禁止されない限り、他のいかなる直接的、間接的、派生的、偶発的または特殊な損害につき、ユーザーまたは他の者に対して責任を負いません。こうした損害には、利益、ビジネス、投資または機会の喪失などが含まれ、3Mがかかる損害の可能性の指摘を受けていたか否かとは関係ありません。当事者は、あらゆる訴因による直接的な損害に対する、3Mのユーザーへの総合および累積責任は、100ドルまたは、本ハードウェアに支払われた価格のいずれか高額の側を超えないものとします。一部の州または国では、法律により上記とは異なる賠償責任の権利が要求される場合もあります。そのような州または国では、要求される最低限の条件が適用されるものとします。

サービスを受けるには、サービスセンターに返送許可証（RMA）番号を要求してください。お電話にて1-800-328-1671（米国）へご連絡ください。

7. 契約の終了
本契約は、(a) ユーザーが本契約のいずれかの規定に関して重大な違反を犯し、かつ、3Mから違反行為に関する書面通知を受け取ってから30日以内にかかる違反行為を是正しなかった場合、または、(b) ユーザーが本ソフトウェアの使用を中止する場合に、終了するものとします。何らかの理由により本契約が終了した場合、ユーザーはただちにユーザーの所有または管理下にあるソフトウェアのすべてのコピーを3Mに返却するものとします。

8. 侵害行為
3Mは、本ソフトウェアが米国の特許権または著作権を侵害しているとの主張により、ユーザーに対して提起されたあらゆる苦情または訴訟を、3Mの自己負担で弁護し、および最終的に裁定されたすべての費用および損害を支払うものとします。ただし、3Mがかかる苦情をただちに書面で知らされること、ならびに当該苦情に関する弁護または和解を行うための情報、合理的な支援、および専属的権限を与えられることを条件とします。当該苦情の弁護または和解において、3Mは本ソフトウェアを引き続き使用する権利をユーザーのために取得するか、本ソフトウェアを交換もしくは修正して本ソフトウェアの使用が侵害行為とならないようにするか、または、これらの救済法が合理的に利用可能でないと3Mが考える場合には、本ソフトウェアの価値が減少したものとしてユーザーにクレジットを認めて、当該ソフトウェアの返却を受け入れることができます。3Mは、主張される侵害行為が、3Mの製造物でない他のソフトウェアもしくは装置と組み合わせた本ソフトウェアの使用もしくは販売に基づく場合、または3Mにより書面で承認されることのない方法での本ソフトウェアの改造または使用に基づく場合には、いかなる責任も負わないものとします。これは第三者の特許または著作権の抵触の申し立てに関するユーザーへの3Mの唯一の責任とします。

9. 賠償
ユーザーは、以下のすべての行為より生じたあらゆる苦情、責任、損失、損害、先取特権、判決、税金、罰金、民事刑罰ならびに費用（合理的な弁護士および裁判費用を含む）に関して、3M、3Mの幹部、役員、従業員、代理店、子会社および関連会社、ならびにこれらの後継者および指定人（以下「被免責者」）を補償し、免責することに同意します。(a) ユーザーによる本契約の違反 (b) ユーザーの3M 病原菌検出システムおよび本ソフトウェアの使用 (c) ユーザーによるユーザー文書を遵守した3M 病原菌検出システムの設置、使用、および保守の懈怠 (d) 米国食品医薬品局が発布する規則および規制など、適用される法律および規制に対するユーザーの不遵守

10. 譲渡
ユーザーは、事前に3Mから書面による承諾を得ずに本契約書または本契約に含まれるいかなる利権をも譲渡することはできません。また、いかなる譲渡の試みも無効となるものとします。

11. 完全な合意

ユーザーは、本契約にその主題に関する3Mとユーザーとの完全な合意が記載されることに同意します。本契約は、当該主題に関して3Mとユーザーとがこれ以前になした口頭または書面による合意およびその他のやり取りのすべてに優先します。本契約の条項が、管轄権を有する裁判所により無効または執行不能とみなされる場合、かかる条項は本契約書から除外されたと考えるものとし、かつ残りの条項は引き続き完全に有効であるものとします。

12. 政府使用

本条は、米国連邦政府による、もしくは同政府のために行われる当該ソフトウェアの取得、または契約、許諾、協力合意、その他の取引もしくは米国連邦政府とのその他の合意に基づく、元請業者もしくは下請業者（あらゆるレベルの）による同政府のための当該ソフトウェアの取得すべてに適用します本ソフトウェアの提供を承諾することによって、アメリカ合衆国政府は、本調達に適用される取得もしくは財務補助規則の意味において本ソフトウェアが「商業的な」コンピューターソフトウェアであることをここに合意します。本ライセンスの条件は、本ソフトウェアの政府の利用および開示に適用されるものとし、他のあらゆる契約条件に優先するものとします。本ライセンスが同政府のニーズに適合しない場合、または連邦法に整合しない場合、米国連邦政府は本ソフトウェアを使用せずに、3Mに返却することに同意します。関連するFARおよびDFARSの条項。本契約の発効日において有効な、FAR 52.212-4「契約条件ー市販品」およびFAR 52.212-5「法律の施行または大統領命令に必要な契約条件ー市販品」は、参考資料として本契約に組み入れ、その一部となります。本契約が国防総省との契約である場合、DFARS 252.212-7001「国防総省による市販品の取得に適用される法律の施行または大統領命令に必要な取引条件」が参考資料として本契約に組み入れられ、その一部となります。

13. 準拠法

本契約は、ミネソタ州で締結および実行される契約に適用可能な同州法律に準拠して解釈されるものとします。本契約に起因する、または本契約に関連するすべての訴訟は、ミネソタ州ラムジー郡に所在する裁判管轄権を持つ州立裁判所および連邦裁判所に専属的に提起されるものとし、ユーザーはかかる裁判所の人的裁判管轄権に取り消し不能の形で服します。本契約は、1980年の国際物品売買契約に関する国際連合条約の適用を受けないものとします。

ユーザーは、3M 病原菌検出システムを使用する為に本契約の条件に同意してください。万一この条件に同意することがユーザーにとって不本意であれば、同システムを返却しかつ、払い戻しを受けるためには、3Mまでご連絡下さい。

3M Food Safety

3M United States
3M Center
Bldg. 275-5W-05
St. Paul, MN 55144-1000
USA
1-800-328-6553

3M Canada
Post Office Box 5757
London, Ontario N6A 4T1
Canada
1-800-563-2921

3M Europe and MEA
3M Deutschland GmbH
Carl-Schurz - Strasse 1
D41453 Neuss/Germany
+49-2131-14-3000

3M Latin America
3M Center
Bldg. 275-5W-05
St. Paul, MN 55144-1000
USA
1-954-340-8263

3M Asia Pacific
No 1, Yishun Avenue 7
Singapore, 768923
65-64508869

3M Japan
3M Health Care Limited
33-1, Tamagawadai 2-chrome
Setagaya-ku, Tokyo
158-8583, Japan
81-570-011-321

3M Australia
Bldg A, 1 Rivett Road
North Ryde, NSW 2113
Australia
61 1300 363 878

3M

3M Health Care

2510 Conway Ave St. Paul, MN 55144 USA
www.3M.com/foodsafety

© 2011, 3M. All rights reserved.
3M is a trademark of 3M. Used under license in Canada.
34-8708-6511-9